

目次

はじめに

ゼンチョ『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』をハッピーウしてからイチネンほどたった。コンカイはブンリョウをジュウマンジテイドにふやしたので、イチネンでまたこうしてチョシヨをおもてへだせるかはわからなかった。しかし、おわってみるとアンガイはやくかきおわった。わたしのいいたいこと（とっていいかわからないが）が、サクネンよりふえたのかともおもう。しかし、かくのはラクでも、ダッコウ、ヘンシュウのサギョウはかなりジカンがかかった。ジッシツイッカゲツちよっとだが、サンカゲツほどかかった。そのクロウがあって、いまはヘンシュウにめどがつきほっとしている。

ジカイはコンネンチュウにだせるかであるが、シッピツチュウである（ハンブンテイドかきおわっている。）。ジツはネットワークでレンサイをしている。おきにめせばゴランいただければとおもう。すきなことをかいているが、わたしのあたまのなかをセイリするモクテキもあるのでゴカンベンいただきたい。またコンカイもカタカタイショウヒョウをつくった。カタカナゴがわからないばあいにサンショウしてほしい。

イチ

「ひやめしをくわせる。」などというが、「ひやめし」はあまりジュウヨウでないひとにくわせるという。つまり、だれかのいえにいて、ひやめしがでてきたら、あまりカンゲイされていないということだ。これはブンカとかフチョウであるからさからいづらい。わたしはひやめしをよくたべる。わたしのいうコウゾウシュギテキにえば、「わたし」は「わたし」にとってカンゲイされていないことになる。そういうブンカ、フチョウコウゾウがあるのだからそういうことになる。しかし、わたしはわたしにひやめしをだすときけって「カンゲイ」していないわけではない。ただ、あたためる（ヒツヨウがあるにせよ）にはエネルギーがかかる。そこまでしてあたたかいものをたべたいとはおもってないからだ。これはキノウシュギテキで「エネルギー」のセツヤクがモクテキされている。しかし、ブンカやツウヨウするフチョウからすれば「カンゲイされていない」というイミがそこにあるとされてしまう。いやいやそういうことではないんだ。といても、コウゾウをダイジにするひとからは、「カンゲイ」していないやつ、「カンゲイ」されていないやつといわれてしまう。しかし、わたしは「ひやめし」をたべることをやめない。そのコウゾウをまもることよりも、エネルギーのセツヤクのホウがユウセ

ンされるのである。

わたしもダイブ「コウゾウシュギ」テキになったが、ときおりこういったダツコウゾウするのである。わたしはジチョ『アルクカラカンガエル』で、「ダツチ」をテイショウした(●『アルクカラカンガエル』[イカア]ヒャクロクジュウシチ)。「ダツチ」とは、あるチシキがあると、その「あることがら」にタイして、センニューカンをもってしまふことがあるが、そういうヘンケンといったりするが、そういうみかたからダツして、ジブンジンでカンサツしてみようということだ。そういう「ジゼンチシキ」もキョウイクなどでキョウカされたり、いくつかのコウゾウをたもっていたりするから、ユウキがないとダツコウゾウはできない。たとえば、キンリをさげるとひとがショウヒをはじめるといふセツがある。ツウカのカチがさがるわけだから、ほかのものにシサンをうつすというまっとうそうなセツだが、これはかならずしもただしくない。キンリがさがるといっても、さがるキンリはセイサクキンリ(コウテキキカンとギンコウのとりひき)についてだけだから(サラキンがキンリをさげるわけではない)、ケッカ、ひととギンコウのとりひきにはそうエイキョウはない。さらにコクガイシジョウもあるので、ニホンではキンリがさがっても、コクガイのキンリがたかいツウカやショウケンでウンヨウすることができる。だから、キンリがさがってもキンリはさがらないのである。こういうことも「ダツチ」をするとみえてくる。

二

「チイキのエンがうすれた。」というようなはなしをきく。チイキのキョウドウタイがちからをうしなったというようなはなしである。やなぎだくにおによれば、むかしはさかななどのショクリョウをチイキでイッセイにコウニューしていたという。つまり、むかしはチイキではおなじようなものをたべていたということである。それがメイジイコウ、それぞれショウテンでさかなをかったり、ヤサイをかったり(つまりトシカした。)、いまではダイキボショウテンでにくをかったり、カコウショクヒンをかったりしている。このレイをひいてなにいいたいかというと、キョウドウタイをコウセイするコジンがたべるものが、それぞれになったということである。おなじチイキでくらすエーさんはゆうごはんにカツどんをたべ、またおなじチイキでくらすビーさんはやきざかなをというグアイである。つまりそのエーさんとビーさんはキョウツウのヨウツがすくない。いや、「セイブン」といったホウがよいかもしれない。つまり、おなじものをたべていたむかしとくらべて「キョウツウセイ」がすくないのである。だから、チイキのエンはうすくなったといえとおもう。いや、もっともイッショのものをたべなくなったホウがさきか、チイキのエンがうすくなったホウがさきかはわからない。しかし、それがカンレンしあって、「チイキのエンがうすくなった。」といわれるまでにシンコウしたのだろう。しかし、レイガイもある。それはガッコウキュウショクをたべるショウチュウガクセイである。かれらは、さきにセツメイしたようにおなじものをたべているがゆえに「こい」キョウドウタイなのだろう。おなじものをたべるカゾクもそうだ。しかし、おとなはキュウショクをたべるキカイがあまりないから(シャインショクドウやピョウインでたべる

ことがあろう。)、チイキキョウドウタイはちからがよわまったままだ。ムリヤリおとなにもキョウシヨクをたべさせるようになれば、チイキキョウドウタイのちからはつよまるだろうが、「むかし」のように、つまりチュウセイのようになる。これを「サイチュウセイカ」とよんでおく。いってみれば「グローバルカ」のギャクである。

サン

ニホンのガッコウのソツギョウシキにはおくることばの「ソウジ」とソツギョウセイのことばの「トウジ」がある。その「ソウジ」をよみあげるヤクになって、よみあげるブンショウをかんがえた。そこまではよかった。しかし、レンシュウでよみあげてみると、シドウのキョウシがおまえのはカンジョウがこもっていないとかいう。それはもっともなのかもしれないが、ガッコウのカテイをおえて、つぎにむかうソツギョウセイはタショウなりともカンガイぶかいだろうが、ただみおくるザイコウセイにとっては、いや、すくなくともわたしにとっては、あまりカンゲキというのがなかった。たしかにおおゲンカしたり、なんかのギノウにたけていたりトクシヨクがあるソツギョウセイだったらちからがはいるテンがあるだろう。しかし、わりとまじめなソツギョウセイだったから、やはりカンジョウがはいりづらかったんだろう。だから、ナンドもナンドも「カンジョウ」がこもったよみあげができるよう「エンギ」シドウをうけた。

いまかんがえてみると、「カンジョウ」がこもったよみあげをキカイにやらせるにはギノウがヒツヨウだ。ずっと、「ド」のおとでよみあげるといわゆるぼうよみになるが、「ドレドレミレド」というようによめばいわゆるカンジョウのこもった（とおもわれる）よみあげになる。

いま、そんなエンギをするんだったら、シドウのセンセイに、「グタイテキなおとをシテイしてください。できればゴセンにかいて。」といってしまうだろう。それほどやりなおしをさせられたことをおぼえている。そうしないですますには、「ソウジ」のブンをカショウするとよいだろう。

ヨン

いつからだか、「スパゲッティ」や「ピザ」がはやりだしたようなきがする。また「ラーメン」とか「パン」もなにかとうれているようなきがする。しかし、ひるごはんに、スパゲッティをたべたロウドウシャがテッコツをもちあげられるきがしないし、ひるめしにラーメンをたべたカイシャインがモクザイをタクサンはこべるとはおもえない。

ジツはそうやって、ニホンケイザイは、ちからしごとがゲンショウして、デスクワークのわりあいふえたのかもしれない。「シヨク」のヘンカがさきか、「シヨクギョウ」のヘンカがさきかはわからないが、すくなくともタイリヨクをつかわないしごとがふえているだろう。このケイコウはバブルのあたりから（パンとラーメンはまえからよくあった。）つよくなり、いまもつづいているようだ。きつくいえば、ニホンジンのヒンジャク

カがすすんでいると。

そのころから（ケイザイの）テイセイチョウがはじまった。そういうショクリョウをこのみつづけるとしたら、（ケイザイ）セイチョウはむずかしいとおもう（やはりタイリョクショウブであろう）。むかしのセンソウは「ショク」にこまったらしいが、そのケツカだろう、たたかいつづけられなかった。いまはたべるものがあるとはいえ、エイヨウカのひくいものでは、たたかいつづけるのはむずかしいであろう。

ロク

ニホンジンはクイズがすきなのだろう。テレビバングミでもやっているとおもう。わたしはそういうのはすきではない。ショウチュウガクセイのころは（ベンキョウというクイズを）ときおりやっていたが、まあまあのホウだった。タブンそうやってあるテイドのジカンをすごすから、「クイズ」にテイコウないひとがおおいのだろう。

サイキンはそういう「クイズ（シケン）」のカイトウをデンシサイトからひっぱってきてカイトウすることもあるときく。それでよい、わるいというのだが、どうせ「キョウカショ」からこたえをひっぱってきて、カイトウヨウシにフクシャするのだから、ガクセイならそれでわるいことはないとおもう。

しかし、そういったデンシキョウカショがはやると、かみバイタイのキョウカショがうれなくなってしまうだろうから、キョウイクサンギョウからは、わるいというヒョウカがでるのだろう。わたしはジュギョウでつかったものイガイにクイズボンのクイズをといたことはない。カッコウがいいからとかったことはかったが、ケツキョクつかわずショブンしてしまった。クイズはとかなかったがホンはそこそこよんだとおもう。やっぱりジッサイテキなクイズをとかなければとおもう。

シチ

ニジュッセイキなかばのセンソウでは、いろいろなセンカンがしずんだ。「やまと」もそうだし、「むさし」もそういわれている。クウボも「かが」とかがしずんだのだろう。これらはだいたいむかしのニホンのチメイである。だから、「ニホンがしずんだ（しずむ）」といういいかたはコウトウムケイではない。サイキンきかれなくなった「やまとだましい」も「やまと」がしずんだのだから、「しずんだたましい」みたいなはなしになる。「やまとなでしこ」もそうだ。そういうわけがあるから、「やまとなでしこチーム」とはいいわずに「なでしこチーム」というのだろう。

むかしのレキシをダイジにするなら、「やまと」などはうみのそこからひきあげたホウがいいのではないかとおもう。「しずんだ」とほかのことでいわれるのでなく、「サイフジョウ」といわれたホウが、きもちがあかるい。だが、なんマントンのふねをひきあげるにはクロウするだろう。うきぶくろでうかせるのではだめか。

ハチ

ニホンジンにとって、このふゆはさむいものになりそうである。それはあぶらのねだんがあがるだろうからである。そうするとデンキリョウキンもあがる。くにのタンイでみれば、ユニウガクがふえてボウエキあかじがでかねない。それはつまりおおきくみたコジンのカテイがあかじになるということである。これはヘイキンテキないかたなので、そんなにくらしむきがかわらないカテイもあるだろうが、あまりおかねをもっていないカテイにとってはシカツモンダイとなる。ヘンサチでいうとゴジュウイカのカテイがあかじになるということだ。つまり、ニホンのゼンカテイのハンブンが「あかじ」になるわけだ。だからネンリョウをダイジにつかわなければならない。それができなければあかじだ。

わたしはあまりさむいときは、コートをきてねることにしている。チャンチャンコならワフウだが、あまりうっているのをみかけない。これがあつたかいので、ねるときにダンボウはヒツヨウない。ニツチュウにつかってもよい。ダンボウダイがセツヤクできる。とはいえ、こたつをつかっている。ヘヤゼンタイをあたためるとねつがムダになる。テンジョウまであつたかくするヒツヨウはないからだ。ブンテキにあつたかければよい。あとエネルギーをつかうのがフロだ。シャワーならつかったブンだけであるが、ゆぶねをつかうとヒヤクリットルイジョウをわかすことになる。だからわたしはキョクリョクゆぶねにははいらぬ。みずあびですませるのである。

こうしたクフウで、さむいふゆをすごせばあかじはへっていく。ドリョクすればいいのである。くにのボウエキがあかじということは、コクナイのいえやキギョウのソウワがあかじということだ。なかにはくろじのいえやキギョウもあるだろう。しかし、ゴジュッパーセントイジョウのカテイやキギョウがあかじだと、もはや「チュウリュウ」とはいわぬ。

いまのところシサンがあるだろうからモンダイにはならないが、あかじがつづけばやがてそれもつきる。たとえばイチジョウエンのボウエキあかじだとしたら、ダイタイひとりあたりイチマンエンのあかじだということになる。キュウリョウがサンジュウマンエンあれば、たいしたガクでないようだが、まみずのイチマンエンなので（ボウエキはコクサイトリヒキだからシンヨウのあるツウカでおこなわれる。キュウリョウはかならずしもそうではない。）おおきいとおもう。キュウリョウをはらってくれるだれかもイチマンエンのあかじだから、さきざきキュウリョウはへるだろう。

もしそれでも「チュウリュウ」なんてことばをつかうとしたらそれは「ビンボウ」のことだ。ネンリョウのセツヤクもそうだがほかのムダもはぶいていかなければならない。わたしはみずのセツヤクもしているが（●『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』[イカむ]ヒヤクニジュウロク）、もっとムダをはぶいていかなければならないとおもう。いまは「フケイキ」ではなくて「ビンボウ」なのだとしなければならぬ。

キュウ

ふゆになるとよくみるとりがいる。タブンきたのハウからやってくるのだろう。わざわざさむいところに行くとりがいるというはなしはきいたことがない。そのとりをよくコンビニでみかける。チュウシャジョウによくいるのだ。たかいところではないからキケンだろうに、しかしよくいる。なぜ「コンビニ」なのか。かんがえてみると、このニジュウネンで、コンビニはゼンコクテキにひろがった。いまではショウガッコウとチュウガッコウのかずよりおおくのコンビニがゼンコクへひろがった。

そこでこうかんがえるのである。あるひとがとおくへリョコウにいったとする。そこでキュウにひげそりがヒツヨウになったらどうするか。そのひとがジタクちかくのコンビニでいつもかっていたとするならそのひとはリョコウさきでもコンビニでかうだろう。コンビニにあるショウヒンはゼンコクでほぼドウヨウだからである。つまりそのレイとおなじように、きたからやってきたとりもコンビニがいいのではないか。タブンチュウシャジョウでひなたぼっこしているからなつもきたのハウでそうしているのだろう。

ジュウ

よくニホンでは、おとのなるケンバンガッキのことを「ピアノ」という。イタリアゴで「ピアノ」というと、「よわく」ということらしい。じゃあ「つよく」はひけないのかとなるが、ジツは「ツヨク」もひけるらしい。だから「ピアノフォルテ」というのがセイカクなヒョウゲンのようだ。「フォルテ」はイタリアゴで「つよく」だ。つまり、おとがでるケンバンは、「よわく」も「つよく」もひけると。でもニホンでは、あまりつよくひかないのだろう。「ピアノ」としかいわない。タブン、キンジョメイワクはやめようということだろう。

ジュウイチ

わたしのオヤジがしんでイチネンになる。イチネンまえのキョウはビョウインにいき、コキュウがあらくなっていることをカクニンしてわたしはいえにかえた。いきているハウはショクジをとらなくてはいけない。ずっとみていることもできたが、ナンニチかつづき、おふくろもたおれてしまうというのをさけたかった。コウタイでみればいいとかんがえた。かえてしばらくすると、おふくろかデンワがあった。それからしばらくでリンジュウだったようだ。かけつけても、まにあわなかっただろう。すぐにいえにむかえるジュンビをととのえた。

なにしろうちは、ゲンカンからいままでチョコセンでははいれない。つまりかんおけがはいらないのだ。うらにわからはこんでもらうジュンビをととのえた。タンカみたいなものにオヤジはのせられてトウチャクした。うらにユウドウしてうちにいれた。サイダンをつくらせてもらってソウシキのはなし。そのゴはジュンチョウにすすんで、サイゴにみたのがカソウばでの「どくろ」だ。はがジョウブだったからちゃんととのっていた。なるほど、カハンシンのほねからつぼにいれるのだとカンシンした。オヤジもジュジョ

をおもんじていたからマンゾクだろう（「マンゾク」というのはどうかとおもうが。）。
イッカゲツちょっとたってノウコツした。それっきりだ。ただ、オヤジは「いきること」とはどういうことかをおしえてくれた。しにそうになると、イドウができるキセイして
いたちいさなむしなどはにげるのだろう。しかしイドウのできないサイボウなどはヒッ
シになっていきながらえさせようとする。セントウにまけたヘイとおなじだ。にげられ
なきや、ポタイをおもんじ、うちじにするかコウフクするまでたたかうだろう。「いきる」
とはそんなものだ。

ジュウニ

もしレキシをサンゼンネンくらいやりなおしたら「カレー（あのカレーである。）」はも
うイッカイハツメイされるのであろうか。それほどむずかしいリョウリである。もっと
いうと、あとサンゼンネンくらいつと「カレー」なみにすごいリョウリができてい
るはずである。できてなかったら、「できそこない」で、ジンルイがタイカしたというべき
ではないか。ジカンがあったら「カレー」をイチからつくってみたいものだ。

ジュウサン

ニホンで「サイダー」というと、ムカジュウのタンサンいりのにおいつきサトウみずが
でてくるが、ホンライテキにはカジュウいりのようだ。みなみのくにでは「リンゴ」のカ
ジュウ（かおりだけではないとおもう。）がはいったものがでてきた。そういえばサイキ
ンはタンサンいりのカジュウがはいったのみものがふえてきた。それこそが「サイダー」
なのだろう。ただ、ニホンでうられている「サイダー」ふうインリョウもおいしいとは
おもうが。

ジュウヨン

「ジョセイのシャカイシンシュツ」ということばをきく。ジョセイのノウリョクをいろ
いろなところでハッキできるようにしましょうということらしい。バスのウンテンシュな
んかもジョセイがヤクにつくようになってきた。テレビなんかをみてもキョウミぶ
かい。むかしはジョセイのせりふがすくなかったが（タイガドラマなど）、わきヤクだ
としても「カッパツな」ジョセイをえんじているのをよくみる。むかしは「おしとやか」に
というジョセイのビョウシャがおおかったとおもうが、かわってきたとおもう。シャカ
イガクテキにいえば、「ジェンダー」のありかたがかわってきたということだ。そのイッ
ポウ、「エレベーターガール」がへっているようだが。

ジュウゴ

「ジカン」とはなにかというといには、あるブツタイがあるキヨリをイドウするのにかかるま だとこたえられる（●ア ヒャクジュウゴ、●むサンジュウヨン）。それで、テンタイのイドウをカンサツして、「ネン」、「ゲツ」、「ニチ」、「ジ」、「フン」、「ビョウ」とはかれるようにしている。あまりテンタイをみないひとは、とけいのうごきのホウがわかりやすいかもしれない。「フンシン」がうごいたら、それがうごくまえより「ジカン」がおおきくなっていると。

「もの」がイドウするばあいには「ジカン」というガイネンでかぞえることはカノウだというのにタイテイギはないだろう。しかし、それが「ジョウホウ」だったらどうか。あるデンシブンショがベツなところにおくられるのに、それを「ジカン」がかかるといえるのか。

いまのジョウホウギジュツではチキウナイであれば、ほぼすぐさまおくれるのである。むしろサイキンは「ラグ」などという。そういえばむかしはチキウのうらからのジョウホウが、キタイされているよりおくれることがあった。なぜおくれるか、デンキのながれにムダがあったり、ほそいケーブルでつないでいたりしたために、「ジュウタイ」のようになっていたのだろう。それをおもいだすと、「ジョウホウ（もっというとデンキになってしまうが）」のイドウもやはり「ジカン」がかかるといえそうである。

もし、イドウにカンしてまったく「ジカン」がかからないでカンリョウするなら、もうイドウするジュンジョで（もっともはかりづらだろうが）ケイソクするしかない。トシにいるひとのコウドウをジュンジョづけてハイクするのになにしている。そんなかんじではほとんど「とき」というガイネンがむずかしくなる。それでも「とき」をセイリツさせようとすれば、なにかのブツタイやジョウホウをどこかにイドウさせて（ゼンテイではすぐというか「ドウジ」についてしまうのだが）わずかなずれをさがして、「ジカン」や「とき」にするのだろうか。もっというなら、ドウジにつかないジョウケンをさがすだろう（たとえば、かがみをタイリョウにつかって、あたかもチョウキヨリをイドウさせたかのようなやりかたで）。そうしないと「とき」だとか「ジュンジョ」がむずかしくなるのである。

かりにそういう「とき」のない（すべてイッシンですんでしまう）カンキョウができれば、ニンゲンはブッシツのイドウがイッキにすすみ、あつというまにしんでしまうかもしれないし、ブッシツのイドウをいつでもできるからと、うごかすことをせず、いつまでもいきるかもしれない（いまのところ「シ」はコクフクされていないので、ゼンシャかとはおもうが【ヨダンだが、ひとりのニンゲンがしぬまえに、そのひとのサイボウをセッシュバイヨウしてそだてれば、とりあえずまだいきていることにもなる。モンダイはジョウホウのイテンだ【ジョウホウをイテンしないとなまえすらわからない。】。】）。ニンゲンのジュミョウはハチジュッサイがセンシンコクではヘイキンテキだが、ブッシツのイドウがはやくなると、あつというまにしんでしまうということだ。「シ」までのショリがシュンジにおこなわれるからだ。タンジュンに言えば、ジカンリョコウをするのは、なまけものじゃないと（すぐにしんでしまうから）たえられないのではないかということ。そういうわたしもよくねるなまけものである。タブンねなかったらしんでしまう。ドウジにイドウできるなにかは「ある」が、それはしんでしまっていると、またなまけものは「うごかない」。「デッド」か「セキゾウ（モノ）」がジソウはできないもの

の、かつてジソウしていたかもしれないなにかだろう。ソクドがサイコウの「ドウジ」にトウタツする「ブツタイ」はあるかもしれないが、「あった」のホウがテキセツかもしれない。そのブツタイは「しんでしまう」ゆえにみつからない（「シタイ」はあるだろうが。）。たとえば、なにかのおきものがそうかもしれない。おきものになるまえはイドウしていたと。

「シタイ」や「セキゾウ」からもういちど、サイコウのソクドをもブツタイにすることはむずかしいであろう。ただジンルイは「ひかる」ワクセイをつくりだしているからフシギだ。ニンゲンがつくる「セキゾウ」もキョウミぶかい。ゲンリョウからジンコウテキにつくられたものだが、それにもソクドをつけたりする。バイクやロケットである。しかし、「シタイ」にソクドをつけているようなきがする。

ジュウロク

サイキンわたしは「セキハン」をたべなくなった。イゼンはなんかのときにおふくろがたいてくれた。しかしサイキンはである。ていねいなことに「セキハン」をたくセットがうっているので、それをつかってたくことはできる。「おこわ」というのも、まぜごはんのイッシュだとおもっていたら、「つよい」「めし」のこのようだ。「つよい」というカンジを「こわい」とよむのはあまりきいたことがなかった。そういえば「おこわ」はかたかった。

ジュウシチ

よくいう「すし」というのは、ジツはそうふるいものではないらしい。えどきからメイジのころに「す」をくわえてつくりはじめたのがフキュウしたらしい。それイゼンにも「すし」はあったが、それはシゼンテキにハッコウさせてつくるようだ。いまものこっている「ますずし」なんかがそうなのだろう（ジッサイにセイホウをカクニンしたわけではない）。つくるのにジカンがかかるからゲンダイジンにはむかないのだろうが。「パン」をハッコウさせてつくるくらいなら、そういう「すし」もできそうだが。

ジュウハチ

ことしはわがやのゆずがよくなった。ひどくえだをきられてからサンネンたつ（●アハチ）。きられたとしは、みがならず、ヨクネンもゴコテイドのみしかならなかった。そのヨクネンはニジュッコテイドとれ、ことしはハッココほどになった。あとでみをとろうとしていたら、またおふくろがえだをきってしまった。

どういうフウにきったかという、いわゆるきのかたちである。みきをロシュツさせたかたちだ。それをわたしは「シホンシュギのかたち」とよぶ。それはこういうことだ。みのなるきをショユウしているひとは、わるいひとにみをたべられないように、たかいところにみをおいておこうとする。そのためにわざわざはしごをかう。そうやって、はし

ごというドウグがうれ、「わるいひと（ビンボウニン）」にみをとらせないようなやりかたをするのである。わたしは、ひくいところにみがなってもかまわないのだが、「シホンシュギ」をキバンにするひとはそうやって「シホンシュギのかたち」にするのだろう。
ジュウキュウ

「はなしをきいてイライラした。」とかいう。この「イライラ」っていうのは、「いかりがある」ことをさす。これはジュンスイなニホンゴかというところでもなさそうだ。「イラ」というゴがラテンゴにある。これも「いかり」をさす。だから、メイジのころにラテンゴがすこしニホンにはいつてきてできあがったヒョウゲンではないだろうか。

ニジュウ

わたしはキホンテキにひらがなとカタカナでホンをかいている。いまのニホンのフツウのホンはカンジまじりのコウセイである。わたしはトウショほぼカタカナだけでホンをかいた（『アルクカラカンガエル』ショパン）。ニサクめの『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』はひらがなとカタカナシュタイでかいた（このホンもそうなりそうだ。）。ニサクめをかいていて、これはいけるんじゃないかとおもった。ひらがなにくわえてカタカナをつかうことで、カクダンによみやすくなった。

カンコク（セイホクにあるくに）もドクジのモジでかき、カンジをあまりつかっていないようなので、それをつうじるのなら、ひらがなでもつうじるはずだ。それにカタカナもつかっているんだから、よむのはラクなはずだ。このひらがな、カタカナのニコホウシキでかいていこうとおもう。

ニジュウイチ

「タイムマシーン」というのはよくワダイにだされるはなしである。タブン「できない」けどあったらおもしろいものとかんがえられているだろう。たしかに「ジカンリョコウ」はむずかしい。しかし、のぞくことならできそうである。タンジュンにいうと、チキュウからイチコウネンはなれたところにかがみをおく。そうするとチキュウのあるイチニチのえ（えというよりドウガだろう）がイチネンかけてそのかがみにトウタツし、そこではねかえった「え」がイチネンかけてチキュウにもどる。つまりどういうことかという、ニネンまえの「え」がみられるのである。

くわしくみるにはクフウがヒツヨウだろうが、まあかがみをおくイチをかえれば、もっとちかいカコやとおいカコもみられるようになる。もっともすでにかがみがセツチされていれば、そのキョリかけるニのブンのカコがみられる。そういう「え」をだれかがみているとすると、ものごとのカイゼンがすぐにすすむのだろう。もっともその「え」のみかたによっては「カコ」でセイカツすることもカノウかもしれない。ただしくいうとスウネンおくれの「カコ」である。

ニジュウニ

「わらっている」からおもしろいのか、「おもしろい」からわらっているのかはどちらがさきかはそのときシダイのような気がする。ひとのコウドウ（このばあい「わらい」）をみてというソクメンもあるからだ。いかりのばあいもそうかもしれない。「どなりちらしている」から「はらがたっている」のか「はらがたっている」から「どなりちらしている」のかだ。

ひとりでカンケツするばあい、ゼンシャがおおいひとは、カンジョウハとでもよぶべきか、あまりカンゲイされないような気がする。しかし、「わらおう」とおもったばあい、とりあえず「わらえ」ば、「おもしろく」なるかもしれない。「わらい」でも「いかり」でもそうだが、そういうコウドウはだれかとキョウユウされることがある。それがないと「おわらいゲイニン」のゲイは、どここのブブンがイチバンおもしろかったのかわからない。

ダイタイひとはおなじカショでわらう。「おわらいゲイニン」のホウは、おキヤクがわらうカショがダイタイわかっている。そして「わらい」をねらってブタイにのぞむ。セイリガクテキにいえば、サイボウがコウフンするシゲキをわかっているということだ。もし、あなたがウチュウジンをさがしたかったら、そうおもわれるひとにわらいばなしをするといひ。わらえるだけのしゅきをもっていなかったらわらえない。つまり、「べつもの」かどうかわかるのだ。

「いかり」がキョウユウされると「ボウドウとかなったりする。でも、ひとのカンジョウがながつづきするのはケツコウむずかしいことだろう。ベツのことをやればすぐわすれてしまう。とすると、「ボウドウ」もそうながつづきしないはずである。「ヘヤのデンキをけしわすれてきた。」そんなことをおもいだすと、やっぱり「かえる。」となってしまふ。

カンジョウもニンゲンのタイナイのヘンカだろうが、そういう「いかり」についてのカガクブッシツがカッパツになるから、そのカンジョウが、ながくつづき「ボウドウ」がカノウになるのではないか。だから、まもるほうも「サイレイダン」とか「チンセイザイ」とかをつかったりする。「サイレイダン」はなみだをださせるキタイがこめられたたまだ。このキタイをあびることによって、ひとは「なみだ」をだすハンノウをする。その「なみだ」と「なみだ」をだしたときのキオク（つまり「かなしい」）がそのひとにイシキされ、「いかり」がソウタイテキにおさまっていく。「チンセイザイ」はもっととっとりばやく「いかり」をカガクテキにおさえてしまう。だから、シンジダイのボウドウには「いかりザイ」がヒツヨウなようにもおもう。タンジュンにいえば「ドーピング」だ。モチロン「オリンピック」ではつかえないが。

ニジュウサン

「ダイベン」のことを「ウンコ」とかいったりする。なぜそういうようになったのか。お

そらくシテキなひとが、「そらにうくくものようだ。」といったのではないだろうか。それだけでは、ただの「ウン」になってしまって（セキランウンとかの「ウン」である。）クベツがつかないから「くものこ（ども）」で「ウンコ」になったのではないか。ジツにシテキなはなしである。

ニジュウヨン

ニシンスウとかジュウロクシンスウとかよくつかわれるジュッシンスウでないスウジのかぞえかたがある。わたしなんかはジュッシンスウでなれてしまっているから、ジュウロクシンスウでいわれてもわからない。ガッコウのセイセキもゴダンカイとかジュウダンカイだ。タブンわかりやすいからであろう。シンリガクのケンキュウでは、ゴダンカイとかかなダンカイをよくつかっているみたいだ。タブンそれよりもおおくてもわかりづらいし、すくなくともサがいまひとつわからないのであろう。

オンガクをつくるソフトウェアではジュウロクビットとかニジュウヨンビットとかがある。これはたとえばオンリョウをジュウロクダンカイにくぎるわけだ。サイキンはパソコンがロクジュウヨンビットになったというからロクジュウヨンダンカイもつかわれるのだらう。

ジュウダンカイとかかなダンカイではかるニンゲンよりコンピュータのホウがジュウロクだ、サンジュウニだ、ロクジュウヨんだ、よっぽどこまかくなっているわけだ。だから、パソコンにキブンをたずねると、ゼンブのカイトウはジュウロクとかサンジュウニとかロクジュウヨンとおりになる。それをヤクすと、「ややジャッカン おおげさではなくかなしい」とかセイリをしないとわからないヘントウがかえってくる。ま、おそらかなダンカイぐらいにチョウセイしてヘントウさせるのだらうが。

ニジュウゴ

なにかをハツメイしたひとは「えらい」という。とくに「えらい」とおもわなくても、そのハツメイをリヨウしたものをつかっていたりする。そんなものがタクサンあってセイカツがなりたっていたりする。だから「えらい」だらう。

そういうハツメイがとくにおおかったところを「ブンメイ」という。ガッコウでもおそわるが、メソポタミアとかむかしのチュウゴクとかがそうである。なぜ、チュウトウにテロリストとよばれるひとがおおくて、チュウゴクセイフはイキがたかい。それはイスラムシソウでもチュウカシソウがそうさせるのでもなく、これはおそらくブンメイをもつくにだからであろう。ブンメイをうみだせば、それなりにもうかるだらうし、ジフがでてくる。それをくじこうとすれば、ハンパツするわけである。もうちょっとという、タブン、チュウトウやチュウゴクがおこるあいては、「メソポタミアブンメイ」とか「チュウカブンメイ」をソクケイしていないのである。

ちなみにニホンセイフも「メソポタミアブンメイ」はソクチョウしても、「チュウカブンメイ」をソクケイしていないのだらう。オウシュウのブンメイをシジするのはジュウだが、ブンメイにタイするソクケイはわすれないようにしたいものだ。

ニジュウロク

「ウチュウ」はウンドウタイであろう。チキュウもまわっているし（カクニンしたわけではないが）いろいろごいている。しかし、「ウチュウ」のそとはどうか（わたしはかつて「か」となづけた。）。「ウチュウ」がウンドウタイだとすると、「ウチュウ」のそとはセイタイではないか。アンガイ、「ウチュウ」のそとのむこうに、またウンドウタイがあるかもしれない。そうかんがえると、「ウチュウ」なんてキョジンのいえのセンタクキミみたいなものかもしれない。

ニジュウハチ

「ジカン」を「ジカン」たらしめているのはなにか。「ジカン」をロコモティブ（エル）ではかるとまえにかいた（●むサンジュウヨン、●ホンシヨ [イカ ムヒヨウキ] ジュウゴ）。ではなにがロコモート（イドウ）させるのか。

ニンゲンやドウブツはチキュウジョウではそれなりにうまくあるけるが、ウチュウではうまくあるけない。あるくというよりおよぐだろうが、それはおそろしくクツウなようにおもう。なんらかのスイシンソウチがあったホウがカイテキだろう。

そのスイシンソウチについてかんがえると、「おもさ」でうごけるキヨリがかわってくる。ネンリョウはイッテイとする。つまり「ジカン」とは「おもさ」によってきめられるメンがあるということだ。わたしはイゼンに「ジカン」のシツリョウのことをタイミックとなづけた。ここでのギロンもコウギのタイミックについてだ。おもさをロコモートさせるにはネンリョウ（エネルギー）がヒツヨウである。おもさブンのエネルギー（ここではマサツなどのこまかいジョウケンをはぶく。）がすすむことのできるキヨリになる。つまりジカンである（チキュウのコウテンでイチネンをはかっている。）。

ただし、エネルギーがあっても、かならずしもすすむことにハツドウしているわけではないとおもわれる。つまり、すすめるのにすすまないということだ。それがセイタイのむずかしさだとおもう。おなじエネルギーリョウなら、シツリョウのちいさいホウがよりジカンをもつ。ジカンとシツリョウをかけるとエネルギー（そのキヨリをロコモートするのにヒツヨウなエネルギー）がでる。それをタイミックというかはベツとして。

ニジュウキュウ

ニジュッセイキはアメリカガッシュウコクがコウギョウセイサンのメンでつよかったといわれる。ニジュッセイキコウハンになって、ニホンがそれにつづくようなハッテンをした。ニジュウイッセイキにはいとチュウゴクである。ニホンでもチュウゴクセイヒンがあふれることになっている。しかし、チュウゴクのコウギョウハッテンは、これイジョウカノウなのだろうか。わたしはむずかしいとおもう。

ニホンのジンコウはイチオクニセンマンテイドで、かりにコクミンすべてがコウギョウセイサンをしてもななジュウオクのチキウのジンコウすべてにセイヒンをうってもひとりロクジュツコつづくことができる。しかし、チュウゴクでそれをやると、ジンコウがジュウサンオクだからゴコしかつくらなくてよい。つくりすぎてもかいてがないし、カカクもさがる。それではさすがにたべていくのにクロウするだろう。だから、チュウゴクでもサービスギョウのヒリツがあがるのではないだろうか。

サンジュウ

あるときから、シジョウにチュウゴクセイヒンがでまわるようになった。チュウゴクセイフが「カイホウ」ケイザイをうちだして、キュウジュウネンダイに、センシンコクのキギョウが、チュウゴクホンドにコウジョウをつくったことによる。ジンケンヒがやすいからチュウゴクにコウジョウをつくるが、ジツサイにつくるのはニンゲンでなくキカイをいれてやっているとオヤジからきいたことがある。たしかにそれならどこでつくってもヒヨウはそうかわらないだろう。むしろチュウゴクのケイザイがうわむいたときのシジョウキギョウはねらっていたのだろうといまではおもう。

レイネンダイから、ニホンのシジョウにでまわるチュウゴクセイヒンがふえてきた。それまでガッシュウコクセイやトウナンアジアセイだったヨウフクが、チュウゴクセイだらけになった。ジュウネンダイになると、やすくうられているものはみんなチュウゴクセイだというニンシキができるようになった。デンキセイヒンもそうだ。ダイタイやすくうられているものはチュウゴクセイだ。ザッカもそう。

ニホンセイフはブッカをあげたいとおもっているようだが、やすいチュウゴクセイがはいってきては、そうカンタンにあがるわけではない。ツウカキョウキュウリョウをふやせばブッカはあがるというのは、とじられたケイザイユニットのなかでというジョウケンつきだろう。しかし、いまはエンやすがすすんでいるから、ユニウヒンがたかくなったといえなくもない。だが、チュウゴクゲンとのヒカクでエンがさげなければ、やっぱりブッカはあがらないだろう。チュウゴクがケイザイハッテンして、ジンケンヒがあがったからキギョウはほかのくににコウジョウをうつしそうなものだが、やっぱりチュウゴクシジョウがねらいだったのだろう。あまりニホンシジョウでのチュウゴクセイヒンがへっていないのがゲンジョウだ。

サンジュウイチ

フロイドセンセイ（セイシンブンセキのソ）はファルスをといたといわれる。それはただしいかもしれない。なにかをカンケツさせようとするわけだ。くるまのいきさきも、フロイドセンセイはヨキしていたかもしれない。

くるまはエイゴで「カー」という。ただそれだけではフジュウブンなようだ。サイゴのトウタツ、いってみれば、トウゲンキョウのようななにかがヒツヨウなのだ。そのキタ

イをしてナンニンのひとがくるまをかっただろう。あるひとはそのトウタツテンをみつ
けてしまった。ユウメイなハンバーガーやである。タブンそのカンバンをみて、はいる
ことをきめたんだらう。そういうフウにゴをつづけると「カーム」となる。ただザンネ
ンながらホンライテキなモクヒョウとつづりはちがうようだ。

エイゴがコクサイゲンゴになったといわれるゲンザイだからもっと「カー」がうれるか
もしれないが、エイゴのキョウカシヨはこたえてくれない。フロイドセンセイフウにい
えば、いまのニホンのわかものはキョウヨウがなさすぎるか、タシャにカンシンをもっ
ていないか、キンヨクシュギテキなのだろう。

よのなかの（みぢかなでもいい）おとことおんなのなかがわるくなるほど「カー」はうれ
るかもしれない。トウタツをさがしてだ。いってみれば「カー」がうれることはセイリ
ゲンショウなのだ。そしてそのなかのナンニンかはユウメイハンバーガーテンにはいっ
ていく。それはセイメイのシュクメイかもしれない。そのかわりはあなたがみつけるべ
きだ。コンペンゼーションといわれたいような。

サンジュウニ

さきにエル（ロコモティブ[ウンドウリョク]）イコールダブリュ（おもさ）ブンのイー
（エネルギー）のはなしをした（●ニジュウハチ）。これはわたしのばあい、エルをジカ
ンともかんがえるから、ジカンイコールダブリュブンのイーともいえる（なぜティ[タイ
ム]にしないかという、かならずしもながれるわけではないからだ。ティシしたら、タ
イムというのかわからないので）。しかし、どうやってそれがうごくかまではセツメイ
できない。うごかなかったらエルとはいえない。だから、「ジカン」についていうときは
ただしいかもしれないが、うごくをネットウにおくとジャッカントイセイがヒツヨウで
ある。

うごくとはなにか。それはニンゲンのばあい、あるシツリョウをへらしてドウリョクに
かえることである。グタイテキにはタンスイカブツやサンソをサイボウがドウリョクに
かえることだ。かえたあとのものをコキユウやベンによりハイシュツする。サンソをと
りいれ、ニサンカタソをだす。タンジュンなブンシキゴウのヒカクではだすホウが
シー（カーボン）のブンおおい。つまりそうやってドウリョク（サイボウタンタイをふ
くみ）をえるためにシツリョウ（シー）をへらしている。モチロンたべることをするの
でシツリョウはまたゾウカする。しかし、ウンドウメンにかぎっていえば、シツリョウ
はゲンショウする。ロケットのばあいはうごくたびにネンリョウをショウヒする。だか
らつかったネンリョウのブン、シツリョウはへる。そうやってウンドウをカイシするに
はシツリョウがイチジテキにせよへるのである。

サンジュウサン

ニンゲンはどのくらいエネルギーをもっているのだろうか。タイジュウではかれるとい

われたこともある。それならためしにもちあげてみればよい。ロクジュッキロのタイジュウひとならロクジュッキロのものもちあげられるであろうか。タブンあるテイドきたえていれば、タンジカンもちあげられるのではないだろうか。

とぶこともできる。それもロクジュッキロのひとがロクジュッキロのからだもちあげられるであろう。しかし、タンジカンである。これはどういうことか。ニンゲンはジブンのタイジュウイジョウのちからをハッキできるのだ。つまり、ニンゲンはタンジカンながらそらをとべるのである。しかし、キンニクがたりなかつたり、ちからのつかいかたがよくなくなつたりで、チョウジカンとぶことはできない。いいドウグがカイハツされれば、あしこぎプロペラみたいなのができれば、ながいジカンとべるようになるかもしれない。

サンジュウゴ

ときとともにかわっていくものがある。いや「とき」とともにではないかもしれない。サイキンはえきのベンジョをつかったときにかみがないということはほとんどないとおもう。しかしすこしまえは、ベンジョのいりぐちにかみをうるジハンキがおいてあった。つまりダイベンをすれば、それをかうか、ベツにヨウイせねば、あとがこまることになってしまう。だから、ゴジュウエンかヒャクエンだしてそのかみをかいた。でもサイキンはそういうことはなくなってきた。ひとことでいえば、サービスがよくなったのである。どうしてか。コクテツがミンエイカして、キヤクをダイジにするようになったのであろう。それをシテツもツイズイしたと、そんなところだろう。まあありがたい。

サンジュウロク

あきにうえたキャベツやブロッコリーがそだっている。むしもすくないようでそだつのにモンダイとなるショウガイもすくないようにおもわれた。しかし、とりがかじりはじめた。タブンふゆは、えさがすくないのだろう。えさもしばらくあげなかったからかもしれない（●アゴジュウハチ）。ブロッコリーにいくつきはじめた。そのつぎはキャベツである。やっぱりえさをやらないとだめなのであろうか。またえさをやるようにした。

サンジュウシチ

むかしは、はえたたきをつかっていたがサイキンはみなくなった。タブン、ブツリテキにたたくより、「カガクテキ」にたたくようになったのだろう。かについてもそうだ。むかしはかやをつかっていた。しかしあみどがフキユウしたからか、レイボウがフキユウしたからか、つかわなくなった。ナンゴクのいちばとかはおもしろい。はえよけにちいさなファンでひもをカイテンさせる。それではえがよってこないというやりかたである。あみどのおかげで、はえたたきはヒツヨウなくなったのかもしれない。イダイなハツメイだ。

サンジュウハチ

セカイのとみのハンブンをなんパーセント（ひとけた）のかねもちがにぎっているといわれることがある。それにタイしてけしからんということはできるが、それだけそのかねもちがいいしごとをしたのだからしょうがないともいえる。なにもしないでおかねをかせるわけではないのである。そういうジョウキョウがあるから、そういうとみをショミンにこぼしあたえるみたいなはなしをしたりする。でも、やっぱりゲームセンターのコインゲームのように（●むヒャクニジュウニ）そうカンタンにはこぼれおちるわけではない。どうすればこぼれおちるだろう。どこかにおかねをおとせば、ナンニンかがひろっておわりである。それなら、こぜにをタクサンおとせば、ケッコウなかずのひとがひろえるかもしれない。しかし、そのばにいるひとしかひろえない。

あるキセイをカンワすれば、そのカンワされたギョウシュにひとびとがサンニュウする。それでセイコウすれば、それにカンレンするギョウシュもうるおうのである。これはあらたなかねもちのつくりかただが、そういうチャンスにあたえるのもいいかもしれない。ビョウドウにケツカをあたえると、あまりはたらかないひとが、はばをきかせて、やるきのあるひとやるきをなくしてしまう。かねもちのやるきをうばえば、とみはいきわたるかもしれないが、それはどうなのか。ゴルフのハンディキャップのようなものをあたえたとしても、やっぱりまたおかねをかせいでしまうようにもおもえるのである。しかし、ゼイのルイシンカゼイとはそういうことある。

サンジュウキョウ

ニホンのガッコウではカンジをならう。よむだけでなく、かきかたもおぼえさせる。そうするとカンジをよみかきできるのがそだつ。しかしである。ホンシツテキにそれはダイジなのだろうか。たしかにいまどきのホンはカンジまじりブンでかかれるので、それをよみたければカンジをよむノウリョクはヒツヨウだろう。たしかにそのノウリョクがあればメイジダイのホンもよめる（だがカンジがおおい）。しかし、えどイゼンのショモツはふででかかっている。それはクンレンしないとよめない。それでもそういうショモツをよみたければベンキョウするのだろう。

メイジコウのホンもいまはてがきでフクセイするひともないだろうから、よめればいいのだとおもう。それなら、カンジのガクシュウはよみだけでよいのではないか。デンシキキのフキョウにより、かくわりあいはずくないはずだ。センタクセイにしてしまってもよいようにおもえる。そのあいたジカンになにをやるかはいろいろギロンがあるだろうが。いまはエイゴもジュギョウがあるので、そうするとエイゴまじりブンになってしまうだろう。もっともニホンジンのエイゴノウリョクは、コクサイテキなスイジュンとヒカクしてひくいというから、エイゴをよみかきさせるのもいいかもしれない。

ヨンジュウ

シャカイシュギはシツパイといたり、サイキンではきかないが、シャカイシュギはいいといたりする。だがホントウにシャカイシュギはシツパイなのだろうか。シャカイシュギはシホンシュギとヒカクされたりするが、コンカイは、シホンシュギはダイサンのかんがえかたとしておく。

センシンコクではイッパンテキにシジョウケイザイである。シジョウにはキホンテキにジユウにたちいれる。そしてジユウにパイパイできる。それはニンゲンがものをヒツヨウとするからそのジユウをみたすためである。ものがなかったらニンゲンのセイカツがなりたない。シャカイシュギのばあい、ハイキュウなどがあったりする。そうするとセイカツができるわけだ。ただハイキュウにあるイガイのものはてにはいらない。そもそもつくっていないかもしれない。ハイキュウするシュタイが、なにかをユシュツして、ハイキュウしてほしいとキボウのあったものをユニユウできれば、ハイキュウをうけるようなやりかたでもゆたかにくらせるだろう。しかし、そういうことをつづけたタイコクは、ハイキュウセイドをやめたとき。そしてシジョウケイザイをドウニユウしたのだ。そのタイコクがシャカイシュギのキシユであったため、そのタイコクがやめてしまうと、ほかのちいさいくにもそれにつづくだろう。そういうわけでシャカイシュギをとるくにはすくなくなったはずだ。

そういうジョウキョウからシャカイシュギはシツパイといえるか。そうではない。ジユウシジョウシュギはモチロンつよいが、シャカイシュギもまたつよいのである。そのシャカイシュギとはなにか。カイシャである。カイシャのジユウギョウインは、しごとをしてキュウリョウをうけとる。それはハイキュウをうけとるシャカイシュギのセイドににている。にているというのは、ハイキュウをうけるリョウがまちまちであるからだ。

さてそのシャカイシュギにちかいカイシャはかわるだろうか。チンギンなどがかわった(ノウリョクキュウ)カイシャもできたが、そうはかわっていないかもしれない。また、ヒセイキコヨウなどロウドウシャのありかたもかわったメンもある。しかしながら、カイシャがジユウシュギにかわったというはなしはきかない。

ロウドウシャのジユウシュギはふえたかもしれないが、ハウシュウをうけとるのにクロウするブン、シャカイシュギをもとめるひともあろう。だからジユウシュギとシャカイシュギはタイリツするかはともかく、まだまだジユウヨウなロンテンであろう。シホンシュギというかシホンは、それぞれのセイサンカツドウのおおきさであろうか。

ヨンジュウイチ

すしのレキシはこめでジユクセイさせたさかなのすしから(まずずしなど)、はやずしとよばれるジョウゾウすをつかってタンジカンでしあげるすしがふえてきているゲンジョウにつづく(●ジユウなな)。そのはやずしをブンカイすると、さしみとすめしになるのがゲンジョウだ。そうやって、ホンライはなまでたべなかつたさかな(うみのちかくではたべていただろうが。)をたべるようになったともおもえる。むかしはひものやホン

ライテキなすしにカコウしてチホウにはこんだ。しかし、レイゾウコができるようになり、なまのさかなをはこべるようになった。だから、すくなくともうみからとおいチホウでさしみがたべられるようになったのはメイジイコウだろう。ニホンはエネルギーをユニウしているわけだから、さしみはぜいたくかもしれない。ただでレイゾウコがうごくわけではないのだ。

ヨンジュウニ

ガクギョウセイセキよりもダイジなことがある。とオヤジがいていた。セイセキのツウチヒョウのうらにあったひとがらにカンするようなメンをオヤジはジュウシしたようだ。どちらかという、わたしはとびまわっていたことがおおかったようにおもう。チュウガクセイになって、シケンセイセキがジュンジョとしてでも、わたしはベンガクにはげむことはなかった。シンロだなんだきかされたが、ダイタイこんなかんじとかにおもって、ヘンサチをあげようとかそういうドリヨクはできなかった。そんなわたしをみていったのかもしれない。

そういうドリヨクをしなかったわたしではあるが、たしかにセイセキより、ひとがらがダイジかもしれないとおもうようになった。セイセキはキオクリヨクシケンみたいなどころがあるが、ひとがらというのはイチニチキオクしてどうなるものでもない。まあガクセイだからそれでいいのだとおもうが、しごとだったらとおもう。いずれにせよドリヨクなんだろう。あとでドリヨクしなかったらそうおもえなかったかもしれない。

ヨンジュウサン

さけをナンネンかねかせてシュッカしたりしているようだ。わたしはウィスキーからはいったが、ブランデーもそうだし、ショウチュウもねかせたものがあることをした。ウィスキーを、それがセイサンされたとしのころはなにをしていたかとか、かんがえながらのむようにしていた。そのエンチョウで、ジブンがうまれたとしのさけはどうだとおもい、みつけてかった。ショウチュウにネンスウがたったものがあることをしたのはそのときだ。のんでみるとうまかった。オヤジにもませたらいいかおをしていた。ゼンブのまずにゆっくりのもうとおもっていたのだが、あるときみるとショブンされていた。またさがすのはカンタンではないだろう。

ヨンジュウヨン

ナンポウのくにでいろのついたパンをみた。かぼちゃとかほうれんそうをねりこんだのだろう。でもニホンではというか、うちのちかくではみかけない。ひさしぶりにいいかとおもうが。まあ、ちゃそばやよもぎもちをつくるのだからできなくはないだろうけど。

ヨンジュウゴ

ひとりあたりジーディーピーはトシコッカのホウがたかくでる（●アニヒャクサンジュウイチ）とシテキした。ジンコウがミッシュウしているし、とりひきのキヨリがみじかければヒンドもあがるだろうからだ。だからフツウのくにのスウジとくらべるのはテキしていないかもしれない。そこでジーディーピーをヒカクするために、ミツドわりジーディーピーをかんがえた。

これはくにのなかのヘイキンテキなひとりあたりリョウイキ（トシでもノウチでもない）（ジンコウわるメンセキ）でひとりあたりどれだけセイサンされているかをしめす。いいかえれば、くにのひろさをイチヘイホウキロメートルとしたときに、そのひろさのなかでのひとりあたりどのくらいセイサンするかのシヒョウだ。つぎのスウシキでケイサンする。

ひとりあたりジーディーピーわるジンコウミツドだ。これでトチをふくめてひとりがどのテイドセイサンしているかがわかる。このあたいがひくいばあいのひとつのリウはトシカがすすんでいることであろう。このあたいがたかいとヒコウリツかもしれないが、それもゆたかさではある。かならずしもひとはトシにすみたいとはかぎらないのである。

ヨンジュウロク

オヤジがショウユのことをむらさきといていた。ジショにもものっている。しかし、なぜ「むらさき」なのか。ショウユはむらさきいろかという、そういうわけでもなさそう。ならば、コウカなものとしてそういうのだろうか。

むらさきいろは、むかしのコウキュウカンリョウがみにつけたいろといわれる。わたしはかつてそんなイシキがなかったから、むらさきいろのふくをかっただことがある。しかし、そういうレキシがあっただか、むらさきいろのふくをきているひとにはメツタにであわない。そういうコウキュウなものというイミなんだろうか。

ヨンジュウシチ

セイショには、かみさまがむいかカンはたらいたあとに、イチニチやすんだとかかかっている。だからタブンオウシュウのひとはまねをして、シュウにイチニチやすむようになったのだろう。ニホンではメイジのころにタイヨウレキをドウニュウして、そのかんがえかたをとりいれたのだとおもう。しかし、サイキンはふつかやすみなさいという。なぜかみさまがむいかはたらいて、ニンゲンがイチニチおおくやすむのだろう。たしかにそうすることでハッテントジョウコクにもケイザイセイチョウのチャンスがまわっていく。しかし、それをいっておいてまだまだ「ケイザイセイチョウ」などといっている。ドヨウ

ビ、ニチヨウビにやすんでしまうと、ケイザイセイチョウはにぶるだろう。ジーディーピーがあがらないからだ。だからあそびにいきなさいというかもしれないが、そんなことをいうのは、フキンシンのような気がする。

ヨンジュウハチ

ドラというのはチュウゴクでカイハツされたガツキでないか。たたかいのときなんかにならずような気がする。しかし、ニホンのミュージシャンなんかがつかうドラはオウベイセイかニホンセイだろう。ゴングというヤクもある。それをかたどって「ドラやき」がつくられたのだろう。わたしもすきだ。しかし、チュウカケンのあるくには、ドラをかたどったアイスクリームがある。わたしなんかは「ドラやきアイス」というていたが、おいしい。だが、そのドラやきだ、ドラやきアイスのルーツは、パンケーキにあるのかもしれない。ホットケーキというやつである。

ヨンジュウキュウ

ジンセイがすんなりすすむひとがいるし、スムーズにすすまないひともいる。わたしはコウシャのホウだった。チュウガッコウにかよっていたぐらいから、スムーズにいなくなかった。タンにベンキョウがきらいだっただけといえばそうだが、ベンキョウイガイにオンガクをみいだした。それはそのゴもつづいた。そうしていると、おややそのほかをそれをやめろというかもしれない。しかし、オヤジやおふくろはハンタイしなかった。ユイツイやがっていたのが、わたしがコウコウにいかなかったときだ。ダイガクについてシュウシヨクしてほしいとおもっていたのかもしれない。しかし、キホンテキには、やってみろだった。わたしがブツブツキカクしたことをセツメイすると、「やってみろ。」とオヤジはいていた。たしかにブツブツいっていてもすすまない。

ゴジュウ

いろいろシツパイをしながらわたしはセイカツしている。それでかんがえるようになった。サイキンになって、さきのかんがえるようになった。といってもタニンのことやシャカイのことは、わたしがどうおもっても、ベツにツゴウがあるからみぢかなことをかんがえる。しごとのヨテイをきめたり、ショウライになにがあったらいいかというブツピンのコウニュウのことをかんがえたりなど。また、としをとるにつれて、わかること、セツメイができることがふえてきている。それをふまえてというわけである。あたらしいなにかというのもカノウだが、やっぱりなれたものの方がいいとおもう。しかし、なかなかえられづらかったり、ダイジにできなかつたりしたこともあるとおもう。まあジブンのツゴウをダイジにいきてきたのだからしょうがない。

ゴジュウイチ

なにかが「かぞえられる。」というときは、ジツサイに「ある」ものをかぞえているだろう。キョリなどをはかるときはまきじゃくなどをつかってはかる。あしをつかってはかると「フィート」というタンイになる。「フット」ということばからだ。

しかし、ホントウにそうなのかというケイリョウもある。「あなたはおこっていますか。」というシツモンをななダンカイでたずねるようなばあいだ。なながもっともおこっていて、イチがまったくおこっていないなどのシツモンだ。サンとかは、ややおこっているとかにセツテイされるだろうが、まあそれでわかることがあっても、ややウサンくささのこのる。これはシンリガクなどでつかわれている。こころが「ある」とされているからこうなんだろう。

しかし、カンサツしづらい。シツモンにこたえるひとしかわからないであろう。だからうそがあるとなりたないケンキュウだ（シンリガクだから「うそ」をふくめてケンキュウしてもいいのかもしれない。）それをもっとつきつめると、「こころ」ではなくて「コウドウ」をしらべる（これもシンリガクケンキュウだ。コウドウシュギとよばれる。）。コウドウはカンサツカノウだからだ。こういったシンリガクのケンキュウにくらべると、ジーディーピーのホウがわかりやすいかもしれない。もっとももとデータなんかみせてくれないだろうけど。ショミンがカンサツできるのはブブンテキなものである。

ゴジュウニ

わたしがガクセイのころウチュウのモシキズをみたことがある。それにはウチュウがまるくえがかれていなかったが、わたしはまるいのではないかとおもう（キュウがた）。コロッケのようなかたちだとしたら、ジョウゲからなにかちからがかかっていないとそうはならない。しかし、そのアツリヨクとはなにかともおもう。かべでもあるのだろうか。すくなくともケンキュウシャのあたまのなかにはある。

ゴジュウサン

わたしがショウガッコウにいたころは、ウンドウができるセンパイがいいとおもっていた。いわゆるモデルというものである。だからわたしもウンドウをがんばっていた。モチロン、ベンキョウができるセンパイもいたのだろうが、ベンキョウができるかはなかなかみえない。ウンドウができるのはみえるのにである。だからそのセンパイがテンコウしてしまっただけからはモデルをみいだせずにはいた。わたしイジョウにウンドウ

ができるセンパイがいなくなってしまったからだ。

それからは、ケッコウテレビゲームをするようになったかもしれない。シミュレーションゲームというのがではじめていた。それからオンガクもはじめた。そのきっかけはバンドブームであった。そういうリュウコウにモデルをみつけて、ベンキョウするわけでもなくオンガクをやりつづけた。いまでもモデルがありますかときかるとこたえづらいが、ケッキョクオヤジなんかがなっているのだとおもう。

ゴジュウヨン

ハチジュウネンダイおわりからキュウジュウネンダイはじめにディスコがはやったときく。わたしもチュウガクセイながら、まねておどったことがある（ディスコにいったというイミではない）。なぜなのかはセツメイできないが、そういうフウチョウだったのかもしれない。それからおどるようになったかというそうではないのだが、ミュージシャンのショーでひとのうえにのっかったり、とんだりしていたことはあるし、そういうクラブでちょっとおどるとはいいにくいだが、からだをうごかしていたことはある。わたしはおどるというよりは、オンガクのホウにいった。いまはディスコはしたびなんだろうか。そういえばしばらくぼんおどりにサンカしていない。

ゴジュウゴ

ガッシュウコクでセイサクホウシンへのハンタイウインドウがおこっているときく。ジブンのところをダイジにするか、ほかとなかよくするかというタイリツだ。それは「ふるいノウ」と「あたらしいノウ」のカットウなんだろう（●アヒャクキュウジュウハチ）。たとえばななジュウハチネンまえからのセンソウでは、オウベイやひがしアジアのくにのひともクロウしただろう。ヘイワがいいにきまっている。

しかし、それはあたらしめのかんがえかもしれない。ジンルイはほかのドウブツとセイゾンキョウソウしただろうし、またゼンインがヘイワをえらぶかといったらそうではないだろうからだ。まだたたかっているチイキもある。だからそういうひとたちとむきあうとしたら、ふるいかんがえもダイジになってくる。そうニンゲンが「あたらしい」ノウばかりつかっていきるわけではないだろうともおもう。タブンほかのくにでおこっているセンソウなどがおわって始めて「あたらしいノウ」のホウにかじをきれるのではないだろうか。

ゴジュウロク

わたしが「モデル」をみうしなっていたかもしれないというはなしをした（●ゴジュウサン）。イシキはしなかったが、ニジュツサイのころからなにがモデルになっていたかと

いうと、ガッシュウコクジンだ。セイカクにいうと、みたわけでないのでモデルではない。しかし、ダイガクのガクヒもジブンではらってとおもっていたし（ジッサイにはらっていた。）、サンジュウのころには、みえないミライというかあれちをカイタクしようとしていた。もっともガクセイとしてうまくやれていたときに、ほかのメンでうまくいかなかったことがあった。ソツギョウすれば、そのままシュウシヨクすることができたかもしれないが、ガクヒがはらいにくくなったことと、まだまなびたいというチシキヨク（わたしはこれを「コウガクレキビョウ【●アニハクニジュウサン】」といったりするが）のためにキュウガクして、おかねをためもうイチネンガツコウに行くセンタクをした。このジテンで、ふつうのフツウのシュウシヨクはむずかしくなったのだろう。シャカイガクなどでいう「ヒセイキシヤイン」とか「ワーキングプア」のみちである。それでジッサイにヒセイキのしごとをつとめさせてもらった。しかし、しごとのカゲンがへただったために（バリバリやればいいというわけでもなかった。）あまりうまくいかなかった。それからジブンのところにあるしごとをするようになった。それならキンムタイドやシュッキンジカンでモンクをいわれることもない。それをいまでもつづけている。

ダイタイのひとはジョウシキテキなしごとを、ジョウシキテキにしているとおもうが、わたしのばあい、あれちをたがやすわけだから、ジョウシキテキではなく（ジョウシキテキにたがやしても、ノウサンブツができるまでながいジカンがかかるだろう。）、ジョウシキはずれたようなドリヨクをしているかもしれない。ただ、いわゆる「コンプライアンス」とかがあるのでムチャはしていない。さきほどシテキした「ノウ」のはなし（●ゴジュウゴ）でいえば、あたらしい「あたらしいノウ」でショウブしている。それがホントウにシャカイにとって、まただれかにとってやくだつかはわからないが、シジョウがハンダンすればいいことだとおもっている。あまりにヒツヨウとされなければ、そのほかのなにかでショウブするだろう。ただ、ドウシツセイがたかいというニホンではむずかしいかもしれない。それでももうジュウネンブンイジョウのしごとをもっているのだから、あとはジッサイにやるだけだ。そのなかからキングができれば、まゝモクヒョウはタッセイといったところかもしれない。

ゴジュウシチ

ニセンネンダイのうたをひさしぶりにきいてみた。アンガイあかるいキヨクがあったのでおどろいた。そのころわたしはクロウしていた。だからトウジのうたもくらのが好きだ。そのころのダイガクセイなんか、そのカシュのドウセダイだから、そういうガクセイはあんまりクロウしていなかったのだろうとおもう。まゝカシュはあかるいのをうたえば、まるでむしがあかりによるように、ひとがよるだろうからいいのだが。でもわたしはアプローチ（サンセイ）しかねる。わたしがエンカもすきなせいもあるが、おもえば、ニジュウダイ、サンジュウダイとくらいあゆみだった。いまはすこしわかるようになった。ジブンがあかりになってというひとはすごいとおもうけど。

ゴジュウハチ

ふゆのあいだは、ゴジになるとひがくれてしまったが、としがあけてダンダンながくなってきた。こうなるともうはるである。はるになるとくさがはえてくる。まだそこまではいかないようであるが。キョネンのあきにうえキャベツとハクサイはまだシュウカクできるようではない。いくらかとりがたべてしまった。ズイブンそだつにはジカンがかかるんだとおもう。

ゴジュウキュウ

アラビアスウジのロクというのはみていておもしろい。もっともパソコンのあるショタイのそれをみていてそうおもったのだが。ロクがタクサンならんでいると、まるでひとがタクサンならんでいるようである。だから「キュウ」はエンギがわるいのかともおもう。ギャクに「ロク」をいやがるひともいるようだが。

ロクジュウ

いぬをかっていたときに、よくサンポにつれていった。「サンポに行くぞ。」とこえをかけたからかもしれないが、フダンのときに「サンポ」というと、めをかがやかすようになった。タンジュンなシゲキとハンノウだが、それはツウじたようだ。えさをたべるのをいつきまつ「まで」ということばもおぼえた。「まで」といってまたせて「よし」でたべていいことにしていた。「まで」をさせたあとに「よしこさん」といってもたべなかったから、クベツはついたようだ。ただ、おいるとそれどころではなくなった。ニンゲンだってそうだろう。サイゴはおだやかにしんでいった。

ロクジュウイチ

ちかごろはミンシュシュギがいいというはなしをよくきく。たしかにそうかもしれないが、それでできることといえば、トウヒョウでギインをえらべるだけだろう。そんなのでセイジがかわるかほうたがわしい。それよりもセイジがかわるのは、セイフがサイケンをうりあびさせられるようなときではないだろうか。つまり、シジョウのホウが「ミンシュシュギ」のセイドよりつよいのではと。ニホンでも、セイジのサイケンイゾンはおおきいから、そういうセイヘンがおこるカノウセイはある。

ロクジュウニ

おいしいものをたべるとしあわせだったりする。しかし、そういうしあわせをじかにえられるひとはすくない。ノウカとか、リョウシとかだ。それイガイのおおぜいは、そう

いうしあわせをだれかにわけてもらうことになる。だからおおぜいのひとにとって、「しあわせ」とはニンゲンカンケイがコウチョウかどうかになる。だから、しあわせになろうと思ったら、ノウカやリョウシになるか、ひととうまくつきあうことをしなければならぬ。

ひとのしあわせをいのるひともいる。しかし、ひとのしあわせとは、ひとづきあいによるから、シャカイにきらわれたひとをてだすけしたり、ショクリョウのメンドウをみたりすることがタイセツなようにおもう。これだとひとだすけになってしまうが、チュウガッコウのエイゴでいわされる「アイブレイギター。」のように、おダイモクをとなえるのではなく、いうのならやればいい。

ロクジュウサン

いまのジュウタクにはガラスサッシとあまどがある（すくなくなったかもしれないが）。フダンにはガラスサッシをしめておいて、よるやあめのときにあまどをしめる。しかし、メイジダイのまえは、ガラスサッシはなかったようだ（やなぎだくにお「メイジタイショウシ」）。だから、あめのときにあまどをしめると、へやのなかはくらくなってしまふ。デントウもそのころはなかったから、そういうときはくらいいいのなかでねてしまったらしい。たしかにくらければできることはかざられている。それを「ガラスサッシ」がかえたといえる。ニンゲンのセイサンセイをあげたイダイなハツメイである。

ロクジュウヨン

チュウゴクのシンテイコクのおわりにコウウとリュウホウというショウグンがいた。シンをたおしたあとのふたりはあらそうようになるが、コウウのサンボウであったハンゾウがたびたびキカイをみつけてはリュウホウをころしてしまふとコウウにいつていた。しかし、コウウはそのキカイをムシしてしまう。たしかにつよかったコウウにとっては、いつでもたおせるあいてだったのだろう。

しかし、それをきかなかつゆえに、コウウのグンやくにはすこしずつよめられ、やがてはシメンソカのジョウタイにおちいつてしまふ。これは、コウウのくにのソのヘイがリュウホウのグンにくんだり、そのトウコウしたヘイがコウウをホウイしてしまつたからさうなつた。そのかこみをやぶつてにげたコウウは、かわをわたるふねにであつた。そのふねのもちぬしは、コウウをのせてにがさうとするが、サイゴをカクゴしたコウウはことわつて、ジブンがのつていたメイバをあたえてしまふ。そのゴコウウはうちとられた。

このレキシからかんがえることは、なにかにつよいものは テキがあらわれてもいつでもたおせるとかんがえてしまふ。そしてユウシュウがゆえにほかのひとのいうことをきかない。コウウもサンボウのいうことをきいていたら、チュウゴクのオウとなれたらう。しかしそれができなかった。ニホンでも「ワンマン」シャチョウがいるとよくいうが、サ

ンボウのことをきかないのでは、ダイセイコウはむずかしいであろう。しかし、サンボウのことをききにくいというのもわかる。それなら、シャチョウ（オウ）、サンボウのふたつのイケンのほかにダイサンのイケンをきいたらどうか。それが、コウオウ（コウウ）のキョウクンのようにおもう。

ロクジュウゴ

むかしのニホンジンにはよくはたらいたのだろう。もっともセングのものブソクのなかで、よくはたらかないとなると、「なまけもの」ともいうだろう。よくはたらいたゆえにセングフッコウがなされた。それはわかるはなしである。しかし、いまは、はたらきすぎというか、はたらかせすぎは、わるくいわれるようになった。これではケイザイセイチョウなどむずかしいであろう。ヒンコンのはなしもきくようになった。わたしもそんなはたらきものでないから、はたらきにてていたときは、ジカンドおりにしかはたらかなかった。だからイチニチジュウハチジカンはたらくというのは、どうもいやげがさしてしまうホウだった。しかし、むかしのひとはそうやってセングフッコウをなしとげたのだろう。そういうブンカもダイジにしなければならない。サイキンわたしはそういうのにすこしなれたメンがある。

ロクジュウロク

「やすい」ものはミリョクテキである。そういうものをかえば、おなじキンでもよりのしめる。おおきなやすうりテンにまけたから、ジエイギョウのちいさなショウテンがつぶれたともいわれる。たしかにジエイギョウのそういうみせは、おおきなみせほどやすすくない。おなじようなショウヒンをあつかっているなら、おおきなやすうりテンにいつてかおうとする。それはわかる。

しかしながら「やすい」ことはそんなにトクなのか。「やすものがいのぜにうしない」ともいう。ひとつのみせでショウヒンがやすくなると、ほかのみせもやすくしようとするかもしれない。そうしないとうれなくなるからだ。そうすると、そのショウヒンジタイのねだんもやすくなる。やすうりテンがやすくしたブンのフリーエキをかかえれば、それはそのみせだけのモンダイだが、ほかのみせもやすくして、そのショウヒンをうろうとすれば、メーカーからのしいれねをやすくしようとするだろう。そうするとメーカーもねびきしてフリーエキをこうむることになる。それがテイドをこえると、メーカーやショウテンはあかじのブン、ジンインサクゲンしたり、ジュウギョウインのキュウリョウをさげたりすることになる。

それはショウヒンをかうホウにはカンケイないだろというかもしれないが、メーカーもショウヒンのヒンシツをさげるかもしれない。そうしないとたちいかないからだ。そうすると、やすいショウヒンをかおうとしていたひとも、ヒンシツがさがったとおもうだろう。この「ショウヒン」がショクリョウヒンだとしたら、やすくかおうとすると「めし」がまずくなるというケツカになる。だから、うまいめしをたべたきや、やすいものをさがさないホウがいいとなる。

ロクジュウシチ

やすうりアツリヨクがシャカイゼンタイにかかっていると、ヒサンなジタイになる。それを「レッカシャカイ」とよぼう。「デフレ」がとまらないとかいうが、そういうジョウタイのことである。さきにのべたように、ショクリヨウがそういうジョウタイになるとヒサンだ。マイニチ「まずい」めしをたべなければならないからだ。コウギョウセイヒンならタショウヒンシツがわるくても（ジコがおこるのはロンガイだが。）、それほどこまらないが、ショクリヨウだとこたえる。そうすると、「まずい」めしはいやだからと、ショクリヨウヒンのねだんだけはあがるかもしれない。

ことわざには「やすかろうわるかろう。」ともある。シャカイゼンタイが「レッカ」するのでなく、「やすい」ものも「たかい」ものもかえるセンタクのジユウをのこしてほしいとおもう。あるひとは「まずい」ものばかりたべるかもしれないが、それはそれぞれのジユウだといえるようにすればとおもう。

ロクジュウハチ

ニンゲンはあることをおもいださないとやがてそのことをわすれてしまう。いやなことだとトクにわすれたいだろう。そうやって「わすれる」からニンゲンはほかのことをできるともいえる。もし「わすれない」ことがあるとしたら、それはニッカのようにおもいだしているかそのことにとりくんでいるかだ。そういうことはわすれないが、そのことにジカンをとられるので、そのほかにできることがソウタイテキにすくなくなる。だから、それをやっているかぎり、キュウゲキなシンテンはないかもしれない。まるで「わすれる」ことがネンリヨウとなってすすんでいるように。しかし、なんでもわすればいいってもんじゃない。ちゃんと「コツ」や「キョウクン」はおぼえておかなければならない。そうしないと、ナンカイやってもおなじシッパイをするひとになってしまう。

ロクジュウキュウ

わたしはオンガクをニジュウゴネンイジョウやっている。バンドブームにエイキョウされてガツキをもつようになった。あまりにショウゲキテキなバンドがあったので、それにまけじといきなりジサクキョクからはじめた。トチュウチュウダンがあったが、まだジサクキョクをつくっている。ながくやっているので、うれるキョク、うれないキョクがあるテイドわかるようになってきた。ジブンでつくってピンとこないキョクはまずうれない。それならピンとくるキョクばかりつくればいいのだが、わたしのツゴウでそれもいかない。だからうれないキョクばかりになる。それはしょうがない。

ななジュウ

おとといパソコンをいじっていたら、キュウにかぜがつよくなった。まだふゆのさむさだが、「はるイチバン」というやつである。ただキショウチョウのケンカイとわたしのケンカイにサがあるかもしれないので、ただしがきつきの「はるイチバン」である。もうそろそろはたけしごとのジキである。

ななジュウイチ

きたチョウセン（チョウセンミンシュシュギジンミンキョウワコク）はケイザイセイサイをうけているという。そういえば、このはなしとはカンケイないが、きたチョウセンセイのスーツをうっていたことがあった。だれかがしいれたのだろう。セキユのユシュツをセンシンコクなどはキンシしているようだ。むかしのニホンはそういうケイザイフウサをうけて、セキユがでるナンゴクへのシンシュツにふみきった。しかし、ブリョクでたたかれた。きたチョウセンのばあいどうだろう。にしのチュウゴクはタショウセキユがでるようだ。しかし、きたにすすめばホウフにある。このどちらのばあいもタイコクあいてである。きたチョウセンがかてるとはおもわない。でもグンはセキユがないとそのしごとをつづけられないので、どちらかにうってでるカノウセイはある。

ななジュウニ

ひとのタイケンはずべてトゥルー（ほんもの）である。それをいうと、ゆめをみるタイケンもトゥルーなのかといわれることもあるだろう。しかし、そのタイケンはほんものである。タンにノウのはたらきだとしても、「タイケン」ジタイはトゥルーだ。そのタイケンするタイショウが、どんなにありえないこととしても、それをタイケンしているということは「トゥルー」なのだ。それをわたしはトゥルーゲンソクという。タイケンするタイショウはまったくイッパンテキでないと、そのタイケンジタイをあるものとしてみとめなかったら、そのひとにとって、いきていないジカンができてしまう。あるタイケンは、あるジョウケンからはなれると、それっきりになってしまうことがある。たとえば、だれかがいっているつまらないはなしだ。そのタイケンは、あるひとのこえのとどくハンイからたちさればシュウリョウとなる。だからタイケンはあるテイド、トウセイカノウである。しかし、はなれにくいタイケンというのもある。それをどうにかして、ジブンのジンセイのイチブにするというのが、できたおとなではないだろうか。かんがえてみれば、テレビドラマなんかをニホンジンはタイケンしたりするのだから、そういうのはトクイなはずである。

ななジュウサン

わたしは、コウコウセイのときにガッシュをすこしやったことがあるが、サイキンいわゆる「ハモリ（「ハーモニー」とらギョウゴダンカツヨウのレンヨウケイ）」をするのがすきになった。セイヨウのうたいてのハモリはうまい。ニホンジンも、うたをタニンズウでうたうキカイをつくるようになったため、そういうことをするようになった（でもシュリユウはカラオケだろう。）。

わたしのすきなハモリは、キュウジュウネンダイによくうれたサッキョクカのひとがするようなハモリでいわゆるジャドウである。フツウはサンドかよんどでハモるが、ワオンをもっとカクダイカイシャクして、そういうおとでハモるのだ。タブン、「すごい」というひともいるだろうが、タイテイのひとは「へたくそ」と、そのハモリのことをいうだろう。しかし、うたっているホウはきもちいいのである。ひとりでうたっているブンにはメイワクをかけない。そういうわけでシーディプレイヤーさまさまである。

ななジュウヨン

ありとぎりぎりすのはなしがある。たしかイソップだとおもうが、きまぐれにしごとをせずにとつとつとしごとをしましよというキョウクンがあったとおもう。でもそれはしごとだけにいえるのではないとおもうようになってきた。かねづかいもとつとつやったホウがいいということである。きまぐれにたかいものをかかってしまうと、あとでクロウする。そうでなくてショウライをみすえて、とつとつとかいそろえていったホウがよさそうなのである。チョキンのうまいひとがいるから、そういうひとはモンダイないだろうが、チョキンがへたなひとはやはりとつとつだろう。そうおもいつつ、シュミのガッキをみてしまう。そんなではいけない。

ななジュウゴ

でるくいほうたれるという。たしかにちょっとなにかにたけていると、うたれることがあるようだ。しかし、ですぎていたらどうだろう。ニバイ、サンバイ、ジュウバイとですぎていたら、もはやそのくいはたたけない。だから、ですぎたくいほうたれないのである。レイネンダイにチュウモクをあびたアイティーチョウジャぐらいじゃ「ですぎ」とはいえないのであろう。

ななジュウロク

「てらからさと」なんてことばがある。メイジジダイのことわざジテンにのっているから、あるテイドしられていたことばなのだろう。さとからやまにあるてらにキフをする

というのがフツウだが、ギャクにてらからさとなにかをおくことをさしていうらしい。もっともいまのジダイには、てらにキフをするというひとはすくないだろうから、このことわざのイミがわからないかもしれない。むかしはそれだけひとはシンジンぶかったということである。ヨーロッパなんかも、ジュウキュウセイキおわりからのキョムシュギで、シンジンぶかさがすくなくなったかもしれない。シンジンぶかいシャカイだと、くうにこまったときにシュッケすればなんとかなったのだろうが、いまはミンカンドンタイが、コンキュウしているひとにショクリョウをくばっているらしい。かみとかほとけとかいわずにくばるようだ。よのなかはかわるものだ。どういふかんがえにもとづいているのか、ケンキュウしてみたいかもしれない。アングアイ、シュウキョウとかキョウダンがみえなくなっているのかもしれない。

ななジュウシチ

エイゴのオルターとは、なにかをかえる（ヘンカさせる）というイミがあるが、ベツにキトウでつかうサイダンというイミがある。どちらがさきにイミづけられたかわからないが、ラテンゴではうたうというイミがあるようだ。キョウカイでうたったりするとき、サイダンなどがあつたかもしれないから、「サイダン」のイミがさきかもしれない。ニホンでも、ジチンサイなどをするときサイダンをもうけたりする。セイヨウのブンカなのかわからないが、マホウをかけるときもそういうのをつかうというインショウがある。ニホンではつつがないというのがジュウシされるが、セイヨウではもしくはエイコクでは、サイダンをもうけるときはなにかをかえるときなのかもしれない。まあ、ニンゲンはドウブツだから、なにかがかわらないとドウブツらしいといえないかもしれない。だからサイダンをおくヒツヨウがあるのかもしれない。

ななジュウハチ

ものごとをシンチョウにすすめるひとのことをいしのはしをたたいてわたるひとだという。いしのはしはガンジョウにできているが、マンイチにそなえてたたいてみるさまをいう。しかしセイヨウでは、ロバ（のチリョク）のはし（アセスズブリッジ）ということばがある。これは、ギリシャのスウガクシャ、ユークリッドのセツのショウメイをコウガクシンのないひとがなかなかやりたがらないさまをいう。つまり、タイダなひとははしをわたらないということだ。たしかにはしをわたらなければジコのシンパイもないかもしれない。

ななジュウキユウ

かなしみのことをエイゴでレイメントという。エイゴではアルファベットのエーをエー

とハツオンする。イッポウ、ヘボンシキローマジでは、エーのことをアとハツオンする。そういうひとたちだと「レイメント」でなくて「ラーメント」とハツオンするかもしれない。サイゴのおとをはしよるフランスゴフウに言えば「ラーメン」になる。わたしはあかるいオンガクより、くらいオンガクがすきだったりする。つまり、ややかなしいホウがこのみだ。それとおなじりユウで、かなしみをあじわいたいひとがいるかもしれない。そういうひとが「ラーメン」(かなしみ)をたべる。ちょっとラーメンのリユウコウのセツメイにはよわかったか。

ハチジュウ

エイゴでチーズというがあまりニホンゴにホンヤクしているのをみない。ガイライゴとしてチーズといっている。それはどうなのかとまえにかんがえてフニユウとヤクした。くさった(ジユクした)ニユウというようにである。しかし、サイキンむかしのひとがヤクしたケツカをめにした。カンラクというのがそうである。かわいた、ラクノウセイヒンというカンジである。サイキンはエイゴでそのままいうのがはやりなのか(エイゴとはかぎらないが)。マニフェストなどとヘイキでいっている。ちゃんと、セイケンコウヤクとヤクしているひともある。もっとも、「マニフェスト」じゃ「フナニモクロク」なのだが。タブンいいたいのは「マニフェスター」で「コウジ」であろう。

ハチジュウイチ

「キリストキョウ」っていうのもヤクしていないことばである。そういわなくてもヤソキョウといういいかたがある。わたしは、ちいさいころガッコウのともだちのエンでワイエムシーエー(ヤングメンズクリスチャンアソシエーション)にいったことがある。あまりおぼえていないが、そのカンレンで、エイゴをならうことになった。イチネンくらいならったろうか。テキストをめくったおぼえがある。そのときおぼえたエイゴはそのページをめくるドウサをさすことばだけである。こどものうちになれさせれば、エイゴをおぼえるといったってそのテイドである。こんなようだから、センキョウシもクロウしたことだろう。

ハチジュウニ

あるショによると、「サンミイッタイ」とは、ゴッドザファザー、ゴッドザソン、ゴッドザホーリーゴーストをさすらしい。わたしはよくわからないが、ながいレキシのなかでかんがえられたのだろう。ひとつシテキができそうなのが、シンリガクでそういうかんがえかたがうけつがれているようなきがする。

フロイドセンセイ(セイシンブンセキのソ)はチョウジガ(キンシなどシドウテキナキノウをはたすとされるこころのイチメン)やジガ(いわゆるそのひとのツウジョウのこ

ころのキノウ) やイド (もしくはムイシキ) があるといった。これはさきのサンミイッタイとにている。また、コウリュウブンセキでは、ひとのころをサンカテゴリーにわけ、おやのようなやくわりをはたすメン、いわゆるおとなのやくわりをはたすメン、こどものようなやくわりをはたすメンがあるとしている。これもやはりにているようにおもえる。やっぱりそういうことをかんがえたレキシがながいのだろう。

ハチジュウサン

ニンゲンがそらをとべるようになるひがくるであろうか。わたしはむずかしいとおもう。なぜなら、ニンゲンはチジョウむけにシンカしたからだ。タンジュンに言えばあしをハツタツさせたということだ。そのあしがおもいから、そらをとぶようになることはむずかしい。だからベダルシキのドウグをつかってとぶというのがただしいだろう。もっているつよみをいかすということだ。もっといえば、てもそらをとべるドウグをもったホウがいいかもしれない。なればこそそことべるようなきがする。

ハチジュウヨン

まえにうちでかっていたいぬは、ほねがすきだった。マンガでそういうえがあるが、あたえるとよくくわえてかじっていた。ほねだけでなく、にくもすきであった。ただ、マンブクのとときだとたべずに、どこかにかくすようだった。よくつちをほっていた。そういうチエがあったらしい。つちのあじがついてしまうだろうが、あなをほったりうめたりしていた。そこらへんにおいておくと、ねこなんかにとられてしまうのだろうか。やっぱりそれなりのリュウがあるのだろう。

ハチジュウゴ

ジュウキュウセイキに、アメリカガッシュウコクでつくられたホンをかっした。そのなかには、カッコクのコッキをショウカイしているブンがあった。しかし、そうタクサンはショウカイされていない。ショウカイされているのはおもにオウシュウである。アジアではふるくからブンメイがハツタツしていたチュウゴクとインド、それとつよいくにをつくったトルコである。ニホンはショウカイされていない。つまり、そのころのガッシュウコクジンのあたまには、「ニホン」というのはなかったということだ。だから、ニチロセンソウでニホンがかっしたというのは、ソウトウショウゲキだったろう。キロクジタイはうそをつかないである。そういうアジアをどうにかしたかったのなら、ニホンはさきのサンカコクとなかよくすべきだったんだらう。いまどきのホンもそういうゲンジツをみせてくれるかもしれない。

ハチジュウロク

ほんだなのセイリをしていたら、わたしがコウコウセイのときにつかっていたキョウカシヨとシリョウがでてきた。わたしは、コウコウセイのとき、シヨドウをセンタクしたのでシヨドウのキョウカシヨとシリョウがでてきた。それをみておどろいた。くずしジについてのシリョウがでてきたからだ。それがみつからなくてもいずれくずしジのペンキョウをしようとおもっていたからだ（●むゴジュウハチ）。シュヒツのホンをよむにはかかせないギジュツだからだ。それで、でてきたシリョウをみて、いいキョウイクをしていたとおもう。スウガクのジュギョウは、わたしが、ヨウリョウがわるいのできらいだったが。そういうジュギョウもあったのだとカクニンできた。

ハチジュウシチ

あのひとはヤンキーよ。とわかいひとがいうと、ちょっとつっぱった、フリョウシヨウネンをさしたりする。これはニホンゴでないが、どうもそういうイミがあるようだ。もとは、アメリカガッシュウコクの人をさすことばだ。フリョウシヨウネンが、そのかみをダッシュヨクとかちやいろにそめるさまが、ガッシュウコクの人にしていたから、そういういいかたになったのかもしれない。しかし、かみをそめても、かおをみればトウヨウジンだ。だから、ヤンキーとはじめのおとにアクセントをつけるのではなく、ヤンキーとあとのおとにアクセントをつけるのかもしれない。

ハチジュウハチ

このふゆになってゆずがまだのこっている。ことしはあまりゆずすい（ゆずのはいったみず[●アニジュウハチ]）をのまなかったからだが。またおふくろがきってしまったために、とげがふえた。ヨネンまえにきられてとげができて、すこしはよくなってきたのである。もうそろそろシュウカクしないといけませんが、なかなかつかいきれないのでゆっくりかんがえている。グレープフルーツにサトウをかけてたべたりするが、そうやってたべたりしようとおもう。グレープフルーツにはサトウだけでなく、ウイスキーやブランドーをかけるのがわたしのオヤジフウだった。

ハチジュウキユウ

わたしはオンガクをつくったりする。もうガッキやサッキョクをはじめてニジュウゴネンイジョウになる。バンドブームにシヨクハツされてはじめた。ただそれでセイコウすることはむずかしいこともわかっていた。だからほどほどにやっていたカンがある。

ただ、いいキョクをつくればうれるのだろうともおもっていた。だからプロのシィディのハンブンのねだんで、いいキョクをテイキョウすれば、あるテイドうれるんだらうとおもっていた。ただそれはあまいかんがえだときづいた。それはシィディのジッセイカカク（テイカではない。）をケイサンしたからわかった。

イチニチにイッカイきくシィディがあるとす。それはネンカンでサンビャクロクジュウゴカイきかれるケイサンになる。イッポウ、イチネンでイッカイきかれるシィディもあるだらう（ゴネンにイッカイきくようなシィディはケイサンからはぶく。）。それはネンカンでイッカイきかれる。そのイチニチイッカイきかれるシィディをジュウマイもっていたとす。そうするとイチマイでサンビャクロクジュウゴカイきくから、ジュウマイでサンゼンロッピャクゴジュウカキくことになる。イッポウイッカイきくシィディをヒャクヨンジュウマイもっていたら、イチかけるヒャクヨンジュウでヒャクヨンジュウカキくことになる。

ここでシィディのねだんをイチマイサンゼンエンとカテイする。イチニチにイッカイきくシィディはネンカンサンビャクロクジュウゴカイで、これをサンゼンエンとすると、それがジュウマイあるからサンマンエンとなる。イッポウイチネンでイッカイきくシィディはヒャクヨンジュウマイあつてもサンビャクロクジュウゴカイにタツしない。それをイチマイブンケイサンするとサンビャクロクジュウゴがサンゼンだから、イチマイはハッテンニイチエンになる。これがヒャクヨンジュウマイだからセンヒャクヨンジュウキュウエン。

これをヘイキンすると、サンマンたすセンヒャクヨンジュウキュウわるヒャクゴジュウでイチマイあたりニヒャクナナテンロクロクエンとなる。つまり、シィディのあるソウテイでのジッセイカカクはヘイキンテキなものイチマイニヒャクジュウエンとなる。だから、プロのハンガク（センゴヒャクエン）にカカクをセッテイすればうれるかというところうけではないということがわかる。なにしろプロ（シィディをだしているのがプロばかりとして）のヘイキンテキなものシィディのねだんがニヒャクジュウエンなのだ。だからまあまあのかんじだとニヒャクジュウエンでうりだすのがただしいだらう。そのニヒャクジュウエンでシィディをうってリエキをだせるのが「プロ」ということになる。フツウそうはできないだらう。でもそれができないのだったら、シュミでオンガクをやるにとどめておいたホウがいい。そういうことだ。

キュウジュウ

もうはるだ。はるイチバンがふいたころに、ショクブツのめがではじめたようだ。なえなどをかってくるキセツになったということだ。ことしはなにをうえるかとかんがえる。いま、ハクサイとキャベツとブロッコリーとダイコンをそだてているので、あまりはたけにあきがない。じゃがいもにしようかとおもう。ハクサイなどはキョネンのあきうえたが、まだシュウカクにいたっていない。ヒリョウをやってソクセイサイバイすれば、はやくとれるのかもしれないが、そのままにするのではジカンがかかるのかもしれない。

キュウジュウイチ

レンタルビデオやがある。イゼンはコジンシホンのレンタルビデオやがあったが、おおてのビデオやがどうやらそういうみせをクチクしたようである。うちのちかくにもイッケンおおてのみせがある。コジンケイエイのみせにはないしなぞろえをしているかもしれない。ただサイキンはあまりもうかっているようにはおもえない。イッカイかりてサンビャクエンほどだ。それでケッコウなしなぞろえだどうしてもイッカイしかかりてのつかないものもでてくる。ビデオについてはあまりくわしくないが、シィディなんかをみても、イッカイもかりてがつかないようなものがあったりする。それでどうやってかせぐのだろうとおもう。

しかし、そのイッポウでシィディやビデオのうりばもあったりする。なるほど。タブンイチづけテキには、「レンタル」はキャクをよぶためのもので、そういううりばでシュウエキをだすのだとおもう。だから、「レンタル」ばかりをリヨウするキャクだけだとやがてそのみせはきびしいことにおこまれる。サイアクつぶれてしまうだろう。そうすると、ディブイディやシィディのレンタルはできなくなってしまう。それでこまるというのなら、みせにかせがせてエイギョウをつづけてもらわなければならない。カカクがやすくなってあるケイエイタイがレッカしてしまうとこまるのはユーザーなのだ。

キュウジュウニ

わたしがこどものころはゲームセンターによくいった。いえにゲームキもあったが、それでもよくそういうところに行ってゲームをやっていた。ところがサイキンそういうみせがすくなくなった。うちのちかくにあったニケンがヘイテンした。なぜかというところキャクがいなかったのだろう。サイキンのこどもは、そういうところであそばないらしい。まあかならずしもこどもはそういうところであそぶわけでないが、そういうこどもやおとながすくなくなったのだろう。つまり、むかしのこどもより、いまのこどものホウがまじめだといえるかもしれない。ただほかになににおかねをつかうのだともおもう。ホンやマンガがうれているともきかないし。やっぱりゲームキなのだろうか。

キュウジュウサン

わたしがショウガッコウにいたころに、ピアノがひけるドウキュウセイがいた。ちいさいころからならっていたのだろう。タブンいえにピアノがあったのだろう。そこそこのかねがないとむずかしいだろう。そういうわたしのいえには、オルガンがあった。シンセキからもらったのだろう。ひきたいとはおもったが、あるうたをひこうとしてザセツした。どのケンが「ド」だかわからなかった。かといってでたらめにひくわけにいかないので、それからそのオルガンは、おおきなおきものにかわってしまった。

やがてそれはバンドエンソウでつかうようになるのだが、そのあととりまわしのラクなうすがたのキーボードがそのやくをうばってしまった。いまかんがえらるとおとはよかつ

たとおもう。あたらしかったキーボードはいろいろなガッキのおとをテイオンシツでロクオンしてサイセイするしくみだから、ほんもののおとにはかなわない。キロクブヒンのシンポで、いまそういうものをつくると、よりほんものにちかいおとがだせるようにもできるとおもうが、まだまだであろう。

キュウジュウヨン

ゆずをサトウにつけてたべてみた。おおきさがグレープフルーツよりちいさいので、グレープフルーツのようなたべごたえはない。ゴコぐらいたべればまあたべたきはするかもしれない。コンカイはハチジュッコちかくできたので、まあまあたべられるだろう。ゆずすい（●アニジュウハチ、●ハチジュウハチ）にただけではつぎのふゆまでにたべきれかわからない。いいカゲンにシュウカクしないとなのだが、たべるメドがつかなくったのでそのままにしておいた。でもそうやってたべることができるので、いただくかとおもっている。

キュウジュウゴ

「ヤンキー（●ハチジュウなな）」というのはニューヨークで、オランダケイジュウミンが、エイコクケイジュウミンをよんだゴといわれる。そういうゴがニホンにもはいつてきたのだろう。さらにチュウゴクジンがニホンジンのことを「トンヤンキー（トウヨウのおに）」とよんだともいわれる。ひがしの「ヤンキー」ともとれるかもしれない。いまなんかもニホンジンは、ガッシュウコクのひととまあまあうまくやっているからひがしのヤンキーというのもつうじるきがする。

キュウジュウロク

サイキンは「ワコンヨウサイ」という。そのことばもあまりきかれなくなったかもしれない。ニホンのセイシンとセイヨウのガクモンというイミである。たしかにセイヨウのガクモンにエイキョウされていたりする。しかし、そのまえは「ワコンカンサイ」といっていた。ニホンのセイシンとチュウゴクのガクモンというイミである。ときがかわるとそうかわったりもするのだろう。それでもまだカンジのガクシュウをするから「ワコンカンサイ」なのだろう。わかいひとなら「ワコンカンギ（ギジュツ）」がいいかもしれない。チュウゴクではしばらくセイゾウギョウがカップツだったから、チュウゴクジンにまなべるギジュツがあるだろうとおもうのである。

キュウジュウシチ

はたらいていてにするおかねをなんというか。キュウリョウとかいったりする。ケイエ

イがわからいえば、チンギンである。それをサイキンはチンキンとかく。「キン」はあのこがねいろの「キン」である。しかし、むかしは「チンギン」と「ギン」とかいていた。だからはたらいても「キン」はもらえないわけである。なぜ「ギン」だったのが、「キン」になったのか。それだけタイグウがよくなっただろうということだ。もしくは、タイグウがよくなったとおもわせられているということだ。ロウドウシャにとって、「チンキン」とはあかるいカイゼンだったろうか。それともただのレトリックだったろうか。

キュウジュウハチ

えどバクフがサイガイのときなどにリンジにシシュツするこめを「とりこしマイ」といった。「とりこしグロウ」といえば、あらぬであろうことをいろいろとシンパイすることである。つまり「とりこし」はないにこしたことはないが、そういうクロウをしていると。そりゃそうだ。サイガイはこまるというわけである。

キュウジュウキュウ

サンガツは、トウキョウダイクウシュウがあったひがあったようだ。もうななジュウネンはたつ。おふくろもトウジこどもだったようで、そういうはなしもする。しかし、ソカイしていたようで、チョクセツクウバクはうけなかったという。たんぼにおおきなあながあいていたことをはなしてくれた。また、いえもやけなかったらしい。オヤジもソカイしていたという。しかし、いえがやけたのだろうか、センゴ、シンセキをたよってホッカイドウにいったようだ。オヤジは、やけのはらのはなしをしてくれた。なんでもクウバクでトウキョウはやけ、えらくとおくまでみえたらしい。ななジュウネンまえはソカイすることもできたろうが、いまでは、いなかにはエンのあるひとはへってきているのではないか。いまそういうめにあったら、おとなもいなかにはげるんじゃないかとおもう。やっぱりノウサンブツがないときびしい。それはとにかく、クウバクされるようになったらほぼまけである。おふくろがいえのわきにあったボウクウゴウのはなしをしてくれた。なんでもチョクゲキされたらもたないとか。そんなテイだったらしい。

ヒヤク

ゆずがハウサクだったのでジュースをつくってみた。ニホンゴではカジュウだ。シチ、ハッコをしぼってヨウキにためた。ジュッシーシーくらいになったろうか。ショウシンショウメイのゆずカジュウだ。すっぱいが、グレープフルーツジュースもそうだからのめなくはない。サトウをちょっとまぜたがまあおいしい。

しかしである。IPPONのきになったゆずをゼンブしぼったとしてもイチリットルにならないだろう。シチ、ハッコでジュッシーシーだから、ななジュウ、ハチジュッコによ

うやくヒャクシーシーだ。それをかんがえると、オレンジジュースなんていうのは、えらくゼイタクだ。ゆずとはおおきさがちがうが、イッポンのきでイチリットルとかとれるのだろう。それをニヒャクエンくらいでかわれるじゃとてもかなわないとおもう。イチネンでイッポンのオレンジのきごとにニヒャクエンというわけである。セイサンシャはタイヘンだとおもう。わたしがこどものころによくオヤジにノウカのひとにカンシャしてたべなさいといわれた。まったくそのとおりだとおもう。

ヒャクイチ

ちょっとでかけたときにかわをみるとスイイがひくい。コウレイのみずブソクというやつである（●アジュウ、ニジュウサン、●むヒャクジュウニ、ヒャクジュウサン、ヒャクニジュウロク）。やっぱりもうハンブンコウゾウになっているのだとおもう。ことしはゆきがそんなにふらなかつたからゆきどけみずもすくないのだろう。となるとつゆやタイフウのジキになるまでフソクぎみとなる。まあカントウだけのはなしだが、まあドリヨクしないといけな。インリヨウスイはかならずヒツヨウだからである。ビールをのめばいいといったって、ひるまからよっぱらっているわけにはいかない。かねがあっても「シゲン」をかえるとはかぎらないのだ。「セキユ」にクロウしたグンジンや、「ショクリョウ」にクロウしたセンチュウのひとならばジツカンをもってわかるはずだ。

ヒャクニ

ロクネンまえのサンガツジュウイチニチにはダイジンがあった。そのまえにナンポウでジンがあったから、ナンポウでジンがおこると、またかとおもってしまう。トクにことしはそんなにおおきくないで、かんじないほどではないジンがおおいようだ。カンゼンにシゼンとイッタイになってしまうと「ジン」もシゼンなのだから、おこる、おこらないはあるテイドわかるうが（デンキなまずのようなはなしだ）、そんなことをやるのもブンメイジンにとってはむずかしかったりする。だからそれゆえに、あるときキュウにジンがおとずれる。それでファンになったりする。トクに、ケイタイデンワのケイコクオンがなると（いいサービスだとはおもうが）はやくヒナンしようとなる。このふゆは、つなみがエンガンブにトウチャクするほどのジンがあった。

ゲンパツがテイシされて、ジュンバンにテイデンするようなことももうわすれてしまっている。あのときはまあクロウした。タブンレイトウコのセイノウにテイデンジカンをあわせたのだろう。たしかにそれでモンダイなかつた。エネルギーブソクはショガイコクのツゴウにサユウされるが、みずブソクは「ドリヨク」でなんとかなるものだとおもうのである。

ヒャクサン

こったコセイテキなオンガクをつくってもそううれるわけではない。もっともコセイがつよすぎると「わからない」となる。えもそうだ。ホンだってそうだろう。だからたしかにコセイはあるんだけど、イッパンテキなものがあるのだろう。まったくコセイがないとただのトウサクになってしまうからそうはしない。だからサッカは、イッパンテキなシツとコセイがヒツヨウなんだろう。それにもかかわらず、「ジブンさがし」とか「コセイソチョウ」みたいなタイドがちょっとまえにスイショウされたようだ。わたしなんかはおかげでたすかったメンもある。でもサラリーマンをやるならそんなのにはこだわらなくていいようなきがする。おもしろいことをいうなどのコミュニケーションギジュツのコセイならいいかもしれないが、カイシャが「コセイ」をヒツヨウとするとはかぎらないからである。

サッカをやるといったって、さきのようにイッパンテキシツがダイジだから、「コセイテキ」になれるかはビミョウなのである。ホントウに「コセイテキ」ならうれないだろう。さらにそれをつづけるのもタイヘンである。うれないからタイテイのひとはコセイテキであることをやめてしまうのではないか。だから「ジブンさがし」はむずかしいのである。ケッキョク、「カラオケ」のようにうまいひとのまねをするのがよくあったのではないか。なんとなくそういうきがする。

ヒャクヨン

わたしのイッサツめのホン『アルクカラカンガエル』で、「ニガ」というハのことをかいた(●アヨンジュウニ)。「ニガ」とは、わたしがかってにそうよんでいるだけで、ほかにしっかりしたよびかたがあるだろう。そのハをこまかくして、みずにとかしてのむとにがい。だから「ニガ」にした。そのヨウエキはおチャのようないろになる。ハはそうやってヨウエキをのむのにつかうとよいが(わたしがそうおもっているだけだ。)、はるになるとそのきは、みというかめがでる。それをそのままにしておくと、あたらしいハがでてくる。だから、「おチャ」のように、シンニガをつくることもカノウだろう。そうなのだが、そのみがまたほのかなあまみがしてうまい。さすがに「いちご」などにはかなわないが、こむぎこにまぜてパンケーキにしたらうまいとおもう。ザッソウものびはじめたし、そんなジキである。

ヒャクゴ

むかしは、イショクたつて(たりて)エイジョク(エイヨとはじ)をしるといったが、いまでは「イショク」だけではダメなんだろうとおもう。タブン、「イショク」と「しごと」がないとダメなのだろうとおもう。「ジュウ(ジュウタク)」もダイジだが、「しごと」が

あればなんとかなったりする。だからいい「しごと」を見つけることがダイジだろう。そうすれば「エイジョク」をする。しかし、「しごと」をしてなければ、「エイジョク」をすることはむずかしい。ガクセイなんかもそうだろう。いいたいことをいう。しかし、「しごと」をするにつれ、そういうことはなくなっていく。だから、センシンコクでは「シツギョウ」がおおきなモンダイとなるのである。

ヒャクロク

シィディができてフキユウするころ、レコードやカセットのおととくらべて、「かたい」おとがするとか、「つめたい」おとがするとかいうひとがいた。なぜかはよくわからなかったが、わたしもおとのサはわかった。おもしろいのが、ハチジュウネン、キュウジュウネンダイのシィディにくらべてレイネンダイ、ジュウネンダイのシィディはオンリョウがおおきい。そうやってオンリョウをあげるのはケッコウむずかしい。あげすぎると、ノイズがでてしまうからだ。そのノイズがでてまえでオンリョウをあげるのが、オンガクをつくるものうでのみせどころであったりする。

それをやっていてきづいたのが、おとのたかきのブンブがチュウイキにシュウチュウするから、テイイキとコウイキをたしてやろうとなる。そうするとテイイキとコウイキがなるガッキョクになるが、そういうカコウをしたオンガクは、はっきりいってみみがいたくなる。これがほどほどだと、おとがかたいとかのヒョウゲンになるのだろうとサイキンおもった。ようするにコウイキのなりかたである。カセットテープはコウイキがあまりならなかったようだから。

ヒャクなな

ニンゲンのななわりはみずでできているという。それをエキタイとしてホジしている。チョウドそういうオンドでくらしているからだ。だからもっとあついところ、たとえばスイセイにいけば、ほぼジョウハツしてしまうし、さむいところ、たとえばドセイにいけばほぼかたまってしまう。だからそういうところでいきるには、みずイガイのなかみがヒツヨウだろう。たとえば、タイヨウのちかくならキンゾクだ。キンゾクがエキタイになってからだをジュンカンできるだろう。ギャクにタイヨウからとおいところではチツソのようななかみがいいだろう。やはりエキタイになってジュンカンできる。コキユウもかんがえると、あついところではスイジョウキをつかい、さむいところではニサンカタソなどをつかう。このようにかんがえると、ウチュウジン、キンゾクでできたり、チツソでできたりするだろう。みずでできたニンゲンはとりあえずできているが、ほかはどうかかわからない。

ヒャクハチ

ごみのブンベツにクロウしていたが（●むニジュウロク）、このまえ、ふたつのごみばこをかってきた。へやがせまくなるので、ニコはチョコレツにかさねた。したがもえないごみで、うえがもえるごみだ。これでうまくかたづくようになった。シュウヨウができればちかららない。スラムもそうなんだろう。とにかくごみなどをおいておくから、そこにひとがあつまってなかなかかたづかない。ニホンにはスラムがないという。タブンそれはシュウヨウするところがあるからだろう。シュウヨウするためにほかのばしょにうつされる。もし、ロウジンホームがなかったら、ロウジンのまちができるのかもしれない。かりにロウジンディスティネーションとでもいっておこう。フンニョウもそうだ。あつめたりしなければ、まちじゅうがフンニョウだらけになる。しかし、シュウノウがしっかりしていれば、そういうことにならないだろう。

ヒャクキュウ

おわらいバングミをみてよろこんだり、たかいハウセキをもってよろこんだり。ニンゲンのノウにはふるいノウとあたらしいノウがあるという（●ゴジュウゴ）。ふるいノウはゲンシジンのころからあったのだろう。あたらしいノウはブンカができてからではないか。ブンカのハッテンとともにあたらしいノウができあがったと。おわらいバングミをみてよろこんだり、たかいハウセキをもってよろこんだりするの、ブンカができてからだろう。だからそれらはあたらしいノウへのシゲキだ。ゲンシジンはそんなものではよろこばないだろう。ゾウトウヒンにショクリョウがある。タブン、これならゲンシジンもよろこぶからまちがないのだ。かんきりがヒツヨウなかんづめはよろこばないかもしれないが。

ヒャクジュウ

シンブンやニュースをよんでいると、「シゲン」ということばがでてくる。わたしなんかもベンリなことばとおもい、つかったりしている。しかしである、このことばはヒカクテキあたらしいことばのようだ。なぜなら、むかしのジシヨにはのっていないからである。カンワジテンをひいても「シゲン」ということばはでてこない。あるのは「シホン」とか「シザイ」である。たしかに「シザイ」ということばをつかえばいいとおもう。しかし「シゲン」という。わたしのカンカクでは「シザイ」である。「エネルギーシザイ」といえばそれでいい。

しかしなぜ「シゲン」ということばをつかうか。タブン「ジョウハウ」というメンにおもさをおくからでないか。つまり、それがあつるばしょをジュウシしたり、それをかうキョカをジュウシしたりすることである。もっといえば、「シゲン」というときには、そのシザイは「ショウケン」のようなものではないか。つまり「ジツタイ」ではないのである。そこに「ジョウハウカシャカイ」というゲンジツがみえる。だから、「どこどこがエネルギーシゲンをカクホした。」というときには、そのシザイをカクホする「ケンリ」をてにいれたということだろう。もっというと、その「ケンリ」はジュンチョウにコウシされ

るかはわからない。

エイゴの「リソース (シリョクなど)」ということばをヤクすときに、「ザイゲン」というイミもあるようだから、そのゴをつかうようになったのではないか。ジツブツとはちがうというのが、このことばのトクチョウだとおもう。ただわたしなんかは「シゲン」より「シザイ」がほしかったりする。

ヒャクジュウイチ

「ニンゲン」のことを「ホモ・サピエンス」というときく。ラテングのジシヨでしらべると、「ヒト、おいしいもの」とでてくる。「ヒト」がおいしいかはベツとして、「おいしいもの」がわかるヒトということだろうか。ベツのヤクには「かしこい」というイミものっている。おいしいものがわかるのが、ゲンダイテキナニンゲンなんだろう。「おいしいもの」がわからないと、ベツのヒトゾクということにもなりかねない。あるハンバーガーテンがセカイカクチでエイギョウしているが、あのみせがどこでもシジされるということだろうから、ダイタイのチキュウジンはおなじシュゾクなんだろう。

もっとも、なぜ「かしこい」がでてくるかというモンダイはある。おいしいものをきちんとえらべるのだから、「かしこい」かもしれないが、キリストキョウなどのセイシヨのエイキョウもあるとおもう。かみにきんじられたきのみをたべてしまうというブブンである。それはチエのきのみだったから「チエ」がついたのだろう。それでよかったのだが、「かしこい」というヤクにするには、どうもそのあたりのジジョウもありそうだ。だから「おいしいものがわかるひと」でいいんじゃないかとおもう。「チエのきのみ」をのぞいて。キリストケイキョウトとはかぎらないのではあるが。

ヒャクジュウニ

ガガクというのはニホンのコテンオンガクである。セイヨウのクラシックガクダンよりふるいときく。もっとも「クラシック」というゴは、ニホンのキョウイクでは「コテン」というようにならうから、モーツァルトやシューベルトがホントウにコテンかというギモンがでてくる。そのまえにもオンガクがあったはずだからである。この「コテン」というイミはニギイコウのイである。「クラス (カイキョウなどの)」のハセイケイだから、ちょっとセイリして「ジョウリュウカイキョウの」のイになる。ようするにモーツァルトやシューベルトはそういうオンガクなのである。だからサイキンになって、「ポピュラー」というシュルイがふえてきたのだろう。

ガガクはドクトクである。わたしは「シヨウ (おとがなるたけのくだがタクサンついたハーモニカにちかいガッキ)」のおとがおもしろいとおもった。はじめてきいたときには、シンセサイザーでだしているのかとおもった。ただしくは、くだのシュウセキである。セイヨウのパイプオルガンにもつうじるとおもう。ニホンのオンガクだから、そういうおとがだせるゲンダイテキナキザイもあるんだろうとかんがえられるが、ジツはそ

ういうおとをだせるキザイはすくない。トクにリアルなおとがだせる（そのおとをロクオンしているからあたりまえだが）サイシンのキザイはかぎられている。ガイコクジンがヘンサンしたミンゾクガッキのおとのシュウゴウにまぎっているというかんじである。それだけジッサイにつくるひとはかぎられているようだ。もっとも、コテンをエンソウするひとが、あたらしいオンガクをつくるというわけではないのだろう。おもしろいキザイではあるが、いまのところドウニューしていない。

ヒャクジュウサン

ニンゲンのノウは「ふるい」ブブンと「あたらしい」ブブンがあるという（●ヒャクキュウ）。「ふるい」ノウはなにをしているか、タブン、ドウサにかかわることをしたりするブブンなのだろう。むかしからニンゲン（ゲンシジン）はうごいていただろうから。ショクジなんかもそうだ。むかしからしていたであろう。

むかしからしていなかったのは、このようにホンをかいたりすることだ。だからホンをかいたりよんだりするのは「あたらしい」ノウをつかってすすめるのだろう。へやをみわたすと、どうも「あたらしい」ノウをつかうようなものばかりだ。それはキホンテキにジュウヨウでないともいえる。「ホン」をよんだってらははふくれないからである。もっともふるそうなへやというかもいえのなかにはある。それはだいどころである。なべやショッキはむかしからつかわれてきただろう。ケッキョクダイジなのは、だいどころとねどこではないか。だいどころでつくられるリョウリは、「ふるい」ノウがマンゾクするだろう。タブン「ゲンシジン」もよろこぶはずだ。そうやって、「わたしというゲンシジン」をマンゾクさせることはジュウヨウであるとおもう。

ヒャクジュウヨン

ものをもつとへやのなかにそれがたまっていく。ものをかいすぎるとうごけるハンイがせまくなる。イチジわたしはホンをためていたが、よんだものはショブンするようにした。やはりかたづかないとこまるのである。どうすればいいか。リソウテキなのは、つかうときだけホンがあることである。つかわないときはなくていい。どこかでかりられればいいが、トショカンにおいていないホンもある。テレビなんかもそうだ。みたいバングミだけみられればいい。テレビジュゾウキもいらなかもしれない。そういう「パーユーゼージ（つかうブンだけ）」にすれば、むだなものがふえないし、ベンリだとおもう。

ヒャクジュウゴ

タバコはからだにわるいという。サイキンはだからタバコをやめろという。わたしがおもうにはそういうひとはクルマにのらないであるいてばかりのひとなんだとおもう。なぜなら、クルマはハイキガスをだす。だからそれもからだにわるいだろうからだ。クルマにのりながら、「タバコをやめろ。」だったら、「あなたこそクルマをやめろ。」だ。ク

ルマをやめてからそういうことをいってほしいとおもう。おたがいさまだとおもうのである。「まわりにいるひとのガイになる。」でも、「クルマはハイキガスをシャナイにださない。」だ。やっぱりおたがいさまだとおもう。

ヒャクジュウロク

ショウワからヘイセイになってサンジュウネンちかくになる。それでもまだショウワジダイからのブンカというかをひきついでいる。ショウワをダイヒョウするイッピンとはなんだろう。テレビ（ジュゾウキ）なんかがそうではないかとおもう。イッカにイチダイとか、ひとりイチダイとかいわれた。ただ、わたしはあまりみないので、おおきなカイをおこうとはかんがえていない。パソコンのキノウのイチブでいいというかんがえかただ。

ヘイセイのイッピンはなんだろう。ケイタイデンワか。いまでは、オンセイだけでなく、データのやりとりもできるようになっている。パソコンもヘイセイにはいってフキュウした。どちらかといわれるとだが、わたしはパソコンのホウをつかうからパソコンだろうか。

ヒャクジュウなな

ヒコーキにのるとキナイショクがでてくる。サイキンはキナイショクがでないヒコーキもあるときくが、やっぱりたべたいとおもう。ゲンシジンをマンゾクさせたいからである（●ヒャクジュウサン）。よく、ビーフオアフィッシュときかれた。わたしはビーフとしかこたえたことはないが、どちらかえらべるのは、シュウキョウへのハイリョからもいいのだろう。そういうセンタクにこたえていくとコセイがでる。はじめののみものもえらべるし、ショクゴのイッパイもえらべる。それぞれふたつのセンタクシだと、ハチとおりのえらびかたができる。ムダかもしれないがそういうコセイをソynchョウするというのもマナーなんだろう。ニホンでのショウヒコウドウも、センタクシのあるコセイテキなようにかわってきているともきく。コセイをソynchョウするとそうなるのだろう。だから「コセイ」とはキナイショクのセンタクのしかたともいえる。キュウショクでそだつニホンジンにはわかりにくいかんがえかたかもしれない。

ヒャクジュウハチ

わたしがヨウチエンジのころに、オヤジがビデオデッキをかうのでついていった。そのころはエーシャのかたと、ビーシャのかたというセンタクシがあった。エーシャのものはカセットがややちいさく、ビーシャのものはおおきかった。リョウハンテンで、オヤジはあらかじめどちらかきめていたようだった。デンシブヒンのカイシャインだったから、くわしかったのだろう。かたほうのかたは、いずれトウタされることになる。オヤ

ジはそれがどちらかわかっていたのだろう。しかし、トウジのわたしにもわかるリュウがあった。それは、ビーシャのかたのカセットをつかったビデオグラムがうっていたからである。いまのヨンジュウダイのダンセイにニンキがあったビデオサクヒンだ。だからそのビデオグラムみたさにビーシャのかたをシジしたとおもう。ビデオデッキとドウジにそのビデオグラムをかってもらったかわすれたが、まあやがてエーシャのかたはトウタされたようである。しかし、そのときかったビーシャのかたも、やがてひかりディスクにとってかわられる。しかしおもいでビデオがあるので、ビーシャのかたのビデオデッキもとってある。

ヒャクジュウキュウ

サイキン、コンビニエンスストアのベントウをみると、みかけないものがある。それはいわゆる、まくのうちベントウである。タブンつくれないことはないだろうから、あまりうれないのでつくらないのだろう。さかながはいったベントウをみないということでもある。たしかにさかな（すしはベツ）をだすテイショクやというのがへったようだから、ベントウにもそのなみがおしよせてもおかしくない。サイキンのひとはさかなをたべないのだろうか。

ヒャクニジュウ

なにかのしくみはそうそうかわるものではない。ビルもいちどたててしまえばそれはナンジュウネンとのこる。だからそういうしくみに（たとえていえば、たてものに）なれたホウがいいといえる。しかし、ああだったらいいとかは、だれしもがおもうことだろう。だから、ヘンコウがむずかしいたてものではなくて、カグなどにこったりする。カグもナンジュウネンともつが、とりかえることもできる。だからコウゾウシュギテキなひとばかりでなく、いえなどはあまりジュウにはできないが、キノウをジュウシするひともでてくる（●イチ）。つまりあるもののコウゾウテキなメンでなくて、キノウテキなメンをジュウシするひとだ。

トクにサイキンでは、テイカカクをジュウシするようなむきもある。コウゾウでなく、キノウがダイジなんだけど、テイカカクなものをえらぶシコウである。だからやすいガイコクセイのセイヒンがみせにならぶようになる。わたしがわかかったころは、ヨーロッパのブランドにあこがれたというかキョウカンしたが、そういうものがたりてきなことより、「キノウ」を、「テイカカク」をとというのがタイセイなのかもしれない。「キノウ」がみたされればいい。そのうえ「テイカカク」なものがいいと。なにをえらぶかはそのひとのジュウでしょうけど。

ヒャクニジュウイチ

シカクイトシはケッコウあったようだが、まるいトシというのは、わたしはあまりしらない。トシのつくりのはなしである。まるいいえというのがそもそもむずかしいかもしれない。それができないからトシもシカクくなるのだろう。しかし、まるいトシのホウが、トシのチュウシンからのキヨリがキンイツになる。つまりエンのそとがわにむかってジョウホウがトウソクドでつたわることがキタイできる。そういうトシのホウが、シカクイトシよりアンテイするのではないかともおもう。シカクイトシだとチョウテンのホウで、ジョウホウをうけとるのがおそくなるからだ。とはいえ、そんなことよりもトシのつくりやすさのホウがダイジだったのかもしれない。エンケイキョウギジョウなんかがあるから、フカノウではなかったろうが、まゝむずかしかったのかもしれない。チュウシンからたかいカイソウジュンになられば、おさまりがよかったのではないかとおもう。

ヒャクニジュウニ

へやのなかにはハツメイヒンがつまっている。テレビだ、ステレオだなんだというはなしだ。そういうものをかってきてはへやにおく。ベツのいいかたをすれば、テレビならエイゾウをみるキノウをそのへやにいるあなたのあたまにとりつけるようなものだ。ステレオならオンガクをきくキノウをだ。だから、だれかのへやをみれば、そのひとのあたまのなかがわかる

だろう。わたしのへやにはホンだなどガッキがある。だから、ホンをよみかきしたり、オンガクをひいたりする。そういうキョウミがあるわけだ。そういうあたまのブンセキもおもしろいかもしれない。オヤジはわりとシンプルだった。ギジュツがさきか、ものがさきかであるが、つかうギジュツをおぼえるまえに、おぼえたいアプリケーションをインストールすればいいかもしれない。へやのなかにである。しかし、わたしがこどものころ、つくえがへやにあったが、ほとんどつくえのまえにすわらなかった。やっぱりキョウミとかもダイジなんだろう。

ヒャクニジュウサン

サイキン、オンガクをつくってはおもうのが、オンガクはロウドウリョクよりシキンリョクではないかということだ。かなりのロウドウリョクをつかっても、ガッキがわるかったら、いいオンガクにはならない。もっともサイキンだと、なまガッキのおとをシュウロクしたプログラムをサッキョクなどでつかうから、よりいいおとのプログラムをそろえれば、いいオンガクになるとおもう。たかいガッキをつかうようなものだ。そうすると、ロウドウリョクのメンもあるが、シキンにヨユウがないと、むずかしいとなる。だから、アーティストはレコードガイシャとつきあっているのだろう。いいおとでロクオンするためである。

でも、シィディのシジョウカカクが、まえにのべたように（●ハチジュウキユウ）ニヒャクゴジュウエンだとすれば、イチマンマイうれても、ニヒャクゴジュウマンエンだから、ヒョウだけでうりあげはなくなってしまうだろう。だからサンニユウするのはソウトウむずかしいとおもう（ダウンロードハンバイがみこみあるだろう。）。キユウジュウネンダイコウハンにうれたあるカシュは、カシヨウリヨクとちょっとだけのガッキでナンビャクマンマイとうってしまった。あまりおかねをかけずにタクサンうれたのである（コウコクヒはのぞく。）。それはカクメイテキであるが、そういうジレイもある。でも、なかなかむずかしいであろう。

ヒャクニジュウヨン

「シコウサクゴ」なんていうことばがある。タブンこのことばはあたらしいことばだ。タブン、「トライアルアンドエラー」のホンヤクなのだろう。「シコウ」「サクゴ」じゃエンギがわるい。あまりいいことばでないというイミだ。ほかにもヤクしようがあったのだろうが、チョクヤクしてしまったのだろう。とにかく、つづけるとおわりがわるい。ダイタイのゲキは、サイゴはめでたしめでたしとなるが、これだと、そのギャクである。もっともヨンモジのキャクホンをかくのがむずかしいのはわかる。しかし、あとあじがわるいではしょうがない。あいだに「と」といれればまだよかったが、カンブンフウにしたかったらしい。「および」とでもいれればよかったのではないか。でもまあ「ロウドウとセイジユク」とでもヤクせばよかったかもしれない。

ヒャクニジュウゴ

サンジュウネンほどまえ、わたしは、はねだクウコウをリヨウしていた。いま、おもいだしてみると、ニホンはシャカイシュギだったのではないかとおもう。なぜなら、「コウキユウヒン」があのかうにはなかったようなきがするからだ。サンゼンエンのコウキユウベントウもなかったし、ブランドものなにかがうられていたともおぼえていない。そのかわりに、ショミンのたべもの「やきそば」やニホンジンがクフウしてちいさくなったブングなどがうられていた（あるときは、カードがたのボールペンがあった。）。コクナイセンがおもとはいえ、かねもちもリヨウしそうだが、そんなかんじだったとおもう。もっとも、いまはたてものがかわってしまったが、タショウコウキユウヒンをあつかうようになったのだろうか。「カクサ」とかいているからあつかうようになったのだろう。そうでなきゃ、まだ「シャカイシュギ」のままだ。もっとも「シャカイシュギ」のいごちのよさはあるだろう。ステーキをたべているひとのよこで、すうどんをたべなくてもよいのだ。そういうこともかんがえるから、「コセイ（●ヒャクジュウなな）」というタンゴでごまかすかもしれない。シホンシュギだったらそういうしかない。

ヒャクニジュウロク

さきの(●ヒャクジュウなな)「ビーフオアフィッシュ」のようにえらべるホウがいいのか。ショウガッコウのキュウシヨクが、そうかわったとはきかない。えらべると「ジブンで」えらんだというセキニンがでてくる。モチロン、それにどくがはいってれば、テイキョウしたがわのセキニンがでてくる。しかし、キョクロンすると、「どく」がはいっているものをたべたそのひとがわるいことになる。もっとも、からだにヘンチョウをきたして、わるいばあいはしんでしまっているだろうから、ジブンでセキニンをとることになる。テイキョウしたがわにできることはバイショウだ。

そうやって、ケツキョクジブンでセキニンをとることになるから、そういうえらべるブンカのひとはヨウジンぶかいだろう(カタホウはフツウで、もうカタホウのリョウリにどくがはいっているかもしれないから)。それはテロジケンについてもいえる。なにかえらんだケツカがテロジケンにつながったとすれば、えらんだあなたがわるいとなる(ホウリツによってハンニンはバツされるだろうが、しんでしまったらだれもいきかえらせてくれない)。だからニホンでそういうギロンがでることはすくないだろうが、ウカツに「えらんで」はキケンなのだ。シャカイシュギはそのテンでわるくない(どくがはいっていたら、ゼンインしんでしまうカノウセイはあるが)。

ガッシュウコクセイのギュウニクをえらんだために、「シュウダンテキジエイケン」をみとめるホウコウにいつている。そのながれでいくと、やはり「えらんだ」セキニンがでてくるはずだ。そういうカクゴもしなければいけないかもしれない。いやだったらえらばなきゃいいのだ(えらばなかったセキニンもあろうが)。マテリアルのモンダイ(たべもの)だから、ホントウの「コセイ(ジブンのイチブになるから)」である。ボウエイテキドクリツより、ギュウニクをえらんだのだろう。

ヒャクニジュウなな

サイキン、ベントウにうめぼしがのっているのをみなくなった。ジュウネンはたべていないとおもう。わざわざかってくるほどすきではないから、そういうことになる。もっといえば、わたしがちいさいころは、わたしはうめぼしがにがてだった。にがてでなくきらいだった。やさしいおとなたちが、わたしの「コセイ(●ヒャクジュウなな)」をみとめてくれて、のこすこともできた。ちいさいころからわたしはそういうセンタク(●アヒャクロク、●むキュウジュウイチ)をしていたとおもう。ギュウニクもそうだし、うめぼしもそう。オレンジジュースもそうかもしれない。まくのうちベントウのさかなもあまりすきではなかった。

いまおもうと、えらびなおしたくもある。にがてではなくなったからだ。オヤジがセンソウをケイケンしたセダイだからか、「いやならたべなくてよい。」とおしえられた。センソウやヒンコンをしらないセダイがいうとハクリヨクがないが、オヤジのはセットクリヨクがあった。あとになって、わたしはそれらをたべるようになった。そうじゃないとこまるからだ。

しかし、いまうられているベントウをみて、それでよかったのかとおもう。しかし、子どもがキュウにおとなになるわけでないから、カンベンしてほしいとおもう。ジブンもえらんだのだから、タニンがえらぶのもトウゼンであろう。

ヒャクニジュウハチ

さくあぎにうえたブロッコリーがそだった。ふゆのあいだは、とりにねらわれながらもなんとかそだっていた（●サンジュウロク）。しかしである。ちょっとみないうちに、はながさいってしまった。シュウカクのジキをみはからうというのもむずかしいのだなおもう。

ヒャクニジュウキュウ

しごとがおくれるとどうなるか。コキヤクにおこられたり、ジョウシにおこられたりする。もっというと、そのリュウをセツメイしたり、ブンショをツイカしたりする。ケツキヨクなにかといえば、「ブンショ」がヨテイよりながくなるだろう。シツパイについて、それはなぜおこったかとなる。きがつくとホンができているかもしれない。そのブンショをかくジカンがムダだから、セイサンセイもあがらない。だからできるひとは、しごとをおくらせないし、おくれたとしても、ながくモンドウしないだろう。「ノーエクスキューズ。」というが、いいわけするだけジカンのムダというかんがえかただろう。ブンガクはながながとモンドウするだろうが。

ヒャクサンジュウ

しごとをカンタンにおわらせてしまうことはできる。しかし、カンタンにおわらせると、「ラクしやがって。」とかいわれかねない。だからしょうがなくしごとをしているふりをすることがないか。そのジカンはムダなのだが、つきあいをかんがえるとしょうがなくもある。ひょっとしたら、しごとができる、できないより、そのホウがダイジかもしれない。しかし、ソレンはシツパイした。ココのジツリョクのモンダイもあるが、シュウダンのセイサンセイもある。むずかしいモンダイだ。

ヒャクサンジュウイチ

なにかのしくみを「かねもち」や「ビンボウニン」にあわせるとどうなるか。あるものごとのブンブはセイキブンブではかれることがある。カズをジョウゲにとったベルがたのグラフである（ハイキンがもっともおおい）。ニホンだと、ガッコウのセイセキをその

リクツをつかってはかる。ヘンサチというやつである。ベンキョウができるひとは、できるほどかすがすくなく、またできないほうも、できないほどかすがすくない。ヘイキンからキョリをはかるとヘンサチである。

それなら「かねもち」や「ビンボウニン」にセイサクをあわせると、そのギャクのひとたちからのキョリがおおきく、またヘイキンからのキョリもあるから、ソウタイとしては「ムダ」がおおそうである。じゃあどうすればいいかというと、「ヘイキンテキなひと」にあわせるとムダがすくなくなる。それでいいかはともかく、それならムダはすくないのである。ニホンではルイシンカゼイといって、ビンボウなひとからはすくなく、かねもちからはおおくゼイキンをとっているが、ヘイキンテキなゼイリツにすることもできるだろう。

セイヒンもヘイキンテキなねだんにすることもできる。しかし、ヒャクエンでショウヒンをかえるみせがはやっているから、ヘイキンテキなねだんではだめなのかもしれない。セイヒンも「ヘイキンテキ」なものをイッコタイリョウにつくるよりも、「ビンボウニンむけ」と「ヘイキンテキなひとむけ」、「かねもちむけ」とつくるほうが、コウリツがよさそうだ。ベツにイチリツにするヒツヨウはない。しかし、「テイカカク」なものがうれるようなきがする。そういうのをシュクショウがたケイザイというのだろう。ジッサイのとりひきがそうであるかはともかく、だれかや、だれからのシンリには、そのコウゾウがあるのである（●イチ）。カイキユウセイにしていれば、みつつのセイヒンをつくれればいいが、ニホンではなかなかなじまないのだろうか。

ヒャクサンジュウニ

はたけでダイコンがそだった。あきにまいたたねからすこしずつおおきくなった。ダイコンのことは、はながさきたねができるのをみていたので、わたしはひととおりにしている（タクサンのシュウカクをあげるほうほうは知らない）。あまりそだちすぎるとたねができてしまうので、ぬいてたべることにした。はっぱもたべられるからとコンカイはサラダにしてみた。センドがわるいとたべにくい、ぬきたてだとおいしい。ゴマのドレッシングをつかった。ゴマのソースなんてよくかんがえたものだ。ホンタイのほうはおふくろがぬかづけにした。これもおいしい。シュンにはつぎからつぎへととれるので、ホゾンのきくりョウリのしかたがいい。サラダのほかには、コリアづけ（チョウセンフウつけもの）にした。あさづけなどもできるだろうが、ちょっとつくってみたかった。ホゾンもきくしおいしいとおもった。

ヒャクサンジュウサン

キャベツもおおきくなった。シハンされているようなケイジョウにかかってになるのかとおもったら、なかなかならない。たしかにあんなかたちでは、はっぱがタイヨウのひかりをあびにくい。ひとつシュウカクしてゆでてみた。そのままでたべられるが、とに

かくあじがつよい。ノウヤクはつかっていないからそういうあじはしない。ただ、そのままではたべにくくかんじた。ゆでて、おひたしといためものをつくった。ほかのなにかというと、ハウレンソウのカンカクだろうか。たべごたえがあった。おふくろはかたいという。でもキャベツのツゴウだからしょうがない。のこりはつけものにした。あじがつよいので、のぎわなのカンカクだろうか。きざんでたべるといいようにおもった。

ヒャクサンジュウヨン

なにかをしたホウがよいが、しなかったらどうなるか。あのときああしていればよかったなどとあとでおもう。しなければいけないことだと、しないばあいはあとでこまることになる。よくオヤジが、「(なにかをしなかったばあい、) こまるのはジブンだ。」といていた。だれかがたすけてくれるばあいもあるが、やっぱりジブンがこまるわけだ。ひとのさそいによっていろいろなにかをすることはできるが、ジブンがしっかりしていないと、やっぱりこまるのはジブンなのである。

そういうジブンのハンダンができてくると、さそいをことわったりするようになる。まあ、「こまるのはジブン」だからしょうがない。だれかがこまってくれるわけではないのである。そういうジブンをこまらせないいきかたをわたしがしだしたら、ともだちがすくなくなった。そのまえはいじわるなどもだちばかりだったとはおもわないが、こまらないホウがいいからしょうがない。

ヒャクサンジュウゴ

ヒコーキのキナイで「ビーフ オアフィッシュ」ときかれる (●ヒャクジュウなな)。キナイシヨクのメニューをセンタクするためだ。ニホンではシュウキョウテキナリユウでなにかをたべられないひとはすくないが、そういうばあいもあるから、センタクできたホウがよい。ほかに「コーヒーオアティー」ときかれる。わたしはコーヒーばかりたのんだ。いえではおチャとかむぎチャだったが、そういうエンがあって、ジブンでもかかってつくようになった。あるレストランのコーヒーがおいしかったので、ジブンでもおいしいのをつくりたいとおもったのだろう。いえにサイフォンがあったので、まめをひいてつくったりするようになった。それまでは「シコウヒン」とよばれていた。

ハチジュウネンダイのニホンの(わたしはカイガイセイカツがながかったために、わたしはこういういいかたをすることがある。)ジドウハンバイキなどでは、コーヒーはサンメイガラテイドしかなかった。ほかにコーヒーギユウニユウがあった。モチロンキッサテンもあったが、ケッコウなねだんであった。このあとキュウジュウネンダイにはいつて、ジハンキでうられるコーヒーがふえたとキオクしている。なかにはおいしいのもあるから、ゆたかになったといえるだろうか。タイシュウむけのセイヒンになったかもしれない。

ただ、きづくわたしはコーヒーばかりのむようになっている。「コーヒーかコウチャ

か。」ときかれて、「みず。」とこたえられなかったからかもしれない。そういうギャクテイアンをするのがたしなみかもしれないが、まあ、むずかしかった。いまのガクセイなんかも、「センタクシ」のなかからこたえるモンダイにならされているから、そういうヘンカというのはつづくかもしれない。

ヒャクサンジュウロク

ショウワのころはパンやにやきそばパンとかコロツケパンがおかれていた。いまのパンやは、おしゃれなセイヨウフウのみせがおおいが、ジエイギョウのオヤジさんがやっていたようなみせだ。そういうパンをみつけるとトウジをおもいだす。そのグザイのナイヨウから、ニホンってくにはシツソだったのだなとおもう。だからといってゼイタクなみせがないわけではなかった。またテイショクやもおおかつたとおもう。そりゃにくがはさまったパンがたべられるハンバーガーやがつよくなったのはうなずける。ヤサイばかりでセイカツするのは、むずかしいからだ。

まえにもかいたが（●むヒャクロク）、わたしがコウコウセイのとき、そのシュルイのパンばかりをたべていて（シィディをかいたかったからそうなった。）、ガクシュウイヨクをなくした。いまおもえば、エイヨウブソクである。それでうまくセイカツできるひともいるだろうが、わたしにはむずかしかった。いまでもそういうショクジをつづけたら、しごとができなくなる。センソウがあったときは、たべられればましただろう。しかし、そういうタイケンをしていないセダイにとってはむずかしい。もっとも、エイヨウブソクではまともなセンソウなどできないだろう。

ヒャクサンジュウなな

なぜかラーメンがワダイになったりする（●アハチジュウ）。カイガイにもシュッテンしているときく。わたしがカイガイにいたころは、そのまちにラーメンやというのはほとんどなかった。あったのはゲンチのメンリョウリヤだ。それと、ニホンリョウリヤがジュッケンがあった。さしみやテンプラなどをだすみせである。いえではおふくろのつくるカテイリョウリだったが、たまにそういうみせにもショクジにいった。カツドンがゴヒャクエンくらいだったから、そんなにたかいわけではない。あじもわるくなかった。さて、なぜラーメンか。たしかにたまにたべたいとおもう。しかし、なまえが「チュウカそば」とか「シナそば（シナのそばだからそういう。シナとはチュウゴクのことだ。）」だったら、そうワダイにならなかったのではとおもう。なぜか、「アーメン」にしているからである。そのことばはながネンいわれつづけているらしい。だからしたしみがわくのではないだろうか。「ラーメン」くってりゃ、エンギがいいみたいなのはなしである。

ヒャクサンジュウハチ

「クラシックオンガクをきく。」という。わたしは、この「クラシック」というタンゴを「コテンテキナ」というイミとしてチュウガクセイのときにおぼえた（●ヒャクジュウニ）。だが、いまかんがえてみると、どうもそういうことでないとおもう。「クラシック」というつづりの「クラス」とは、シャカイテキナカイキユウをさしたりする。ジョウリュウカイキユウというようなのである。つまり「クラシックオンガク」とは、カクチョウたかいオンガク、キゾクのオンガクというイミである。

だからそういうかんがえかた、カイキユウがあると、をあまりしないひとでも、ティシャツをきてききにいかないのである。そういうひとはいなくはないかもしれないが、そのひとはかわりものである。ジツをいうと、わたしもわかいころ、ティシャツでききにいつてしまったことがある。だから、ガッコウでおぼえたこたえばかりがただしとおもっているとクロウする。そういうわけなのか、ガッコウのエイゴのジュギョウがきらいだった。ジブンでガクシュウするようになってからは、すきになったが。

ヒャクサンジュウキユウ

あるシソウについてデントウテキナタチバをとるひとを「ホシュ」といったりする。IPP、カイカクテキナことをいうひとを「カクシン」とかいたりする。「リベラル」だと「ジュウ」のハセイだから「ジュウシュギ」か「ジュウナンな」であろう。その「ホシュ」テキナひとがキョクタンになってくるとどうなるか。「ああしなければならぬ。」「～であるべきだ。」といいだす。ゴジブンのことをいうブンにはおおいにケッコウだが、いくら、デントウテキナにたたくても、ひとにくってかかってキョウヨウするようだとこまる。そのひどいかんじの「ホシュ」をわたしは「ボシュ」という。ボシュはジブンがいうことがただしとおもい、ひとにシテキシ、キョウヨウする「ボス」のようなタチイチだが、ザンネンながらジンボウはうすいのではないか。

ヒャクヨンジュウ

ことしはひさしぶりにむくどりが、うちのちかくにすをつくった（●アゴジュウシチ）。ジュウネンまえはうちのとぶくろにすをつくったが、コンカイはどうもイチをトクテイできていない。ゴガツゲジュンからひながかえてなきはじめた。はじめはキカイテキニないていたが、あるテイドそだつと、カンジョウというかがそだつようである。なきごえにキョウジャクがでてきた。それにおやどりのなきごえにもハンノウするようである。なかなかほほえましい。

ヒャクヨンジュウイチ

きたチョウセンがどうのこうのといっている。ケイザイセイサイからブリョクセイサイもありうるジョウキョウになってきているようだ。きたチョウセンもむかしのニホンとおなじように、セキユがきれたらおしまいである（●ななジュウイチ）。ニホンはセキユをもとめてナンシンしたが、きたチョウセンはどうするであろう。ちかそうなのはシベリアである。そこまでシンコウするもあるだろうが、さむくてもうごくセンシャができたとはきかないから、むずかしいだろう。まだそういううごきがみえないから、ケイザイセイサイがあまりうまくいっていないかもしれない。いくらゲンバクがあったって、あぶらがなけりやはこべないのである。

ヒャクヨンジュウニ

「ソウシツされたいくとし（●アニヒャクニジュウロク）」みたいないいかたの「いくとし」のブズンは、もうサンジュウネンくらいになるんだろう。それは、シャカイシュギシャからみたくいいかたなのかもしれない。つまり「シャカイシュギシャカイ（●ヒャクニジュウゴ）」がうしなわれて「ナンネン」というようなのである。たしかに、ニホンはソボクなシャカイだったかもしれない。

カデンセイヒンの「サンシュのジンギ」、たしか、レイゾウコ、センタクキ、テレビではなかったか、などいわれるように、かうものや、くらしぶりがよこならびのシャカイだったといわれる。しかし、ジュウにセンタクしだしたら、あるひとはステレオソウチをかって、あるひとはボートをかって、あるひとはバイクをかうとなる。そうになるとよこならびとはいわない。ロードウシャとしてはよこならびかもしれないが、あのひとはセイシャイン、あのひとはハケンシャイン、あのひとはアルバイトとなれば、やはりよこならびでない。そういうのがハチジュウネンダイおわりからケンチョになってきたという。

だからシャカイシュギが「ソウシツされたいくとし」なのであろう。シャカイシュギのホンザンのソレンもかわってしまった。でも、「ソウシツされた」ということは、またフッカツ（する）というイをふくんでいる。それでいいのかはわからないが、どうやってフッカツさせるのだろう。

ヒャクヨンジュウサン

シャカイシュギシャカイをおわらせたかったら、そのシャカイシュギシャカイのひとにうまいものをくわせればいい。そのひとがそのうまいものはなしをはじめると、そのシャカイでうわさになって、そういうものをたべたいというはなしになる。そういうものは、たかかたりするから、それをたべたひととたべていないひとのカクサができてくる。それをカイショウしようとして、そのショクリョウをやすくしようとするかもしれないが、それはザイセイテキなフタンになる。それがつづく、セイフフサイがふくらみ、やがてセイフはハタンする。そうするとモンダイのたべものをヨウゴするひとと、シジしないひとにわかれて、シャカイシュギシャカイはホウカイする。

キョウソウをドウニューしようとか、しないでよいといいはじめる。ニホンのシャカイもハチジュウネンダイおわりの「ギユウニク」で、シャカイシュギがおわったのだろう。だから、ジショウシャカイシュギシャがシンヨウできるかをみやぶるには、どんなものをたべているかをきくといい。タブンなまぐさじゃつとまらないはずだ。

ヒャクヨンジュウヨン

よくよくかんがえてみると、シュミをダイコウしてかせいでいるひとがいる。むしろそれがサンギョウになっていたりする。「エイガ」だったら、ジブンででかけてタイケンするようなことを、エイゾウとオンセイのハウコクでうけとっていたりする。オンガクだったら、ジブンでエンソウするわけではなく、だれかがかわりにひいて、そのハウコク（シィディ）などをうけとったりする。

これらのばあい、「ハウコク（ディブイディやシィディ）」にエイゾウやオンガクをふきこむひとがシュミをダイコウしている。シャシンならシャシンをとるひとがダイコウしているし、ホンもかくひとがしている。えならえをかくひとがダイコウしている。なぜそういうダイコウがおおいのか。ジブンでみにいったり、ひいたり、かいたりすればいいが、タブン、いまのひとはジカンがないか、オウチャクなのだろう。ネンカンシュミにヒャクジカンかかるところをジュウジカンで、ヒャクジカンかかることをイチジカンですませようとするのだろう。それにサンゼンエンはらったハウがやすいのであろう。ジュウキュウセイキおわりからニジュウセイキにかけてキロクギジュツがハツタツして、そういうサービスがハッテンした。もっとすすむとひとはリョコウにいかなくなるかもしれない。ハウコクをうければいいからだ。ジムかたをしているなら、カイシャにいかなくてすむかもしれない。ハウコクとサギョウケツカをおくって、キュウリョウがふりこまれればいいからだ。ショウテンもいらなくなるかもしれない。ハウコクをうけて、しなものがおくれればいいからだ。

ヒャクヨンジュウゴ

どうもタバコがきらわれている（●ヒャクジュウゴ）。ケンコウにわるいとされているからのようだ。しかし、けむりをだすものでもくるまはキンシしろとかいわない。タブン、データをとれば、くるまもケンコウをガイするとでそうだ。なぜタバコがダメで、くるまはよしなのか。タブン、タバコをやめろというひとは、くるまにのっていないにちがいない。そのくるまがだれかのケンコウをガイしてしまうからだ。そうじゃなければ、シィテキないやがらせだ。それならあなたもくるまにのることをやめてくださいといたい。おたがいさまだとおもう。それでもというなら、タバコドウヨウに、ジドウシャのシャタイに、「あなたのジドウシャのリョウで、なんにんかがハイガンになるカノウセイがたかまります。」とはるしかない。

ヒャクヨンジュウロク

サンゴクシにでてくるリュウ（ビ）ショウグンには、カン（ウ）ショウグンというブカがいた。カンショウグンがチョウサというチイキをやぶったときに、ギ（エン）というショウグンがくだった。そのときにリュウショウグンのブカであるショカツ（リュウ）ショウグンが「このものはムホンのソウがある。」と喋り出した。しかし、リュウショウグンは、「くだったショウをうつのはジンでない。」といい、たすけた。ショカツショウグンは、そのばでギをいましめリュウショウグンのいうとおりにした。やがてリュウショウグンがしに、そのタイシがショウグンになったとき、ショカツショウグンはたびたびグンをひきいてガイセイした。

そのときギもショウグンとしてジンナイにいた。ショカツショウグンがビョウシしようとするとき、ほかのショウグンすすめで、ジュミョウがのびるいのりをするに決めた。なにかカンのいのりがサイゴのイチニチになったとき、テキがショカツショウグンのビョウジョウをしり、さぐりをいれにきた。それをしたギショウグンはショカツショウグンのもとをおとすれ、いのりのためのひをけしてしまった。それでショカツショウグンはたおれてしまった。チョウサでギショウグンがくだったとき、ショカツショウグンは、ギショウグンをきろうとしたが、リュウショウグンにとめられた。しかし、ケツカテキに、そのショカツショウグンはギショウグンにころされてしまうのである。ヒニクなケツカといわざるをえない。

ひとをわるくおもったら、そういうクウキがつたわり、フクシュウされてしまうかもしれない。そんなフウにおもってしまう。だからサイバンカンというセンモンカがソングイするのだともおもう。いまはシミンシャカイともいわれる。セイギをかたってウンドウするのもよいが、センモンカにまかせてしまうのもいいのではとおもう。

ヒャクヨンジュウなな

サンゴクシにでてくるショカツショウグンはショモツにつうじ、いろいろなセイヒンをつくった。かれがしるしたホンのジスウはジュウマンジだという。いまにつたわっているのかわからないが、ひとつのジダイのダイイチニンシャがしるしたホンがたつたジュウマンジである。わたしもホンをかいているが、このイッサクでジュウマンジゼンゴだ。すくないジカズでホンをしるすというのはむずかしい。やってみればわかるがソウトウなクロウだろう。ギャクにモーツァルトは、コウキョウキョクをたしかヨンジュウイッサクのこした。これもやってみればわかるが、サンジュップンテイドのながさのものを、おとをジュウイジョウかさねて、ヨンジュウイッサクのこすのはむずかしい。わたしもガツソウキョクをヨンジュウイッサクつくったが、それぞれわずかサンジュップンテイドで、おとかずもすくない。すごいひとはすごい。

ヒャクヨンジュウハチ

ショカツショウグンが、ナンポウをヘイテイしたとき、あるかわがあればとわたれないといわれた。そのチホウのひとはかみに、ヨンジュウキュウニンのくびをまつれば、かわはわたれるようになるという。ショカツショウグンは、それはどうかと、かわのかみに、ギウバのにくをむぎのねりものに入れ、ひとのあたまのかたちにした「マントウ(●アロクジュウヨン)」をつくり、かわのかみにそなえて、サイブンをよみあげて、かわのおさまりをまった。やがてかわはわたれるようになり、フウシュウはあらたまった。しかし、イッパンテキに、こうしたフウシュウをあらためるのはむずかしいだろう。レイコンをメイシンだとするゴウリシュギもあるが、いまになってもかみへのシンコウはなくなる。メイシンだというひともあるだろうが、やはりそういうひとのころはなくなる。かえようとするなら、ショカツショウグンがしたように、カイゼンするようだろう。そうやってシンコウのかたちもかわっていくのだろう。ちなみに「マントウ」はニホンでは「マンジュウ」といわれている。にくがはいった「ニクマン」がゲンケイにちかいだろう。

ヒャクヨンジュウキュウ

つまらないとおもうことがある。つまらないとおもったら、ベツのことをすればいい。「つまらない」がわからなくなったらタイヘンだ。「つまらない」なにかをずっとつづけてしまうことになる。モチロン、「つまらない」ことをつづけたホウがえらいかもしれないが、「たのしい」こともダイジだ。ダイタイそれはシジョウでハンダンされるから、シジョウでのヒョウカをしいれば、わかることもいえる。モチロン、カイホウテキなシジョウではあるが。だからキセイカンワしたホウがいいかもしれない。「つまらない」を「たのしい」にそこあげしてしまっていそうだからだ。はじめ、「つまらない」はあまるだろうが、すぐに「つまらない」をシュトクするひとがでてくる。いつも「たのしんで」いるひとからみれば、「つまらない」はジンセイのスパイスのようだ。

ヒャクゴジュウ

カイガイでのなしだが、かわでセンタクしているのをみたことがある。しかし、ときがたつにつれみかけなくなった。ウンコとかセンザイをながすようになったらむずかしいだろう。センタクキをつかうのがゆたかか。カンキョウオセンでセンタクキをつかうのでは、ゆたかとはいえないであろう。かわがきれいならかわでセンタクすればいいのである。カンキョウがいいからできる。それはまずしいとはいえないのである。

ヒャクゴジュウイチ

そばやでは「かけそば」というチュウモンができたりする。なぜ「かけ」なのか。タブン、そばにつゆをかけるからだろう。かけうりをしているからではないとおもう。「じゃ、つけといて。」といっても、「まってくれ。」だろう。ところが、どんぶりにさきにつゆをいれるとどうなるか。そういうみせがふえたので、「つけめん」というのだろう。これも「つけ」はきかないとおもう。

ヒャクゴジュウニ

ことしもやっぱりみずブソクのようなだ（●ヒャクイチ）。かわのみずがすくなかったりする。それでまたサンカイイッカイホウ（ベンジョをサンカイにイッカイながす）をしている（●むヒャクジュウニ）。つゆだというのにあまりあめもふらない。ベンジョをドンドンながしていれば、やがてみずはなくなる。だからドリョクをしている。「ジブンジンをたすけるものをたすける。」という。ドリョクがヒツヨウなわけである。わたしのオヤジも、（なにかをやらなければ）こまるのはジブンだといっていた（●ヒャクサンジュウヨン）。かってによくなるというのはなかなかなさそうである。

ヒャクゴジュウサン

むくどりがすをつくって（●ヒャクヨンジュウ）、このまえすだっていった。ギターひいていたから、そのシュンカンはずかしくなかった。ひながかえってからはちょっとやかましかったが、まあよかった。ジュウネぶりにうちのちかくにすげできた。

ヒャクゴジュウヨン

サンビャクニジュッサイまでいきるホウホウがみつかった。ちょっとうさんくさいからヒャクロクジュッサイにしておこう。ヒャクロクジュッサイとはどういうことか。レイサイからヒャクロクジュッサイまでのみちのりがあるくのににている。つまりヒャクロクジュッサイブンうごくわけだ。もちろんサイボウなんかがうごくはやさをかえられるわけではない。

「ジカンかけるはやさがみちのり」という。ジカンやはやさがニバイになれば、ニバイのみちのりをすすむことができる。だからバイソクでうごければ、ニバイいきるようになる。それがコウリツカにもつかわれる。ここでの「コウリツカ」とはキギョウカツドウのである。だからガッコウでは「はやく」とせかされる。はやくできるホウがほめられる。しごとがはやければ、チンギンをすくなくしたり、しごとリョウをふやしたりできる。それはケイエイヤにとってもわるくない。だから、ガッコウにニバイソクコースをつくれればよい。と『アルカラカンガエル』（●ア ヒャクロクジュウイチ）でいった。しかし、ソクドだけではない。ジカンをニバイにしてもニバイのみちのりがあるける。

そのジカンとはなにか。ツウジョウはチキウがイッカイまわってイチニチである。そのイチニチをバイにできるかという、それはむずかしい。とけいのニジュウジカンのあいだにニカイまわるということだからだ。それはいってみると、ガイクのモンダイだ。シゼンカガクテキなモンダイだ。ではそうでない「ジカン」とはなにか。ジブンがイシキするまでである。それをもっとこまかくすれば、どういうことかという、コウツウジコのシュンカンにゆっくりものがうごくように見えるというぐあいである。イチビョウのあいだにニビョウブンのこまかさをもてばいいのである。コンピュータでいえば、サンプリングをニバイすればいいということだ。ベツにそれはいそぐわけではない。ただニビョウブンのしごとができそうというはなしである。

それができればツウジョウハチジュサイまでいけるところを、ヒャクロクジュッサイブンのいきるといことができるだろう。ちなみにサンビャクニジュッキロのはやきですすむくるまがあっても、それだとヒャクロクジュッキロにかんじてしまうが、それでおそいとおもうなら、ロツピャクヨンジュッキロでくるまをつくれればいい。

ヒャクゴジュウゴ

コウエンにいった。なんとなくそとへでて、きぶんテンカンをしようとおもった。ショウテンにいてもよかったが、コウエンがあるのにきがついて（そのソンザイジタイはまえからしっていた。）コウエンでやすむことにした。「コウエン」というのは、たしかヨーロッパのハツメイだったとおもう。いいハツメイは、そのゴをいきるひとをたのしませる。メイジコウにニホンにもドウニユウされたのだとおもう。わたしもちいさなころリヨウした。ユウグがあるとこどもはそっちに行く。きがうえられているのもトクチョウではないだろうか。

そういえばサイキンキをみているひとをみかけない。むかしはそういうおとながいたようなきがするが、きづいたらわたしがそうになっていた。どんぐりのなるきだとおもうが、なまえはわからない。わたしはそういうジョウホウにうといからである。それでもきを見るブン、きにくわしいかもしれない。ジブンのドウセダイとはなして、きのはなしになることがすくない。もっとうえのセダイだと、きについていろいろかたる。きをみたことがないわけではないだろうが、そういうはなしをしない。そんなわけだから、ニホンが「カガクタイコク」なんていうと、うそだろとなる。そういうシゼンカガクにうとそうだからである。たしかに、ものしりとかケンキュウシャはいる。しかし、そういうはなしをしないと、シゼンカガクのソヨウがないといえるだろう。

わたしもわかひころは、きというと「のぼれる」きと「のぼりにくい」きがあるくらいニシキしかなかった。としがたつにつれすこしずつちがいがわかってきた。くだものならないきはいらぬか。ランボウなどであるが、やっぱりヒツヨウだろう。そういうきがサンソをキョウキュウしてくれるからである。ニンゲンだってそうだ。キョクロンすると、ニサンカタソをはきだして、ウンコをだしてりやいいのだろう。でも「シャカイ」ではあんまりそういうことをいわない。しごとをしなくちゃいけないとか、そういうことをいう。

むかしはたべていくためにはたらくといていた。でもそれならノウギョウをすればよい。それならたべられるからだ。むかしはそうやっていただろう。しかし、いまはしごと（ロウドウ）やなにかをコウカンしなければ、メシにありつけなかつたりする。チョコセツたべものをつくれればむだがないが（コウカンのサイのジカンのムダなど）、どうもそういう「ムダ」なことをするのがイッパンテキだ。もし、あなたがジカンをほしがらるならば、ノウギョウをするといい。コウカンのてまひまがはぶけるからだ。でもいまのシャカイは、ムダなコウカンをしつつ、うまくやりましようというのが、そのシソウなんだとおもう。

ヒャクゴジュウロク

コウカンをフクザツにしていくとムダがしょうじる。しかし、そのムダがベツのしごとをうむ。わかりやすくいえば、しごとのあいだ、こどもをあずかってほしいとか、すぐにたべられるショクドウがほしいとかである。ショウニンコウカンのサイのムダでたべるためのおかねをかせぐ。そうこうしていると、じゃあ、こどもをあずかるとか、いそいでごはんをつくりますというひとがでてくる。それをムダといって、おこるようなひとはあまりいない。そういうムダでたべるひともいるのである。そういうムダのおおいチイキをトシとよんだりする。そこにはそういうムダがあるからしごとがある。だからひとがあつまる。ニホンだったらトウキョウがサイたるものだ。とにかくひとがあつまっている。ムダはムダだが、それはひとをたすけるから、いいムダだとゲンダイジンはいうのではないか。

ベツのムダもある。「ゼイキン」というやつである。これは、くにやカクジチタイにあつめられ、そのジュウミンのためにつかわれる。でも、ダイジなのは、さきのシジョウにおけるムダとドウヨウに、ひとにしごとをあたえることではないかとおもう。つまり、チョコセツのコウムインではなくても、しごとがえられ、たべられるようなひとをふやすというコウカがある。ふるくからはオウがそうやってコヨウをイジして、おさめるくにをヘイワにしていたのだろう。センソウをしているオウのはなしばかりをきいていると、なにをしてもいいひとみたいにおもってしまうが、ジッサイはそういうやくめをしているのだろう。

しかし、ムダをはぶいてしまえというひともいる。とりひきのチュウカンにはいつただれかをはぶいてしまって、よりリエキをえたり、ショウヒンをやすくしたりというやりかたである。それだとムダははぶかれて、トクテイのひとはリエキ、シュウエキやねだんのやすさをえられるが、あいだにはいついたひとは、しごとがへるかうしなってしまう。それでいいのかというモンダイがある。

シャカイのアンテイをまもろうとしたら、ほどほどにしたホウがいいかもしれない。かねをふやすことをモクヒョウにしているひとがいるから、そういうムダをはぶいたりすることがショウレイされたりもする。ニホンでは「はげたか」とよばれ、あまりヒョウバンはよくなかったが、そういうひともいる。なにはともあれ、そういうムダもやくにたっているわけだ。

ヒャクゴジュウなな

イッカゲツのシヨクヒがジュウマンエンのひとと、イチマンエンのひとがいるとする。いまのニホンではジュウマンエンだせば、ケッコウいいシヨクジができるだろう。しかしイチマンエンではジュウブンなエイヨウはとりづらい。ひとは、そのひとを「ビンボウ」とよぶかもしれない。そういう「カクサ」がたまにモンダイになる。カクサがあってもいいというひともいるし、へらしたホウがいいというひともいる。へらすとしたら、どうすればへるか。

シヨクヒがつきにイチマンエンのひとが、ジュウマンエンのひとのシヨクジをつくれればいいだろう。シヨクヒがつきにジュウマンエンのひとなら、シヨクヒにジュウマンエンかけられるわけだから、イチマンエンのひとはジュウマンエンうけとって、ゴマンエンブンなり、ハチマンエンブンなりザイリヨウをかい、シヨクヒがジュウマンエンのひとにシヨクジをだせばいい。うまくいけば、シヨクヒがジュウマンエンのひとはマンゾクだし、もともとシヨクヒがイチマンエンのひとは、ゴマンエンなり、ニマンエンなりをかせげる。すると、もとはイチマンエンのシヨクヒのひとはロクマンエンなりサンマンエンなりをシヨクヒにかけられることになる。そうするとカクサもへるし、シャカイもゆたかになるのではないか。

それをジッセンしていたりするの、イミンなどのリヨウリやである。チュウカリヨウリはニンキがあるらしい。そういうチュウゴクジンのチエはただしいとおもう。「チュウゴクジンのチエ」としたが、かならずしもチュウゴクジンだけのものではないとおもう。タンジュンにいえばそのくにのシヨクタクをみれば、そのくにのケイザリヨクがわかるのである。ニホンはななジュウニネンまえのハイセンから「フッコウ」したというが、ホントウにシヨクタクがフッコウしているかといえうたがわしい。オウベイフウのシヨクリヨウなどで、あなうめさされているようなきがするからだ（それはかならずしもわるいことではないが）。デントウテキなニホンシヨクがあまりみられないきがする。それもセンギョウシュフがカツヤクしていたジダイには（ダンカイのセダイくらいまでだろうか。）、デントウテキなシヨクがまもられていただろうが（それもさきのかんがえかたとおなじである。）、そのあとのセダイのともばたらき力によって、シヨクブンカがヘンヨウしているとおもわれる。フッコウは、ダンカイのセダイくらいまではセイコウしていたが、いまはザセツしているようなきがする。いいものをとりいれたといえばきこえはいいが、ほんもののニホンシヨクがみられなくなるのはちょっとかなしい。

ヒャクジュウハチ

こめぐにとかいて「ベイコク」とよむ。なぜガッシュウコクで、「こめ」なのかもおもうが、よくよくかんがえてみれば、「アメリカ」というのをカンジにして、そのニバンメにつかうモジがそうだからにちがいない。なぜ「アコク」にしないかという、ほかにも

「ア」のつくくにはあるからだろう。そんなこんなで「ベイコク」がテイチャクした。それがあってか、こめをつくるようにもなったときいた。チュウゴクでは、そのニバンメのモジを「うつくしい」とかく。どちらがいいかはわからないが、まあカンジのホンケではそうかく。チュウカケンではニホンフウのことをニッシキとかいてクベツする。カレーだったら、ニッシキカレーという。まあ、そういうちがひがあることをつきあうならわかっていなければならない。

ヒャクゴジュウキュウ

メイジキのホンをよんでいると、「イダイな」、「ブンメイコク」になりたいというキジュツがみえた。また、ジョウダンだったか、ホンキだったかはわからないが、「タイリク（チュウゴク）のチュウシン（タブンチョウアンカラクヨウだろう。）にみやこをおきたい。」というキジュツがあった。それをみて、トウジのひとのイチブはチュウゴクをシンリヤクしたかったのだとおもった。ケッキョクそのころみはジッコウにうつされ、シッパイしたわけだが。

たしかにトウジは、ショクミンチをもつのがはやっていたジダイだ。ニホンはケイザイフウサをかけられ、タイオウベイのカイセンにふみきったが、そういうシソウのジッコウはまずかっただろう。たしかに、センゴアジアのオウベイのショクミンチをカイホウするきっかけをつくったが、やはりイッポウでモンダイがあった。だからチュウゴクジンはときおりケイコクするのであろう。センソウをしていれば、ひとがヒヘイする。それはよくレキシにかかれることである。

ヒャクロクジュウ

ドウブツ、ショクブツとシュルイがあるが、「ニンゲン」はかわったことをしたりする。それは、だれかからかりたおかねがかえせなくてジサツしたり、ニンゲンカンケイをくに、デンシャにとびこんだりというコウドウである。わたしにいわせれば、これは「ニンゲンビョウ」である。ほかのドウブツではあまりきかない。そうやって「ジサツ」するとほかの、というかりガイカンケイシャがシカタないとおもうのだろう。そういうかんじで「ジサツ」がピカされたりする。これはオウベイではよしとされず、またチュウゴクでも、「シタイにむちをうつ。」というくらいだから、そうはならない。サイバンで「チョウエキニヒャクネン。」なんてハンケツをだすくにもある。じゃそれは「ニホンジンビョウ」じゃないかといわれるかもしれないが、そういうことじゃない。もっとひろいハンイのことをいう。たとえば、ベンジョをつかったら、みずでながさなければならぬというのもニンゲンビョウだろう。ケッコウかぞえればあるはずだ。たまにはそういうニンゲンビョウからはなれるのもいいかもしれない。タブン、あたらしいノウのモンダイなんだろう（●ヒャクジュウサン）。

ヒャクロクジュウイチ

ゲンダイはシュウキョウがスイタイしたといわれる。それでもシンコウをもっているひとはおおいし、シュウキョウがさかんなチイキもある。ニホンではセゴにスイタイしたといわれる。シュウキョウにはおしえがある。カイリツがあつたりもする。それをジッセンしていたのがシンコウシャだろう。

しかし、そういうのがはやらなくなったのはなぜだろう。ジユウになったのかもしれない。あなたがシンコウするのはカッテだけど、わたしはしない。というぐあいである。ケツコンもジユウになったわけだから、そういうジユウが、おしえにとってかわったのかもしれない。たしかに、「ジユウ」が、めざすべきリソウだとすれば、それはシュウキョウタイリツをおこさない。あなたのジユウはみとめるし、わたしのジユウもみとめられるとなる。なのにもかかわらず、ケンカしてしまったらジユウでない。それぞれのジユウをみとめていないことになるからだ。しかし、ジユウをそれほどみとめられるのかというモンダイはある。やっぱりどこかでケンカしてしまつたりするだろうから。また、ジユウならケツコンするヒツヨウもない。テキトウに、あいてをとりかえてもよい、つきあえばいいのだ。「フウフベッセイ」とかいつているから、そっちのホウにすすんでいるんだろう。とはいえ、カゲキなジユウシュギシャにであつたことはないのだが。

ヒャクロクジュウニ

むしがわたしのコップのなかにはいつていた。キュウシュツしてみたが、どうもフッカツするきざしがない。スイシ、イチである。なぜ、むしがコップのなかにはいるか。ニンゲンをみればわかる。きもちいいだろうとおもつて、かわやプールにはいるのである。むしだつてそうなのだろう。しかし、ときにジコがおこる。ニンゲンだつておぼれるのだ。むしにしたつてそうなのだろう。このなつはヨンケンぐらいキュウシュツした。ザンネンながら、イッケンをのぞいて「デキシ」である。

ヒャクロクジュウサン

わたしがちいさいころは、「かや」というものがあつた（●サンジュウなな）。いまでもあるだろうが、あまりみない。へやのサイズのあみをうえ、サユウ、ゼンコウメンにはり、むしのシンニユウをふせぐというものである。そのなかにはいつていれば、むしにさされないとつうわけだ。それをつかつていたころにくらべて、いまのいえは、あみどがしっかりしてきているのだろう。カクサシャカイがすすんださまもそれになつているかもしれない。かねもちがヨウサイみたいなまちにすすんで、ビンボウニンは、はいれないといふさまだ。「かやのそと」とつうことばは、つうつうばあいにつう。サイキンはあまりきかないが。

ヒャクロクジュウヨン

ことしもみずぶそくだった（●ヒャクゴジュウニ）。セイカクにいうと、ハチガツまでみずブソクであった。ただ、ハチガツにあめがよくふったので、シンコクなジタイにはならなかった。めぐまれているのだろう。それがなかったら、トウキョウはサバクカである。みずがすくなく、ショクブツがすくないチイキをサバクとよぶ。そのサバクである。そういうダイメイのうたもあったが、そのモジどおりのはなしである。

あめがふる（みずがハウフにある）からショクブツがタクサンそだつのか、ショクブツがタクサンあるから、あめがよくふるのかわからない。どっちもあるというところだろう。そうかんがえられるのなら、タクチにするために、はたけをやめるといのはひかえたハウがいいとおもう。はたけのショクブツがみずをよんでくるかもしれないのだ。わたしはロサンゼルスにいったことがあるが、まちがほこりっぽかった。サバクにつくったまちだからのようだ。それでも、みどりをうえていたりするからたいしたものだ。トウキョウが「サバクカ」すればセイカツにこまるから、ほかヘイジュウするひとがふえ、チカがさがるだろう。にもかかわらず、ビルをたてている。あまりシンコクさがないようだ。

ヒャクロクジュウゴ

あるよりにカナブンがあみどのすきまをかいくぐり、ヘヤにはいつてきた。えらいいきおいでとんでまわる。ホカクして、そとににがしてやろうとおもったが、あまりにはやいので、ジカイにすることにした。ヤセイというのはそんなものかもしれない。そんなにおおきくないむしだが、ヤセイみがある。それとチエくらべをやったって、ジツサイにわたしがうごかなければならないわけだから、そうカンタンにケツチャクはつかない。ソンスのヘイホウにも、いきおいがさかんなテキとはたたかわないというのがあったかとおもう。イチニチたってもいきおいはさかんで、ふつかたってホカクした。たまにヤセイをみるというのもいい。

ヒャクロクジュウロク

サイキンはジョセイで「マルマルこ」と「こ」がつくなまえがすくなくなっているとおもう。わたしのセダイぐらいでもめずらしかったかもしれない。なるほど、それならこどもも少なくなるわけだといえないか。「こ」がすくないわけでしょと。こどもがすくなくなったから、「こ」のつくなまえがへったのか。「こ」のつくなまえがへったから、こどもがへったのかはよくわからない。でも、そこそこソウカン（ヒレイ）しているでしょと。なかなかつけづらいかもしれないですね。でも、ヨンジュウネンまえにそういうことがわかったということですから。「ダイサンジベビーブーム」はおきないと。キタイしていたむきもあるみたいだけど。

ヒャクロクジュウなな

「コスト」をへらす。というとコウテイテキにとらえるひがおおいのではないか。たとえば、ネンピのよいくるまをかって、ガソリンイチリッターあたりジュッキロはしるところを、ニジュッキロはしるようになり、ネンリョウコストをニブンのイチ、ジュッキロあたりヒャクニジュウエンへらしましたと。カイシャでもコテイヒをへらして、ネンカンナンゼンマンエンヒョウをへらしたとかいう。でも、それにイをとなえるひはあまりいない。タイテイ、それをきいたひとはよかったですねとか、うちもみならわなきやだろう。

しかし、そのコストは、ホントウにへるものなのか。さきのくるまでいうと、サクゲンされたイチリッターあたりヒャクニジュウエンのもと「コスト」はどこへいくのか。それはくるまホンタイのねだんにいくというのがひとつのこたえだろう。つまり、ショウエネブヒンをつかっているために、まえにのっていたくるまよりハチジュウマンエンたかいか。カップラーメンがテイカニヒャクエンのところ、ヒャクエンでうっていたら、かうほうのコストはヒャクエンへるがそのもとコストはどこへいくのか。メーカーがフタンしているかもしれないし、こうりテンがフタンしているかもしれない。

つまり、ひとつのキャンからは「コスト」はへらせるのだが、そのもと「コスト」ジタイはなくなるものではないということだ。だから、だれかがコストカットしたというときには、ほかのだれかにコストがイテンしたということだ。キュウジュウネンダイのギンコウのフリオウサイケンモンダイでいえば、ギンコウの「あかじ」というコストは、イチジテキにせよ、すべてゼイキンでまかなわれた。つまりコストがノウゼイシャのホウにイテンしたのである。あとでかえされたらしいが、そうやってコストをすててしまえ、コストカットしたもとコストをそとにやっつけてしまえといかんがえかただと、むかしのヨーロッパのデンセンビョウのはなしににているだろう。トシのジュウミンはフンニョウをジブンのへやのそとへほうりだした。みながそうするから、とうとうデンセンビョウがハッセイしたというわけだ。だからコストのもっていきさきにはきをつけなければならない。

ヒャクロクジュウハチ

「コウトウキョウイクムショウカ」なんていっているけど、それはどうなのか。まあ、ひまになったらあそびにいけるということもできるかもしれない。しかし、おとなのあそびにかねをだすとはおもえない。なぜギモンにおもうのか。それはわたしがコウコウセイのころからおもっていたかもしれないテーマである。

わたしがコウコウセイをしていたころ、わたしはスウガクのジュギョウがすきではなかった。いまでもそうだが、ジッサイテキなモンダイでないと、ときづらいのである。カクウのはなしをするというのはいまでもにがてかもしれない。だから、モンダイをジッ

サイテキなモンダイにおきかえておいていた。それはジカンがかかるからジカンがたりなくなる。それでいいテンはとれなかった。わたしはトクにドリヨクもせずにコウコウへはいったから、そのやりかたをつづけるか、ドリヨクをするかのセンタクシがあったとおもう。しかし、「やくにたつのか。」というといがずっとホジされ、したがって、そのセンタクすらしなかった。

その「やくにたつのか」というといをいまかんがえると、「やくにたたない。」といえるかもしれない。なぜか。コンピュータがあるのである。ダイガクのとくにトウケイで、センヨウのソフトウェアをつかったことがある。それだと、スウシキをしらずとも、ジドウテキにもとめたことのこたえがでる。それもシュンカンテキに。イッポウ、ヒョウケイサンソフトにデータとスウシキをニューリユクして、こたえをだすこともできる。やっぱりコンピュータをつかうのだが、ジンリキでケイサンするよりはよい。つまり、そのでのケイサンはコンピュータがやってくれるかもしれないのである。しかもコンピュータのホウがはよい。コウコウセイのころのわたしは、そのことがなんとなくわかってたのかもしれない。たしかにあるスウシキなどをしていたホウがいいかもしれないが、それだけではしごとにならない。しごとにしたいのだったらコンピュータよりユウシュウじゃなきゃいけない。だから、コウコウセイなりダイガクセイがスウガクをまなぶのはヒテイしない。しかし、それだけではコンピュータにかたない。つまりしごとにならないのである。だから、まなばなくてもいいのかもしれない。そのジカンをほかのしごとのやくにたたせればとおもう。

そういうわけで、コウトウキョウイクのムショウカはギモンなのである。うがったみかたをすれば、コウトウキョウイクにカチがなくなったというセンゲンなのかもしれない。いまはエーアイ（ジンコウチノウ）がハツタツしているから、コクゴ（コクゴはタイセツだが）やシャカイ、エイゴ、セイブツ、カガクなんかもエーアイにかてるようなセイトをハイシュツできないのではないか。ハイシュツできたとしてもほんのわずかだろう。ほんのわずかなひとのために、ガッコウがあるのはかまわないが、ほかのセイトはどうするということになる。おかねがあれば、あそぶつもりでコウコウ、ダイガクとすすんでもいいかもしれない。しかし、そこでまなんだことは、やくにたたないというジカクがダイジである。まあ、キョウシのテンシヨクさきのメンドウもあるから、とりあえずゼイキンをつかって、コヨウはメンドウをみましようということかもしれない。ナイヨウはやくにたたないが、カダイにむかうシセイはダイジだとホソクしておく。

ヒャクロクジュウキュウ

ショクドウでたべて、すくなくカンジョウをすませると、「おキヤクさん、たりないですよ。」とおいかける。にげきってしまうホウホウもあるが、タブン、そのみせにはそのごいけなくなる。ばあいによってはタイホされる。ジュウロクセイキのおだのぶながコウはベツにくいにげしたわけではない。ただなにかにモンダイがあったんだろう。テンカトウイツをまえにムホンにあい、ボツすることになった。ブツモンのイチブへのダンアツがまずかったのか、カシンへのキュウリヨウのしはらいがわるかったのかわから

ないが（ここではなにかの「しはらい」とかんがえる。タシャへのケイアイなども、ここでは「しはらい」だ。）、なにかへのしはらいがわるかったのではないかとスイソクする。しはらいがわるいとききのようにおいかけるし、タイホされることがある。あまりいのちをとられることはないとおもうが、そういうこともある。ムチャなセイキュウをされてというモンダイもあるが、やっぱりしはらいがたりなかったのだろう。おおきなしごとをするなら、フツウのしごとでもそうだが、しはらいがきちんとしていなければ、シッパイすることがある。だから、のぶながコウのキョウクンとして、しはらいをきちんとするようにきをつけたホウがいい。

ヒャクななジュウ

わたしのわかいころは、ウンドウをしてタイリヨクがあったからか、メシよりほかのなにかをユウセンさせたりしていた。とはいっても、せいぜいシィディをかってきてオンガクをきくとか、ガッキをひくとかそんなもんだ（●ヒャクサンジュウロク）。ユウセンジュンイでメシはひくいジュンイだった。だから、あさゴハンをたべなかつたりした。そうしているとセイセキなり、ギョウセキがおちた。だから、よりがんばろうと、メシをあとまわしにするのだが、ギョウセキはあがらない。あるときはうごけなくなった。サイキンになって、メシはダイジだとおもうようになったが、そんなシツタイがあった。「ブシのたかヨウジ」というけど、いくさのときはくわなきやたたかえないでしょとおもう。そういうわけで、メシをジュウシするようになった。あたらしいノウがかんがえることよりも、ふるいノウがかんがえることのホウが、キソテキなんだろう（●ヒャクジュウサン）。ジブンという「ゲンシジン」をよろこばせるにかぎる。

ヒャクななジュウイチ

おかねがなくてもなんとかなることがある。クフウしだいでなんとかなるというはなしである。どこかで「チューハイ」をのむとサンビャクエンとかとられる。カンにはいつているものにしてもヒャクゴジュウエンとかかかる。もっとやすくのみたい。それなら、チューハイハイにすればいい。タンジュンにいうと「チューハイ」のみずわりである。モチロン、ほんもののチューハイハイは、タンサンスイでわるだろう。しかし、これをのみやでやるのはスイショウしない。トラブルになるカノウセイがあるからである。

ヒャクななジュウニ

パソコンはシダイにあつかうジョウホウリョウがふえた。ニジュウネンまえはメモリがロクジュウヨンメガバイトで、ハードディスクがロクギガバイトだったりした。しかし、いまはメモリがハチギガバイトで、ハードディスクがゴヒャクギガバイトとヒャクバイ

ちかいヨウリヨウになっている。それでなにがかわったかという、ジョウホウのきめこまかさがふえたり、ショリにかかるジョウホウリヨウがふえたりということだ。

それできれいなガゾウがみられたり、きめこまかいオンガクをきけたりはケッコウだが、ジンリキでそれらの「フゴウ」をよみとくことはコンナンなので、キカイだよりとなる。タクサンジョウホウショリをすとなれば、そのぶんだけデンキをつかうわけだから、「ショウエネ」とはいえない。それなら「ショウエネ」パソコンとかあってもいいわけだ。はなしはわかるが、このまえはじめてジツブツの「ショウエネスーツ」をみた（「みた」といっても、だれかがきいているところでない。）。そでのところがみごとに「ショウエネ」されて、なつもすずしそうだった。よくかんがえたが、テイチャクしなかったものである。

ヒャクななジュウサン

わたしがちいさいころ、テレビゲームキであそんだ。はじめのころはどうもニジュウヨンキロバイトだ、サンジュウニキロバイトのメモリ（リードオンリー）をつかっていたらしいが、二、サンネンたつとロクジュウヨンキロバイトだ、ヒャクニジュウハチキロバイトのメモリになり、ニヒャクゴジュウロクキロバイト、ゴヒャクジュウニキロバイト、イチメガバイトとヨウリヨウがおおきくなった。

そのころには、シィディがハツバイされていたようだ。ヨウリヨウだけみればそのシィディのホウがアットウテキだ（ななヒャクメガバイト）。そのゴシィディはパソコンヨウのキロクラブヒンとしてもちいられる。だからそのジキに（ドラゴンクエストニがでたころぐらい）、シィディであそぶゲームキができれば、ながくつづくゲームキができていたかもしれない。しかし、ゲンジツには「フロッピーディスク」みたいなディスクをつかったゲームキができた。それだとイチメガほどだ。つまりジダイおくれのヨウリヨウのものだ。だからしくみ（ゲームをかきかえるキノウがあった。）はよかったが、それほどうれなかつたろう。

いまふりかえると、それはニホンのハンドウタイサンギョウのハッタツのレキシである。ニジュウヨンキロバイトのメモリから、ニメガバイトのメモリとスウネンでヨウリヨウをふやしたのである。パソコンのメモリでは、ややあたらしくなるが、ニジュウネンかけて、ロクジュウヨンメガからハチギガバイトのメモリにかわっていった。そのはやさをかんがえると、ニホンのキギョウがどれだけちからをいれていたかわかる（いまのパソコンのメモリは、あまりニホンキギョウはつくっていない（つくっていても、「シェア」がちいさいといったホウがいいかもしれない）。つまり、トウジのこどもがかいさきえていたのだ。テレビゲームがコクナイでダイリュウコウしたからだ。

いまは、ディブイディなどをつかってあそぶゲームキをつくってもジダイおくれであろう。サイシンのディスクなら、ヒャクギガバイトブンつかえるから、まだダイジョウブかもしれない。しかし、いまはヒャクニジュウハチギガバイトのメモリがでているようだから、それがフキユウすると、メモリのちからである。しかしやっぱり、だれがかいさきえるかがハッテンのジョウケンであろう。パソコンにつかえるさしこみがたのメモリ

はベンリだ（あまりケイタイデンワでつかうひとはすくないようだが）。それとケイタイデンワにつかわれるメモリとのフタツがとりあえずハッテンするんだらう。

ヒャクななジュウヨン

わたしのわかいころは、からだをきたえていたので、なんでもできるとおもっていた。モチロン、うまい、へたはあつただらうが。しかし、ウンドウをせずとしがたつたからか、「なんでもできる。」とおもわなくなった。だから、あまりつかわないものを買ってもしょうがないとおもうようになった。また、ジカンはわたしにとってユウゲンだから、ダイジなことをダイジにしようとおもうようになった。ジュウなんだけど、ジュウじゃないというわけである。

いまおもえば「ジブンさがし（●ヒャクサン）」ブームは、ただわかものがケンコウだけじゃなくというきがする。なんでもできるから、「ジブンさがし」だったのだらう。しかし、そうジュウでも、「かね」がなけりやできないこともある。だから、かれらがめぐまれたセダイだったということもできるだらう。そういうわかものは、すくなくなってきたのではないだらうか。

ヒャクななジュウゴ

『アルカラカンガエル』で、「にが」のことをかいた（●ヒャクヨン）。あるシヨクブツにわたしがカッテにつけたなまえである。それをみずにいれて、そのヨウエキをのむ。ハッコウさせることもできる。「ハッコウ」というより「サンカ」かもしれない。「トウキ」をつかうとハッコウするとかいたが、ベツのジョウケンでジッケンしてみると、ミッブウしたトウキではサンカしなかった。そういうことだから、トウキをつかえば、ハッコウするというのはまちがいだ。タブン、ふたをしなかったからだらう。

ヒャクななジュウロク

キュウジュウネンダイに、ドヨウビをやすみにするというセイサクがおこなわれた。「セイショ」のキジュツにあるように、かみさまがシュウにムイカはたらいたのに、なんでニンゲンはイツカしかはたらかなくていいのかとおもう（●ヨンジュウなな）。ニホンジンは、はたらきすぎだとシテキをうけたともきいた。でも、そういいかえせなかったのだらうか。そうするとつとめにんは、そのひとのジカンのできる。そのジカンをどうすごすか。あそびにいたりすれば、かねをつかう。それを「シヨウヒ」とよぶのではないか。つまり、ニホンジンにシヨウヒをしてもらおうというコンタンだったかもしれない。はたらいていれば、かねをつかわないし、むしろ、キュウリヨウをもらえる。しかし、ジブンのジカンがあると、あそんだり「シヨウヒ」したりしてしまう。

そのころから、「ジブンさがし（●ヒャクナナジュウヨン）」などいわれはじめたかもし

れない。つまり、「ジブン」のジカンがふえたからだ。どうせ「ショウヒ」するだけかもしれない。いってみれば、ジブンのジカンができて、「ショウヒ」をハッケンするのだ。しかし、ショウヒをするのが「ジブン」だとはかんがえにくい。まるでやくたはずみだだからだ。だからナンコウする。「ニホンハナイジュをふやせ。」といわれていたようだから、まあ、それでナイジュはふえたのだろう。しかし、そのころをキテンに「ソウシツされたいくとし（●ヒャクヨンジュウニ）」のようにいわれるのではないか。キムジカンがタショウ「ソウシツされた」のだ。わたしはいまになって、それがわかった。しかし、ほかのセンシンコクでは、「ショウヒ」ばかりをしているのだろうか。そうではないとおもう。かしこく「ウンヨウ」しているのではないかとおもう。シュウキウふつかになってから、「シサンウンヨウ」のはなしをきいた。もっとも、ニホンジンは「バブル」でこりていたかもしれないが、コンピュータのハッタツにより、ジタクでやりとりできるようになってきた。そういう「あそび」のホウがいいのかもしれない。ネンキンをジブンでウンヨウするガッシュウコクのひとは、そういうジカンをとっているのではないか。はたらきすぎると、おこられるジダイである。かしこく「あそび」たいものだ。

ヒャクナナジュウナナ

まじめになにかをするということはいいことだ。しかし、いきなりヘンカがおそうとしたら、それはスリリングなドラマになる。ショウチュウガッコウをおえたら、コウコウ、ダイガクとすすんだり、すすませたり、すすんでくれればとおもったりする。それがわりと「フツウ」かもしれない。しかしである、「ヘンカ」がおそっているようにもおもえる。それはなにか。「エーアイ」である（●ヒャクロクジュウハチ）。

スウシキをおぼえてケイサンすることもできて、ブンショをかくこともできる。レキシのネンゴウをセイカクにこたえられ、ブンシのカガクシキもあらわせる。これは、「エーアイ」というコウコウセイのノウリョクである。それイジョウのこともできるだろう。そのコウコウセイとキョウソウしてかてるコウコウセイがどれだけいるか。タブン、そのエーアイがもっともいいセイセキでソツギョウして、もっともいいダイガクにすすみ、いいキギョウにシュウシヨクするのだろう。いまのところエーアイにドウタイはないから（あるのもあるかもしれない。）、タイイクだ、ショドウだ、ガッキエンソウは、ニンゲンのかちだろう。そういうエーアイがみぢかになりつつある。

ニンゲンのコウコウセイが、キョウソウにかてなかったらどうなるか。「くだる」のかもしれない。エーアイのめしつかいをやるということだ。それなら、コウコウにいかず、エーアイのセイビでもベンキョウするといいかもしれない。キョウソウにまけてもまなびたいだったら、コウコウにいくのもいいかもしれない。それでも、キギョウにはいったら、エーアイにつかわれるようになるだろう。エーアイのいうとおりにはたらかなければいけない。つまり、ニクタイロウドウするのが、ニンゲンのおもなしごとになる。それでもコウコウにいくのか。ロボットもギジュツもハッタツしているから、やがて、ニクタイロウドウもエーアイがやるようになるかもしれない。そうすると、シツギョウかもしれない。きびしいドラマだが、あまりこどもをもつおやはかんがえていないようだ。

エーアイセイビガッコウにいったホウがよいのはめにみえているようだが。キギョウっていうのは、やすく、いいロウドウリョクをつかおうとするから（みのまわりにチュウゴクセイがふえましたよね。）、まあまちがいなさそうなのです。

ヒャクななジュウハチ

どくどくしいタイドをだれかにとれば、それはだれかにハキユウするかもしれない。でも、それはかつてうけたどくどくしいタイドかもしれないし、そうでないかもしれない。トウダイもとくらしという。ジブンがとったであろうどくどくしいタイドはあまりおぼえていない。だが、それがそもそもだったりするだろう。としをとってそうおもう。ニホンジンはいまのきたチョウセンをせめるが、それはむかしのニホンのありかたにそっくりである（●ななジュウイチ、ヒャクヨンジュウイチ）。むかしのニホンのありかたは、まちがっていたというのだろうか。

ヒャクななジュウキユウ

リエキのあるところにひとはちかよっていこう。シュウシヨクさきをきめるときなどそうだろう。あかじがおおいカイシャには、うりあげのすくないカイシャには、あまりちかよっていかないだろう。しごとをしてジブンもリエキをえられにくいからだ。それがあたりまえと「リエキ」をツイキユウする。それだけでたしいのか。ヨーロッパのレキシをみると、ローマジダイからシュウキョウによるシハイがつよまった。おうはシュウキョウとむすびついてたとおもわれる。つまりおうはシンコウしてキョウカイとつきあっていた。しかし、ジュウジグンやシュウキョウカイカクをへて、キョウカイのちからはよわまった。それからヨーロッパのセンソウがおこるようになる。また、コクガイにシヨクミンチをもとめるうごきもカソクした。シヨクミンチは、シハイコクにとみをもたらすからだ。そうして「リエキ」によるシハイにイコウしていった。センソウといっても、ヘイにカネをはらってするものだから、おうのちからはシダイによわまっていった。ニホンもシヨクミンチをもつくとたたかたし、シヨクミンチをもとうとした。そのたたかいたのケツカ、シヨクミンチはジリツするようにもどった。そうして、リエキによるシハイをささえたひとつのホウホウがとりづらくなった。しかし、おおきなたかいたのハンセイというもある。もっとも、カクヘイキのハイビがセンソウや「リエキ」によるシハイをおわらせたともいえる。それをつかって、センソウやリエキのツイキユウをすると、すべてのチキユウジョウのブンメイがおわってしまうからだ。そうしたことから、いやいやかもしれないが、コッカにおける「リエキ」のシハイはおわった。かわりになにによってシハイされているのか。「リョウシン」によってシハイされつつあるようにもおもう。だから、キギョウが「リエキ」だけでうごくとしたら、ふるいレジームでケイエイしているということだ。「リエキ」がでるということは、どこかに「フリエキ」がでるということだ。トクにショウケンそうばなどはそうだ

ろう。そういうキジュンでやっていれば、かちまげができるから、トクベツいいとはいえないそうなのである。

ヒャクハチジュウ

ジブンのブンシンをソウサするあそび(コンピュータージョウで)がイチジウわさになった。いろいろなひとはなしやとりひきができたのではないかとおもう。そのうわさをきき、ある「ジョウホウ」をもって、サンニユウしようとおもった。そのジョウホウとは、「シ」のプログラムである。ジョウホウはしなない。だから、「シ」があるとリアルじゃないかと。それには、ホウテイシキのようなものがヒツヨウになる。タンジュンにランスウをえらんで(ランダムに)、トツゼンしぬばっかりじゃこまるだろうから。そのときかんがえたホウテイシキは、いまいちでサンニユウしなかった。

わたしがこどものころをおもいだしてみると、ロールプレイングゲームのかんがえかたがタンジュンだ。「タイリョク」というのがレイになったら、それでおわり。ただ、リアルにするなら、「タイリョク」のスウチをどうやってキテイしていくかがモンダイだ。むかしのわたしは、フトンでねればタイリョクがカイフクするとおもっていた。これはタブンロールプレイングゲームのエイキョウだ。ロールプレイングゲームでは、やどやでねるとタイリョクがカイフクするしくみになっていた。それはどうもリアルでない。めしをたべなきやよわってしまうだろう。だからショクジのヨウソはダイジだ。そうかんがえると(ケガなどはあるだろうが)、「ショクリョウ」によるスウチで、「シ」をキテイすることになるのだろう。

ヒャクハチジュウイチ

ものかきには、「インク」がヒツジュヒンである。いまだと、シンにつめたインクなどもうっている。むしろそれをつかうホウがタスウハだろうか。わたしもケイタイヨウには、そういうのをリョウしている。もっともわたしはダイガクにいくころからペンをつかいはじめた。ニヒャクエンでうられている、つかいすてのスイセイペンである。ユセイのものもあるが、わたしはかきごちのテンでスイセイのものがすきだ。

チュウガクセイのころに、ニセンエンほどするスイセイペンをかっした。そのかきごちがきにいった。しかし、それをインクぎれにさせたら、そのままほったらかしていた。シンをとりかえるというかんがえがなかったので、そのゴ、つかいすてのスイセイペンをつかうようになった。しかし、それもたびたびインクぎれをおこす。またかうおかねはあるのだが、すてるのはもったいない。それでかえシンをさがしはじめた。だが、ニヒャクエンのそれはみつからなかった。が、ニセンエンテイドしたスイセイペンのかえシンをみつけることができた。ユウジンやシンセキにもらったペンをしらべているうちに、かえシンがうられていることがわかった。ブンボウグやでてにはいることがわかった。イライ、そのシンのペンをつかっている。ユウジンやシンセキにありがとうとい

たい。おかげでたすかっています。

それからしばらくして、マンネンヒツをおもいだした。それもこどものころきについていた。しかし、つかうキカイがなかった。だがホンをかくようになったので、つかおうとおもった。インクはカートリッジシキのものもあるが、ペンをインクビンにつけてかいてみようとおもった。もちはこびにむかないが、いえでかくブンにはモンダイはない。ビンにはいったインクをかってきた。ちいさめのものだが、これひとつでいのところイッサツかけている。イチネンにイッサツのペースだから、イチネンもっている。

むかしのショキなんかは、どのくらいでつかいきったのだろう。インクビンはきりのいいおおきさであるはずだ。もし、ハントシとするなら、わたしはショカとしてはまだまだということだ。このままのわたしのペースだとイチネンにイッカイかいに行くようだ。

ヒャクハチジュウニ

なつがおわったというカンがあるクガツゲジュン、あるいていると、せみがないていることにきづいた。なつをおもわせるが、タイテイのひとはもうあきだというだろう。しかし、そんな「なつではなくてあきだ。」というくわけはおおまかにいてあてはまるけれども、こまかくいうと、ジキがゼンゴしたりする。それぞれのツゴウでうごくわけだから。「ニホンジンはワシヨクをたべる。」といっても、ヨウシヨクをたべるひともいるだろう。そういうタヨウセイをみると、なんだかいいとおもう。デジタルドケイのように、イチからニへとあるシュンカンにヒョウジがかわるのではなく、イチとニのあいだにまがあり、そのようにみれば、ゆっくりとかわっていく、そういうみかたがわたしはすきかもしれない。とはいえ、デンシャがテイジにこないとイライラしたりするのだが。

ヒャクハチジュウサン

ハチジュウネンダイにハツバイされたテレビゲームのカートリッジは、よみだしヨウのキロクブヒンがイチメガバイトがせいぜいだった（●ヒャクナナジュウサン）。タンジュンなものだと、ゴジュツキロバイトとかである。それにくらべていまのゲームは、ギガバイトクラスのよみだしヨウキロクブヒンをつかっているとおもわれる（たしかめていない）。イチメガバイトのゲームとイチギガバイトのゲームでは、ゲームのジョウホウリョウがセンバイちがう。そのセンバイで、タブンガシツをあげたのだろう。センバイおもしろくなったとか、ヒャクバイジカンがかかるとはきかないからである。オンガクにもヨウリョウをつかっているだろう。つくるホウからすれば、センバイつくるのにジカンがかかるとはきかない。モチロン、コンピュータによるコウリツカはしているだろう。しかし、ねだんがセンバイになったともきかない。せいぜいハチジュウネンダイのゲームキノカートリッジとおなじか、ニバイくらいだろう。それならもうけはセンブンのイチとか、ゴヒャクブンのイチになるはずだ。

しかし、もうからないから、ゲームをつくらなくなったとはきかない。そこそこもうか

るのだろう。じゃあハチジュウネンダイのゲームキのときなんて、センバイとかゴビヤクバイもうかったんじゃないですか。ではあるが、キロクブヒンがトウジはサイセンタンのものをつかっていたので、それにケツコウかねがかかったはずだ。

いってみれば、ハチジュウネンダイのゲームキをやっていたこどもは、ゲームやのもうけとハンドウタイやのもうけ、そしてそれらのカイハツソクシンに「トウシ」していたことになる。だから、いまごろ、ハンドウタイプヒンがやすくかえるわけだ。それでわたしなんかはたすかっている。もっとも、ニホンのハンドウタイやはすくなくなっているが。それはともかく、センバイのロウリヨクをかけて、もうけがかわらないのではちょっとかんがえてしまう。センバイはたらいても、もうけはかわらないというのは、きびしいが、キョウクンかもしれない。そういうジョウキョウがあるから、「カロウシ」がモンダイになるのだろう。しかし、かせぎすぎてそうなったのなら、ジゴウジトクであろう。「テレビ」というセイヒンやそのカンレンサービスもにたようなメンがある。

テレビはブラウンカンをつかっていたものと、レイネンダイにではじめたものをくらべると、ヤクななバイのこまかさになった。それだけジョウホウリヨウがふえたということだ。いまでは、さらにヨンバイ、ハチバイにしようとしている。そうすると、「え」とどけるホウとしては、ななバイのこまかさがヨウキユウされる。ちいさいごみやほこりがうつりこんでしまったら、それはななバイのおおきさでヒョウジされるのである。だから、サツエイチのソウジがかかせないようにするとおもわれる。それでリエキはやっぱりかわらないのだろう。またカロウシみたいなモンダイがおこるのではないか。そのテン、しろうとドウガはキラクである。でもそっちのホウが、ヘンにつくりこまないブン、ジツブツにちかいとなるだろう。

ヒヤクハチジュウヨン

なぜタイヨウのまわりをワクセイがまわるか。それは、コウセイをチュウシンにまるでうずをまくようにならからがはたらいているからだろう。わたしはそれをうずまきリヨクとよぶ（●アヒヤクロクジュウサン、●む ハチジュウハチ）。

そして、コウセイがもえさからなくなったらどうなるか。まず、コウセイからはなたれるブッシツ（たとえばスイソなど。「ひかり」といったホウがわかりやすいかもしれない。）がはなたれなくなる。すると、そのブッシツによってたもたれていたコウセイとワクセイとのキヨリがちぢまる。ニホンのウチュウケンキユウキカンがセイゾウしたエンジンのゲンリをかんがえれば、「ひかり」で、なにかものをスイシンさせたりすることはカノウということがわかるだろう。そしてやがてコウセイにのまれてしまう（それをブラックホールというようだが。）。

そのあとどうなるか。もし、あるケイトウをカイリヨウしたホウがいいとなると、これはシュギ、シュチョウがわかるだろうが、それまではなっていたエネルギー、ブッシツをすべてカイシュウして（うずまきリヨクをつかえばカノウだ。）またもえるではないか。むかしのオウベイジンだろうか、しぬことを「テンにめされる。」といった。これはどういうことか。これは、コウセイのもとへいってネンリヨウになるということでない

か。そうすれば、のこされたひとたちには、ヘイワが（いつもどおり）ケイショウされるのである。

アングアイ、「カガク」がハッテンしたというゲンダイのホウがそういうメンににぶいかもしれない。でも、「リセット」されそうになったら、タイヨウケイのそとにげるというのもわかるはなしだ。ウチュウセンでベツのケイトウににげれば、あるワクセイでハッタツした「ニンゲン」もいきのびるだろう。だが、それをダイダイテキにやったケツカ、「ニンゲン」がハッセイしたケイトウが「サイセイフノウ」になるのは、ただしいかというとむずかしい。たしかにセツカク、シンカしたのだからである。でも、そういうリセットはたびたびおこっているようにおもわれる。だから「ウチュウ」がひろがっているというのは、みているわたしたちのセイゾンへのキボウがひろがっているだけのこともしれない。ウチュウもやはり、ブッシツをカイシュウしようとするわけだろうから。

ヒャクハチジュウゴ

「イチオクソウひのたま」ということばがある。これはひどいことばだとおもったりもしたが、ニンゲンはやがて（タイヨウの）ネンリョウになるということ（●ヒャクハチジュウヨン）をかながえれば、それはただしい。わたしがきらったように、ふるいことばをかるんじると、それがゆえにとおまわりするかもしれない。『ヘイケものがたり』のイツセツなんて、まったくとおもうのである。いまはウチュウセンでにげるてもあるが。

ヒャクハチジュウロク

わたしはゼイタクがすきだったが、オヤジもおふくろもシツソだった。ガイショクに行くことは、わたしがもとめたときイガイしなかった。サイゴのそろってのガイショクは、そばやでたべたときだ。テンプラそばでもたべたかとおもう。ボサンにいて、かえりにたべていこうでそうなった。もっとも、わたしがそのきでなかったら、いえでたべていたとおもう。

オヤジは、のみあるくこともほとんどなかった。なんでも、いえでのむのがすきだといっていた。わたしもそのきもちがタショウなりともわかってきた。でもたまにバーにいきたいなどとおもってしまう。ガヤガヤしたかんじもきらいでないのだ。しかし、ほとんどいえでのんでいる。オヤジやおふくろのようなひとたちが、センゴのニホンをささえたのだとおもうと、なるほどとおもう。

ヒャクハチジュウなな

イゼンはショクタクのうえに「おしんこ」がかならずとはいわないが、のっていた。サイキン、わたしはそういうコウケイをみない。といっても、わたしか、おふくろがのつけるかどうかのはなしなのだが、ちかごろになってあるといいなあとおもう。やはり、なじんだショクブンカというのは、そのゴのシュミというか、シコウにエイキョウをおよぼ

すのだろう。むかしをなつかしむのもいいが、つくるなり、うっているのだから、かってきてたべればいい。そのうちつくろうとはおもうが、それはいつなのだともおもう。かってきてもいいのだが、わりだかとかんじてしまう。おふくろもそうだが、オヤジもつくっていた。すこしずつ、バージョンアップしていたとおもう。タンジュンにやるか、やらないかだ。

ヒャクハチジュウハチ

ハチジュウネンダイのころまでは、ニホンではニヒャクゴジュウミリリットルテイドのほそながいカン（ジュースなどにつかわれるものだ。）がシュリユウだった。ビールはビールで、ビンビールがシュリユウだったとおもう。ジュースならそれでヒャクエン。ところが、ショウヒゼイのドウニユウがさきだったか、ねあげがさきだったか、あまりおぼえていないが、ヒャクジュウエンだか、ヒャクニジュウエンになった。

そのころカイガイでは、サンビャクゴジュウミリリットルのジュースがうられていた。どっちがいいのかだが（まあ、おおくのめるから、サンビャクゴジュウミリリットルのホウがいいのか）、ねあげするころには、サンビャクゴジュウミリリットルのカンジュースがうられはじめた。ゾウリョウのはばが、ジュッパーセントやニジュッパーセントではないから（カンのおおきさのサはヨンジュッパーセントである。）セイゾウシャは、リギヤがへっただろう。ビールもカンでうられることがおおくなった。

いまはさらにショウヒゼイゾウガクでヒャクサンジュウエンにおちついたが、あまりサンビャクゴジュウミリリットルのカンジュースはみられなくなった。かわりに、ニヒャクミリリットルテイドのコーヒーとかゴヒャクミリリットルのおちゃやジュースである。ニホンジンがイチドにのむリョウがかわったのだろうか。

キュウジュウネンダイのはじめのころ、コンビニでカップをかって、そのヨウリョウだけすきなのみものをいれてのめるというサービスがあったが、タンサンインリョウをイチリットルもそうそうのめるものではない。すぐにそのサービスはシュウリョウになってしまった。いまでは、それにつかわれていたようなキカイをつかってレストランで、のみホウダイサービスをやっているが、タンサンインリョウはえられなくなったのかもしれない。

ヒャクハチジュウキュウ

ジュウガツとおかは「タイイクのひ」だった。「だった」というのは、そのシュウのゼンゴにキュウジツがずれこむからである。ことしは、ここのがやすみになった。しかし、タイイクのひといってもあまりジツカンがない。わたしがショウガクセイのころは、それぐらいのジキにウンドウカイをやっていた。しかし、わたしがチュウガクセイになったくらいから、はるにウンドウカイをやるようになったような気がする。タイイクのひが、かるんじられるようになったわけだ。

わたしはどちらかという、こどものころは、ベンガクよりウンドウハであった。はったり、およいだりするのがトクイだった。しかし、チュウガクセイになると、ガクギョウ

のでき、ヘンサチがはかられるようになった。そして、それがたかいことをショウサンするようなジョウキョウになっていった（わたしのうちでは、かもしれない）。ウンドウよりベンガクというようである。いまかんがえると、「タイイク」のヘンサチがあってもいいだろうけど、そういうキロクはみあたらなかった。あるドウキョウセイは、タイイクハだったが、ベンガクにもいそしむようになった（タブン）。しかし、わたしは、ベンガクにいそしめなかった。はなしはわかるけど、それをやるかどうかはベツのモンダイだというわけである。タイイクハ、またタイイクのひをもりあげるのは、いまのわたしにはむずかしいとおもわれる。サイキンプルにイッカイいったきりというありさまであるから。

ヒャクキョウジュウ

わたしはステーキがすきだが、なかなかのねだんがするところが、たべるハンダンをヨウイにさせないテンである。やすくても（セットで）センエンくらいだが、ゴヒャクエンというところがあった。このジョウホウがしれわたると、そこにキヤクがサットウするというシンパイがあるが、ジツはカイガイなのでタブンモンダイはない。それもセットである。ニホンはブッカがさがっているから、むしろブッカをあげようというが、それはこのようなゲキやすステーキをタッセイしてからにしてみたい。

ニホンはブッカがたかいですよとサイキンきかなくなった。かわりに「ブッカ」をあげるである。たしかにブッカをあげると、ロウドウシャはうるおうが、しごとでつくったショウヒンがうれなくなったらそうとはかぎらない。サンビャクゴジュウミリリットルのジュースにしたって、ニホンではヒャクサンジュウエンするところをカイガイではハチジュウエンでうっていたりする。だからまだまだなのだ。それでタンジュンにリエキをだそうとかがえれば、ユニウするわけだ。ブッカをあげれば、とみがカイガイにでていくのではないか。

ヒャクキョウジュウイチ

ジブンのみちをいくことはむずかしい。わたしがわかいときは、そんなことはかんがえなかった。そんなことないだろう。カンタンだ。というひともいるかもしれない。すきなようにうごけばよいと。そんなことをいうひとは、なやみもビョウキもシツギョウもないのだろう。「なやみ」のないように、「ビョウキ」のないように、「シツギョウ」のないように、うごけばいいのだからと。しかし、よのなかの「なやみ」がなくなったとはきかないし、「ビョウキ」や「シツギョウ」もなくなったとはきかない。そんなにニンゲンやシャカイはカンタンではないのだ。

きまったジカンにイッセイにツウキンしていれば、「おなじような」ひとにであう。なにかあったら、「おなじような」ひと、ドウシにソウダンもできるだろう。そういうチョウシで、「みんな」のやっていることをすれば、そのコストはやすくなる。モンダイのカイ

ケツにかかるコストが、「よくある」ゆえにひくくなる。それなら、みんなカイシャインをやればいだろうとなるが、そうもいかないのだろう。でも、「カクゴ」がないのだったら、「ジブン」のみちをあるくことは、やめたホウがいいかもしれない。たかくつくからだ。

ヒャクキュウジュウサン

ガツキというシュミがわたしにはあるが、おかねがかかってたまらない。こりだすと、のはなしではあるが。それに比べて、ホンをかくのは、かみとペンがあればできる（もっと言うと、パソコンとインサツキとセイホンキであろうか。）。そんなにおかねのかからないシュミだとおもう。むかしのひともやはりホンをかいたのだろうが、ガクシキのあるひとにかぎられていたかもしれない。

では、ショミンはどうしていたか。あつまってはなしをしていたかもしれない。いえでおやとはなしでばかりいてもだから、ケツコンもするだろう。いまのように、テレビやパソコンはないのである。ひとりでくらしていても、いまならさびしくないかもしれない。そういうドウグがそろっている。だから、テレビやパソコンをイシキテキにつかわないというセンタクシもあるかもしれない。それならシャコウテキにもなるだろうし、ケツコンもするだろう。

ヒャクキュウジュウヨン

わたしはわかいころ、はげしい、コセイテキなオンガクばかりきいていた。その「コセイテキ」なシュミをだれかとわかちあうことはむずかしい。たまにもなくもないが、わりあいとしては、ほんのショウスウだ。だからかどうか、よくきくオンガクが、タイシュウむけのものになっていった。コセイテキなシュミもいいが、（だれかにメイワクをかけないかぎり）、イッパンテキなシュミのホウがひととはなせる。「コセイテキな」ロウドウシャでは、ショクバでこまってしまうが、いろいろないみのある「シュミ」ではなく、「コセイテキな」カイゼンにつよいと、しごともうまくいくかもしれない。「コセイテキ」とはよくいわれるが、いろいろなヨウソのある「シュミ」ではなく、「カイゼン」というホウコウにしぼるのだ。それだと、しごともうまくいくかもしれない。

ヒャクキュウジュウゴ

わたしは、（キギョウがハッコウする）かぶにエンがないが、それをとりひきすることをソウゾウしてみた。マイニチゴパーセントずつふやしていけば（そういうメイガラはすくないだろうが。）、ジュウゴニチでシキンがニバイになる。イチマンエンからはじめたら、ニマンエンになる。そのヨウリョウでつづくと、ヒャクヨンジュウサンニチメには、イッセンマンエンをこえる。そうやってかせぐひともいるのかとナツトクである。それをジミチにやっていたら、もとでがなくてもかねもちになれるわけだ。

たしかに、イチニチでえられるバイリツは、ケイバやパチンコよりもすくない。よくてジューパーセントだからだ。しかし、それをまめにやっていたら、かねをかせげるのであろう（やったことがないのでわからない）。ただイチニチじゅう（たかがゴジカンだが）、ガメンにむきあっているのはつらいかもしれない。しかし、そうやってまめにやったひとが、「トウシでかせげる」などとホンをだすのであろう。よんだホウは、それだけこまめにできるかはわからない。わたしもそういうこまかいサギョウはすきだが、いまのところそれをやろうとはおもわない。ほかのことをしたいとおもっている。

ヒャクキュウジュウロク

ニホンでは、かぶなどでかせいだひとは、あまりほめられないのではないか。それはそうだというきがする。それはかぶのとりひきは、ギャンブルのヨウソがあるからである。エーさんが、ヨンヒャクエンのかぶをロツピャクエンになったときにうったら、エーさんはニヒャクエンもうかる。しかし、ビーサンがヨンヒャクエンのかぶをロツピャクエンになったときにかえば、ニヒャクエンのあかじである。そうやって、かせぐひとと、かねをはらうひとがいるわけだ。それはケイバとかわからない。ただ、かけキンにタイするリターンが、ケイバはサンわりとかゴわりとかをジギョウシュタイにぬかれるのにタイして、かぶはテスウリョウやゼイキンをわずかにぬかれるにすぎない。また、イチニチでニバイジョウリターンをえられるかという、かぶではメツタにない。そういうサはあるがまけるひとがいるというテンで、ギャンブルとおなじなのである。そういうショウブをしごととしているひとは、ヒョウカがひくいのであろう。おもしろいゲームだとはおもうが、つよいひとがかつのであろう。しかし、それはだれかの「まけ」によってささえられている。

ヒャクキュウジュウなな

ショウギでニンゲンとジンコウチノウがタイケツすることがある。ジンコウチノウはつよいという。たしかに、わたしもテレビゲームのショウギにかてなかったことがあった。しかし、ショウギではそういうはなしをきくが、マージャンではきかない。どうしてだろう。マージャンははじめのもちふだと、ふだのひきがショウブをわけることがある。つまり、ウンにサユウされることがショウギとくらべておおい。そういうゲームでは、ジンコウチノウはカツヤクしにくいのもかもしれない。ヘンないかたをすれば、ジンコウチノウがイライラするのが（ジツサイにはしないだろう）、ウンのわるさというわけだ。ジンコウチノウにかちたかったら、「ウン」をみかたにつけるといいだろう。

ヒャクキュウジュウキュウ

おいしいハンバーガーをジブンでつくって、たべて、「サンピャクエンもうけた。」というひとはあまりいないであろう。このレイでは、つくったひとは、ハンバーガーやのテ

ンインではない。このハンバーガーのシジョウカカクは、シジョウをみればダイタイスイソクできる。しかし、コストがかかるので、ショウテンドウヨウに、(ジブンに)サンビャクエンをうりあげたともいえる。ヒヨウをひかないと、リエキはケイサンできない。にくがヒャクエンで、パンがゴジュウエンだったら、そのたのヒヨウをひいて、たとえばリエキがヒャクエンだったりする。リエキがでるなら、ジブンでつくったホウがいい。だが、よりおおくのリエキをえるためにあきらめるやりかたもある(カイシャインをしているばあいなどだ。カイシャからえるおかねがおおきければ、わざわざこまかいリエキをジブンでだすヒツヨウはないということだ。)ジブンでかせぐなら、たとえばホンづくり。シュッパンすると、かりにゴジュウマンエンかかったとする。しかし、それはギョウシャにたのんでのカカクだ。ジブンでつくったばあいにサンジュウマンエンですませられるのなら、ニジュウマンエンのリエキとなるから、ほかにわりのよいしごとをもっていないのなら、ジブンでつくるべきだろう。

ジブンのみのまわりのかいものには、あまりソントクをかんがえないものだが(そのしなものたかい、やすいはベツである。)、こうやって、ジブンからのジュヨウもケイサンして、かせぐことができる。あるサービスのカカクは、そのしごとをガイチュウしたら、いくらかというキンガクでカクニンできる。ネンカンとおしてそのゴウケイをケイサンしたガクが、あなたのセイサンガクである。そのセイサンガクのホウが、あなたのキュウリヨウよりもひくいのなら、あなたはキュウリヨウブンはたらいっていないことになる。セイサンセイをあげるといのは、ジュウヨウなカダイであるが、いまいちケイサンがしづらい。でも、シジョウカカクをみれば、それはケイサンできるのである。このケイサンホウをジュヨウキジュンホウとよぶことにする。

ニヒャク

「ジブンなりにかんがえる」とかいたりする。これは「ジブン」がほかのイケンにとらわれずに、「かんがえる」ということである。しかし、それはしなくてもいいのかもしれない。「かんがえる」とは、「カン(チョッカン)」があつて、それを「かえる」ことだろうからである(●むヨンジュウイチ)。つまり、「カイカク」にちかい。カイカクをしたきや、かんがえるのもいいが、カイカクをしなくてもいいことはある。もっというと、「かんがえる」かぎり、カイカクがあるということである。カイカクがおこなわれるということは、なにかのイドウがしようじる。だから、わかいひとにはカイカク(かんがえる)はいいかもしれない。タイリヨクがあるからだ。もっというと、としよりは、カイカク(かんがえる)をきらうだろう。よいカイカクはタイリヨクショウブといえそうだ。

ニヒャクイチ

ニジュウヨジカンソウギョウの Kouジョウがあるのに、なぜニジュウヨジカンガッコウがないか（●むヨンジウサン）。Kouジョウはノウキをはやめるため、Kouリツテキにキカイをつかうためにそうしているだろう。Kouリツをもちだすなら、キョウイクにもドウニュウしてもよさそうだ。ななサイでニュウガクしたショウガッコウをサンブンのニのキカンでソツギョウさせて、ジュウイツサイでチュウガッコウに、そしてジュウニサイでソツギョウさせ、ジュウサンサイでKouコウに、ジュウゴサイでダイガクに、そうするとジュウハツサイからしごとをはじめられる。ゼンインがそうするヒツヨウはないが、ロウドウリョクがふえるのではないだろうか。

ニヒャクニ

どうも、ケイザイモンダイというと、カクサやそのシャカイコウゾウがモンダイにされているかもしれない。カクサがないホウがビョウドウのようだから、そのホウがよいというのは、あるテイドわかるはなしだ。しかし、ひとびとをビョウドウにしてシッパイしたのがソレンではなかったか。それは、はたらいでも、はたらいでも、ビョウドウだから、はたらくきのあるひとが、やるきをなくしてしまったというケツカおこったといわれる。それなら、ビョウドウではいけないはずだ。ソレンがシュウリョウしてまだサンジュウネンたたないのに、それをわすれてしまったかといいたい。

もっとも、わかいこなんかは、ソレンのことをしらないから、ビョウドウのホウがいいといってしまうかもしれない。しかし、やはりケツカはおなじようなものだろう。むかしはこういうことをカクメイといった。それをわすれたであるまい。カクサというのは、ドリョクのリョウとシツのちがい、セイカのちがいといえば、みとめられるのではないか。タブン、かねもちがまっとうにかせぎつづけたために、ケツカとしてかねもちになったわけで、そういうケイイをムシして、ビョウドウにブンパイしようとおもうと、フコウヘイがショウズル。それより、まじめにはたらいで、かねもちになれるというモデルがあったホウが、ケンゼンだとおもうのである。ただ、ケイザイキョウソウがあって、セイコウするひとと、おちぶれるひとがでる。そこのところをきびしいキョウソウにするのではなく、おたがいがケイイをはらうカンケイにすれば、カクサのはげしさがへっていくのではないだろうか。ただ、これは、「イショクたつて（たりて）エイジョク（ハンエイとはじ）をしる。」というモンダイもはらんでいるから、チュウサンカイキウイ

ジョウのかんがえかたであろう。しかし、セイフのやくめのひとつは、とみのサイブンパイであるとかんがえ、ジッコウできれば、うまくいくのではないか。

ニヒャクサン

むかしは、ひとのあつまるところには、みずのみばがあった。それはそうだ。ひとがいれば、のどもかわくであろうから、わかるしごとだ。しかし、サイキンはそういうものをあまりみないきがする。かわりにジドウハンバイキがおいてあるようなきがする。つまり、のどがかわいたら、こぜにをだして、のみものをかってくださいと。わたしはジドウハンバイキでのみものをかうのがすきだから、あまりきにならなかったが、やっぱりそういうしごとでもダイジだとおもう。

ニヒャクヨン

セツチョ、『アルクカラカンガエル』で、「ジミントウタイシツ」のはなしをした（●アヒャクロクジュウロク）。それは、ガッシュウコクセイのこむぎやニクをたべつつ、コクサンノウサンブツをたべるひとのこただ。そういうひとがおおくなったとおもわれるから、コベツのことだけでなく、シャカイのこともいえるだろう。このイッポウで、キンネンチュウゴクからのユニウもふえている。それなら、キョウサントウタイシツというのものもあるかもしれない。つまり、チュウゴクサンのヤサイやにくをたべつつ、コクサンのたべものをたべるというありかたである。もっとすごいひとは、ジ（ミントウ）キョウ（サントウ）ゴウベンタイシツかもしれない。ガッシュウコクサンのショクリョウと、チュウゴクサンのショクリョウ、そしてコクサンのショクリョウをたべるありかたである。このいずれかといずれかがもめれば、タイヘンだとはおもうが（キンクもある。）、まあ、いまのところではある。あらそいはじめたら、マテリアルのブンダンにより、コジブンダンがありうる。ジミントウタイシツのひともいるし、キョウサントウタイシツのひともいる。だから、シャカイブンダンもありうる。むかしはイデオロギーロンソウがあったようだが、いまは、「もの」のモンダイだ。「はなし」であればごまかせるが、「もの」はごまかせない。これらのテンについて、ニホンジンがチョウワするホウホウをみつけなければならないのだ。

ニヒャクゴ

「いじめ」はたびたびおこっているようである。おこらないホウがいいだろうが、おこってしまうようだ。カンケイシャがなにかタイサクをたてるのだろう。エイゴでいうと、「アビューズ」か、「リンチ」なんていうことばをおもいだしたが、フツウはそんなところか。「クーデター」ではどうだろう。これだとつよいものがヒョウテキになっているカンがある。あいてがつよいものなら、クーデターで、よわいものならアビューズか。そうかんがえると、いじめにもシュルイがありそうである。「アビューズ」はタンタンとおこなわれて、「クーデター」はヨウイシュウトウにおこなわれるようにおもわれる。こういう

ことがおこるジョウキョウでイチバントクをするのはだれか。よくもわるくもないチュウケンのひとつだろう。セイジもゾウゼイかゲンゼイかでいつももめている。あまりエイキョウがないのがチュウカンソウだ。そういうトクをなんとかしようとおもって、チュウカンソウにもゼイをかすようになったのかもしれない。

あとがき

ゼンチョ『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』をかきおえてからイチネンになる。コンカイはブンリョウをふやしたが、やはり、イチネンでイッサクのはやさらしい。サンネンたってみてサンサツだ。

サイキンのわたしは、かたいブンショウをよみにくくなっているのではとかんじる。わたしがかいているホンが、やわらかいからであろう。ロンリコウセイなどはあまりかんがえていない。また、カナガナブン（ひらがなとカタカナのコンゴウブン）もカクスウのおおいジをつかわない。こういったリユウで、ロンリヤカンジをおもんじるホンをよみづらくなっているとおもう。このことから、もっといってしまえば、サンネンカンカンジにふれなければ、やがてよみづらく、そして、よめなくなってしまうのだろうとおもう。メイジ、タイショウキにカンジをタヨウしたブンがみられていても、センゴになるとカンジのカクスウやブンリョウがへってしまう。センソウチュウのコンランをたてなおすために、そうしたのかもしれない。そのホウがカンタンだからだ。そういったハイケイもあって、マンガもシジをえたのかもしれない。だから、カンジをダイジにというのはキョウイクシャだろう。わたしはチャレンジャーなので、カンジぬきでもヒョウゲンができるということすすめていきたい。

ニセンジュウななネン ジュウイチガツ ニジュウヨッカ ふゆのはじまりにて。

よろこぶゲンシジン

エイゾウ

ニセンジュウハチネンサンガツサンジュウニチ

ニセンニジュウネンゴガツニジュウロクニチ

iii toga db003-2

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

<http://eizo09.com>

『よろこぶゲンシジン』

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
